
下野市男女共同参画プラン策定に係る
市民アンケート集計結果報告書(平成 18 年度)

平成 19 年 3 月

下 野 市

目次

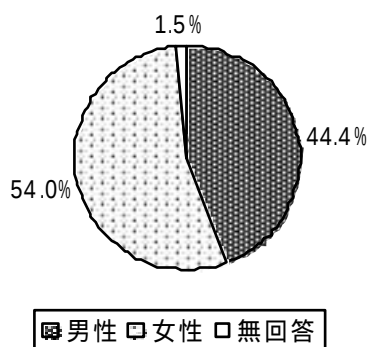
調査の概要.....	1
調査内容.....	1
調査結果.....	4
A 就労について.....	4
B 生活全般について.....	26
C 男女が安心して健康に暮らせる環境.....	45
D 男女共同参画に対する意識.....	55
E 市（行政）に要望する施策.....	64
F 自由回答.....	78

調査の概要

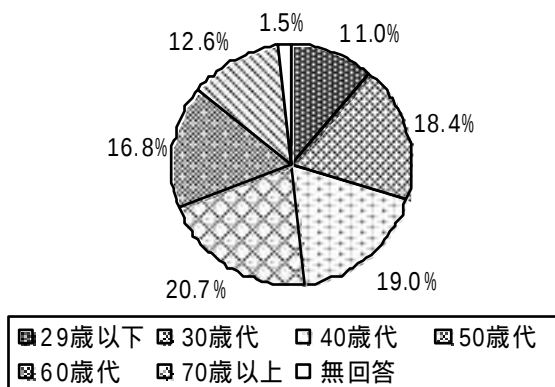
調査内容

- 調査対象
18 歳以上の下野市民 2,000 人（男性 1,000 人、女性 1,000 人）
- 調査方法
郵送による配布・回収
- 調査期間
平成 19 年 1 月 19 日から平成 19 年 2 月 5 日
- 回収状況
配布数 2,000 回収票数 779 回収率 39.0%
- 調査票の見かた
 - 回答結果について、比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、パーセントの合計が 100%にならないこともある。
 - 基数となるべき実数は、n として掲載した。すべての比率は n を 100%として算出している。
 - 複数回答が可能な設問では、比率算出の基数を回答者数とし、その項目を選択した人の回答者数に対する比率を算出している。
- 回答者の属性

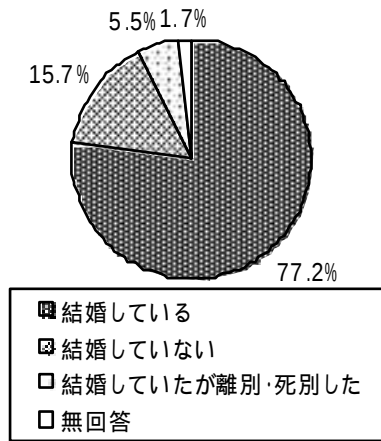
性別(n=779)



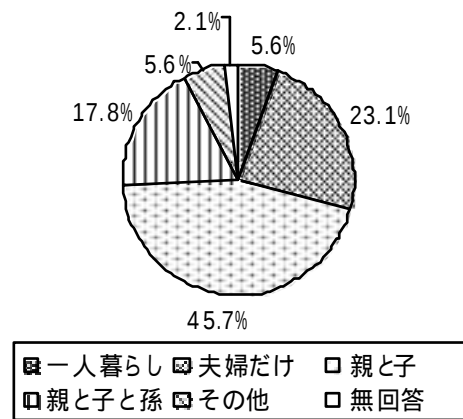
年齢(n=779)



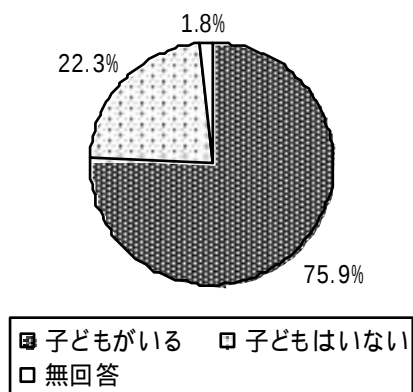
結婚の有無(n=779)



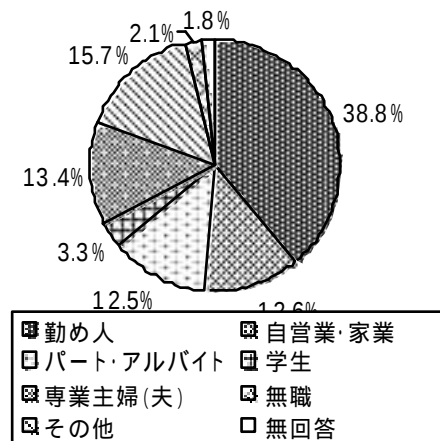
家族構成(n=779)



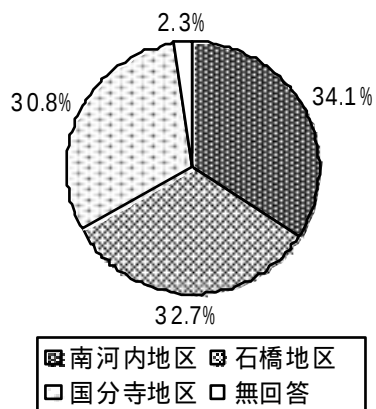
子どもの有無(n=779)



職業(n=779)



居住地区(n=779)



・ 調査項目

A 就労について

- 問 1 仕事への従事
- 問 2 女性が仕事を持つことに対する考え方
- 問 3 女性の能力発揮のための環境づくり

B 生活全般について

- 問 4 家庭における家事の役割分担
- 問 5 子どもの育て方についての考え
- 問 6 子育てにおける父親と母親の違い
- 問 7 育児休業・介護休業の取得
- 問 8 男性、女性ともに家事等に参加するための環境づくり

C 男女が安心して健康に暮らせる環境

- 問 9 ドメスティック・バイオレンス（DV）の認識
- 問 10 ドメスティック・バイオレンスの経験等
- 問 11 ドメスティック・バイオレンス防止のための取り組み

D 男女共同参画に対する意識

- 問 12 「夫は働き、妻は家庭」という考え方に対する考え
- 問 13 男女共同参画に関わる言葉等の認知度

E 市（行政）に要望する施策

- 問 14 市に相談したいこと
- 問 15 男女共同参画社会形成のため市（行政）のすべきこと

F 属性

- 問 16 性別
- 問 17 年齢
- 問 18 結婚の有無
- 問 19 家族構成
- 問 20 子どもの有無
- 問 21 職業
- 問 22 居住地区

G 自由回答

調査結果

A 就労について

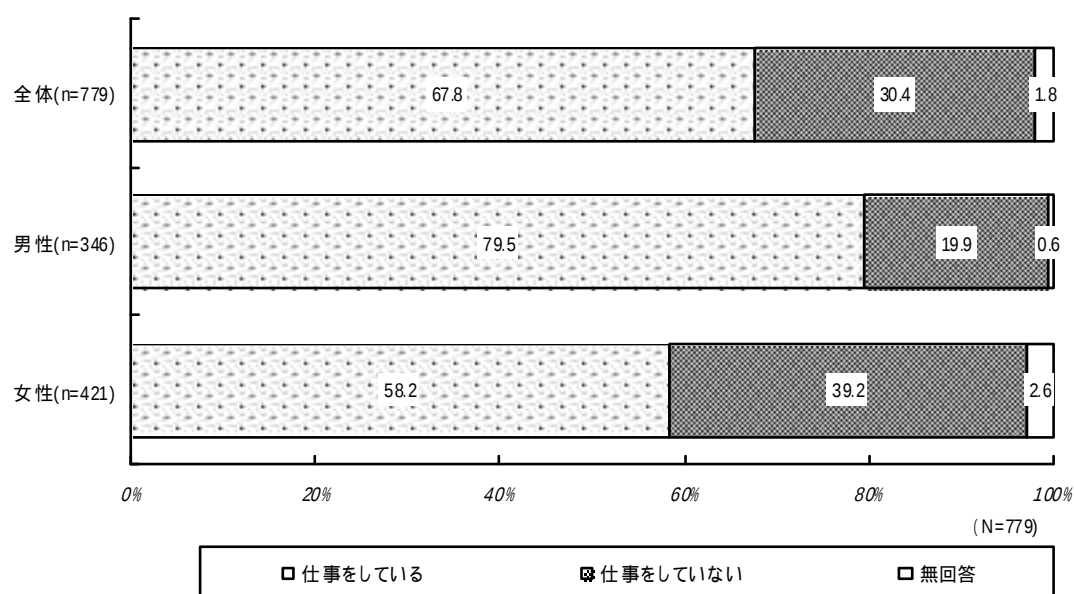
問1 仕事への従事

現在、何らかの仕事をしているかという質問に対して、67.8%の回答者が「仕事をしている」と回答している。男女別にみると、男性は8割近い回答者が「仕事をしている」と回答している。一方で女性は6割弱に留まっており、男性と女性の違いが読み取れる。

問1 あなたは現在、何らかの仕事をしていますか。

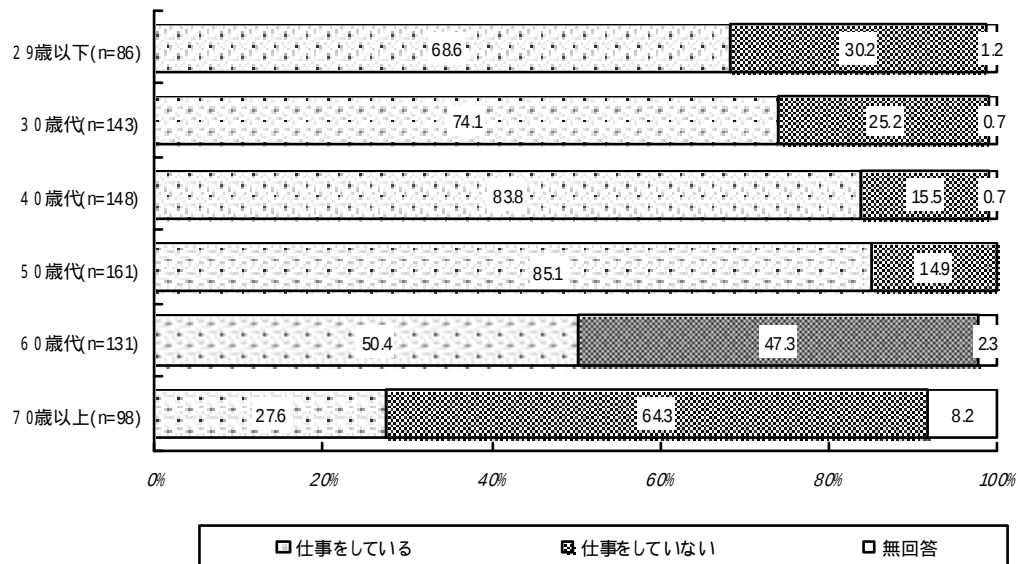
男女にかかわらず、回答者の皆さま全員がお答えください。また、病気や出産、育児などで現在一時休業している場合も、仕事をしているものとしてお答えください。

図1 仕事への従事



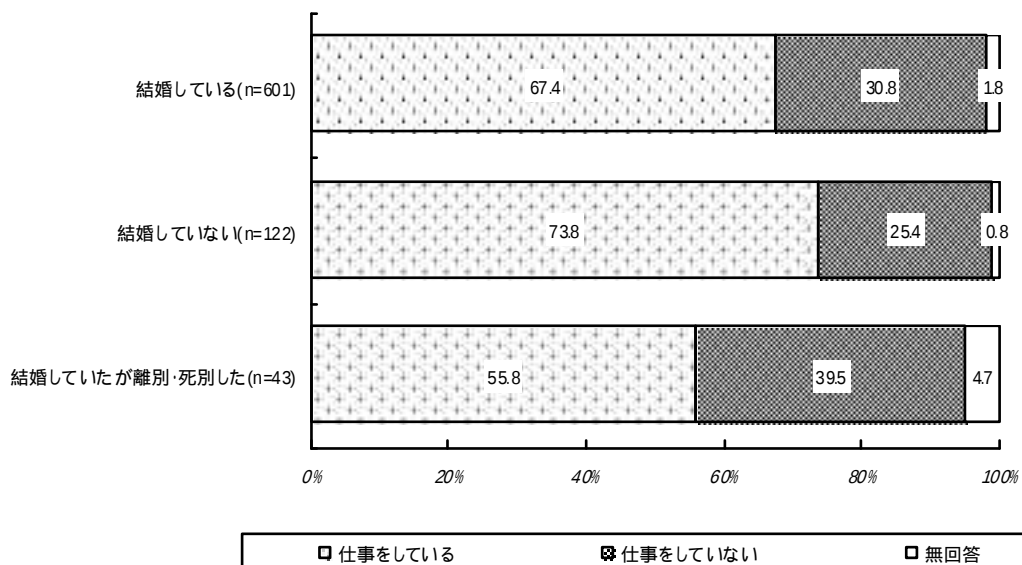
年齢別にみると、50歳代までは年齢が高くなるにつれ、仕事をしている割合も高くなっている。

図 1(1) 仕事への従事（年齢別）



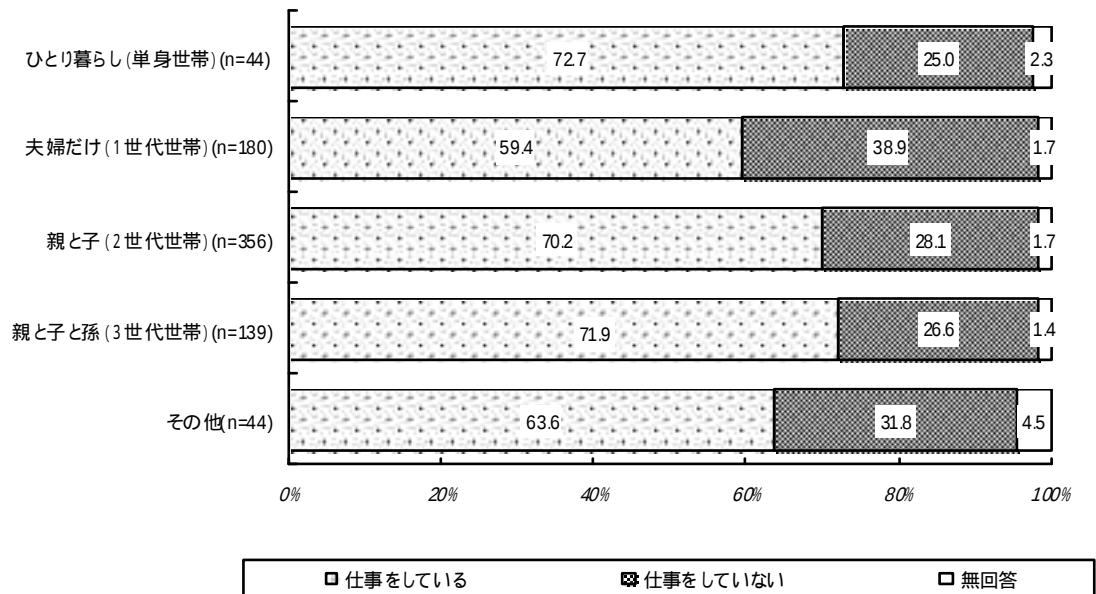
結婚の有無別にみると、結婚していない回答者は仕事に従事している割合が 73.8%と高く、結婚している場合に比して 5 ポイント程度の差がみられる。

図 1(2) 仕事への従事（結婚の有無別）



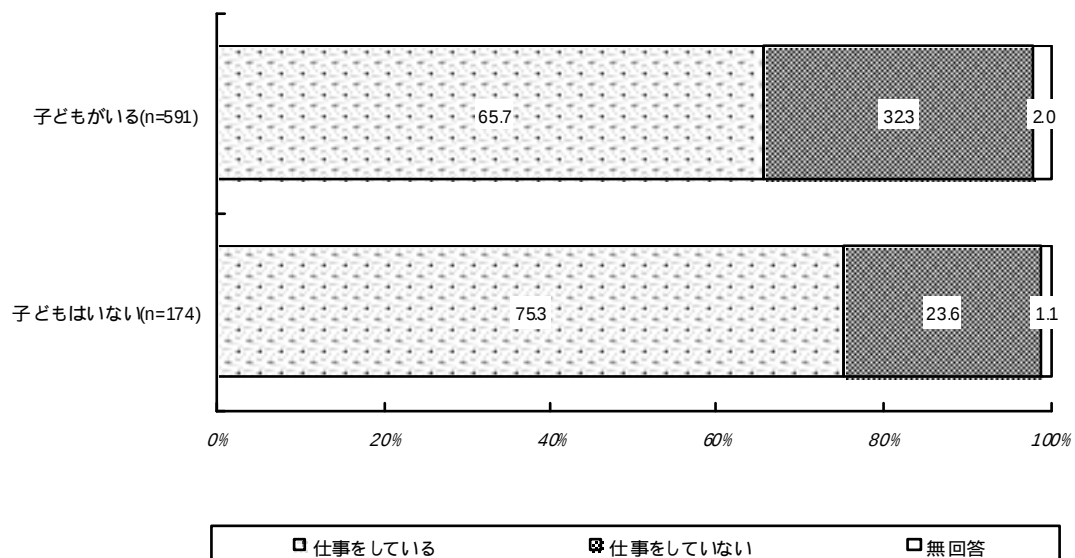
家族構成別にみると、1世代世帯では「仕事をしていない」が38.9%と最も高くなっている。

図 1(3) 仕事への従事（家族構成別）



子どもの有無別にみると、子どもがいる回答者は32.3%が仕事をしていないが、子どもがいない回答者は75.3%が仕事をしている。

図 1(4) 仕事への従事（子どもの有無別）



問 1 - 1 a 働く理由

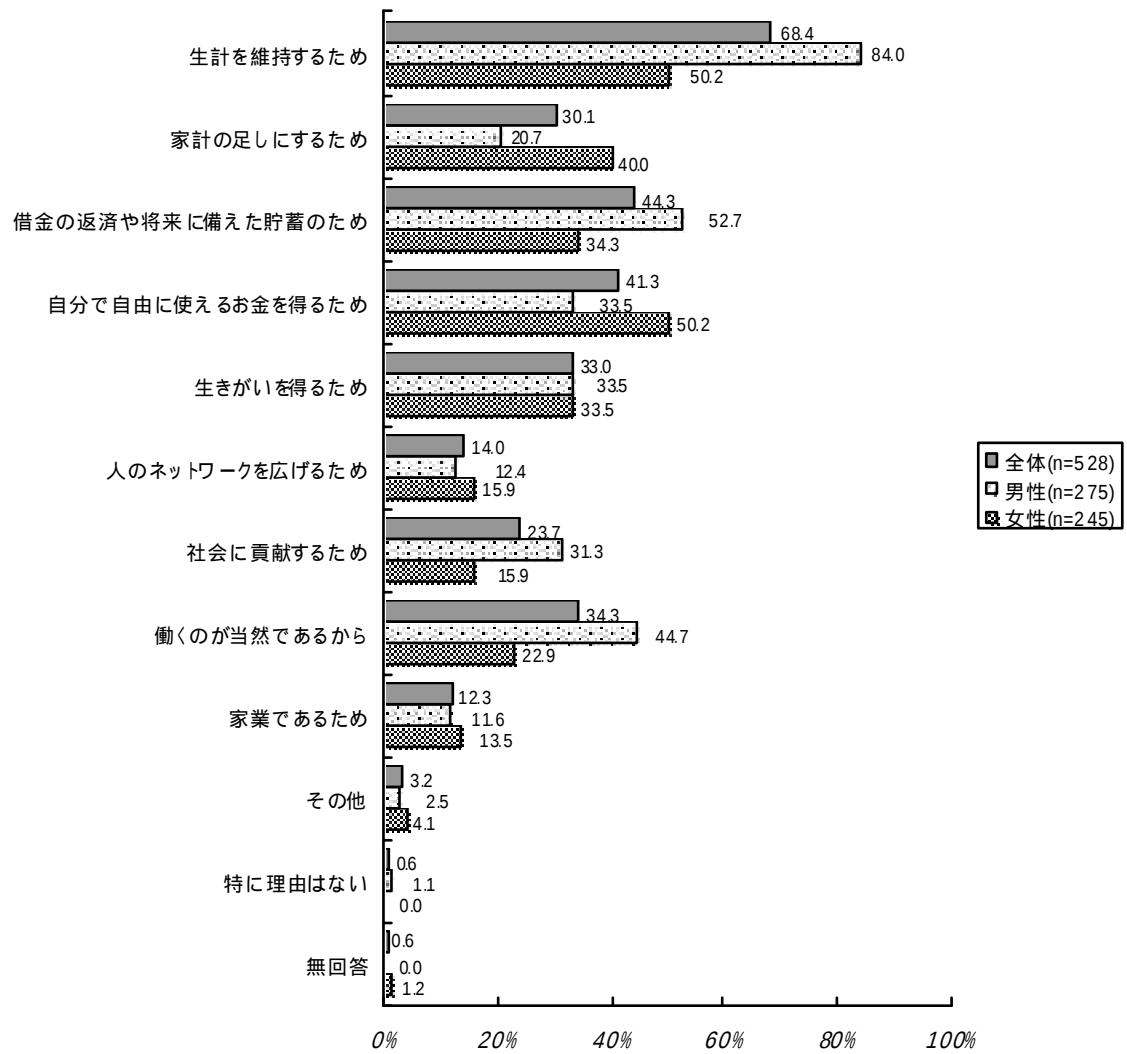
現在仕事をしている回答者に働いている理由を質問したところ、「生計を維持するため」との回答割合が 68.4%と最も高く突出しており、次いで「借金の返済や将来に備えた貯蓄のため」との回答割合が 44.3%、「自分で自由に使えるお金を得るため」との回答が 41.3%の順となっている。

男女別にみると、男性では「生計を維持するため」が 84.0%と圧倒的に高くなっており、次いで「借金の返済や将来に備えた貯蓄のため」が 52.7%であり、2 番目までは全体の傾向と同様の順位になっている。一方、女性は「生計を維持するため」と「自分で自由に使えるお金を得るため」が 50.2%と同率で最も高くなっている。「家計の足しにするため」が 40.0%であることから、女性の中には家計の中心的な担い手である回答者のほうが家計の一部を補完する回答者よりも多く存在すると推察される。

男性より女性で割合が高くなっているのは、「家計の足しにするため」、「自分で自由に使えるお金を得るため」、「人のネットワークを広げるため」、「家業であるため」の回答である。また、「生きがいを得るため」は、男女で同率になっている。

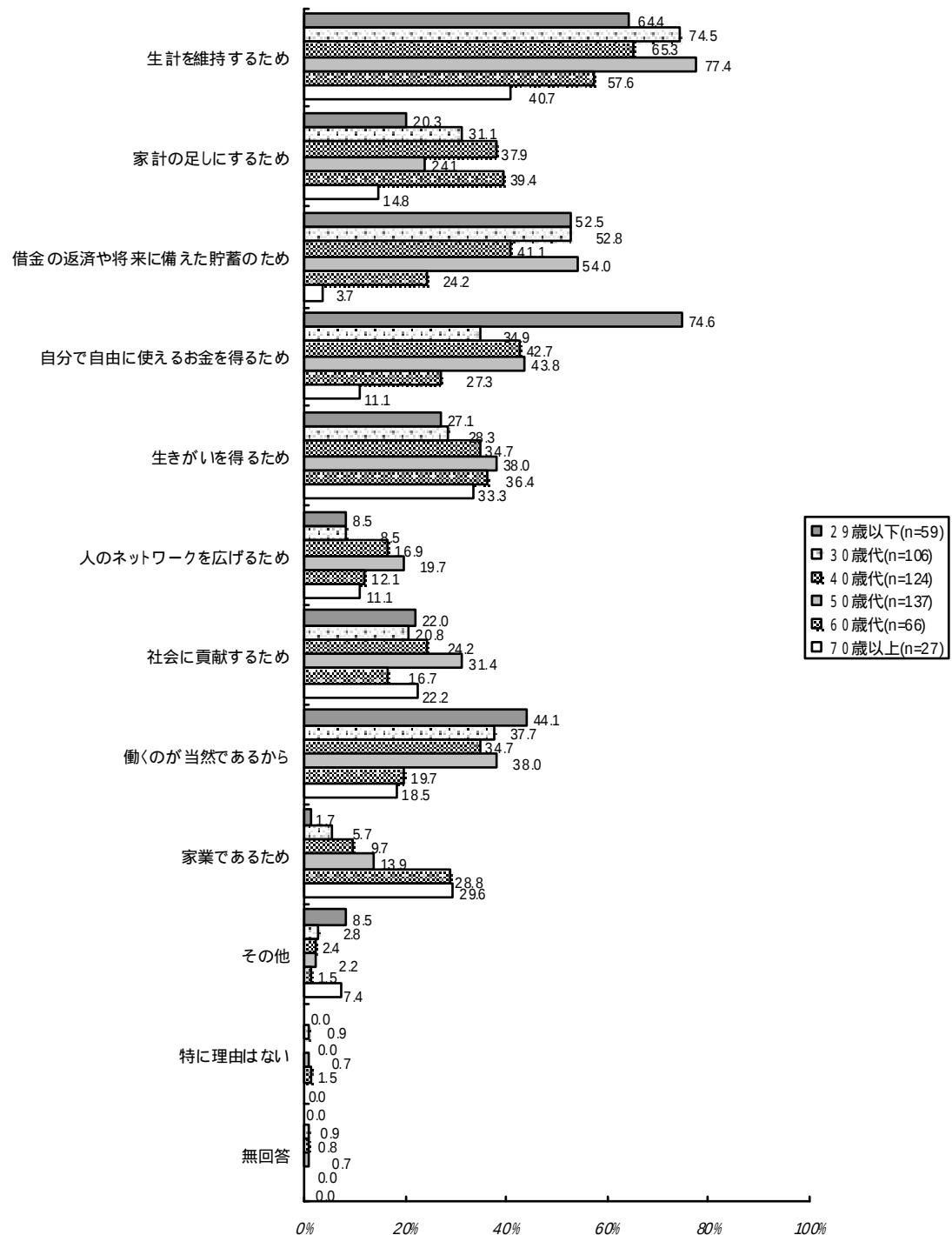
問 1 - 1 a あなたが現在働いているのは、どのような理由からですか。次の中からあてはまるものを全て選んで○を付けてください。

図1 - 1 a 働く理由



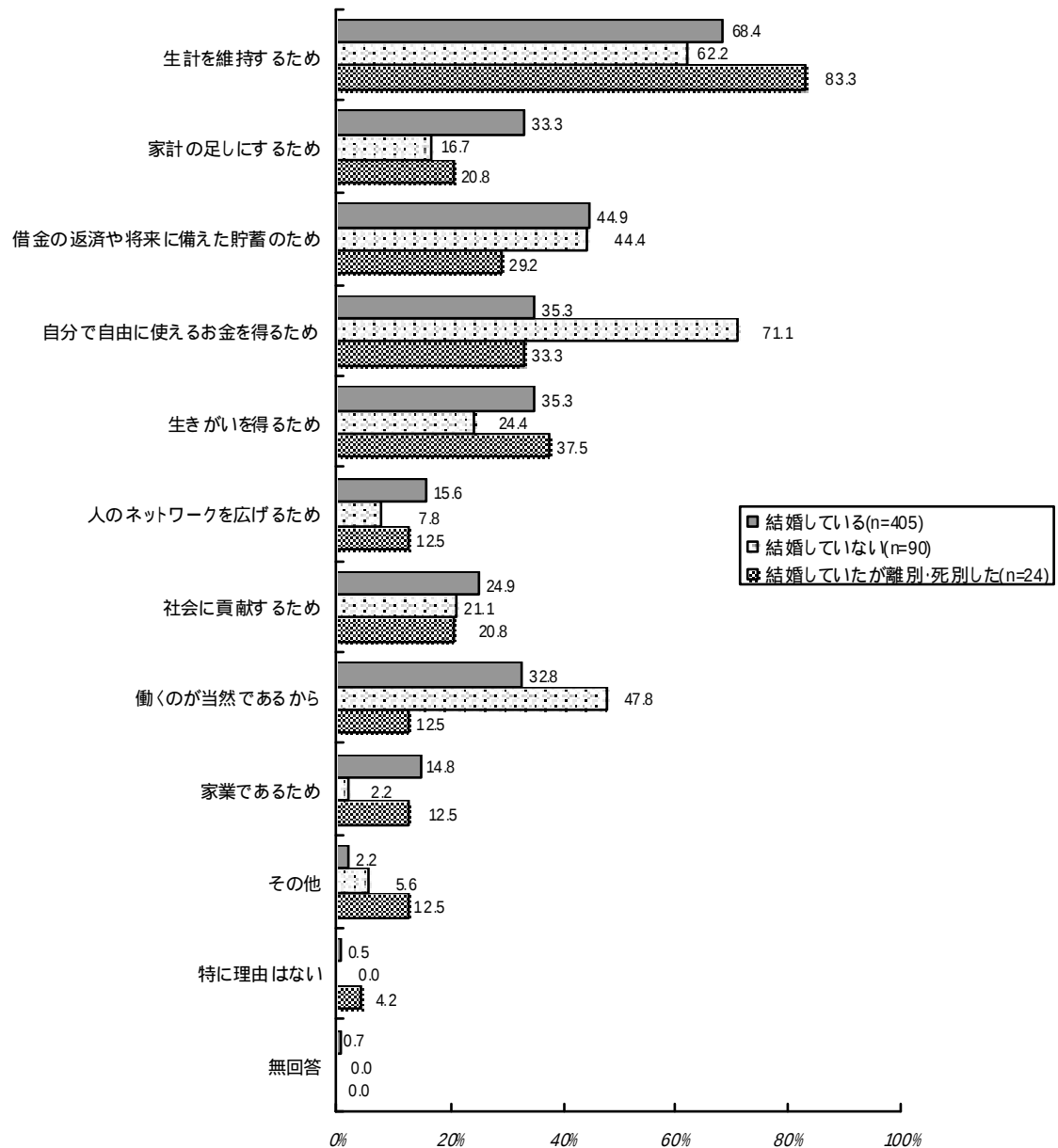
年齢別にみると、29歳以下では「自分で自由に使えるお金を得るため」が74.6%と最も高い。一方で、「生計を維持するため」も64.4%となっており、生計を維持しながら収入の一部を自分の趣味・嗜好に費やしていると考えられる。30歳代、40歳代、50歳代では「生計を維持するため」が74.5%、65.3%、77.4%となっており、家計の担い手、家族を支える世代といえる。

図1 - 1 a (1) 働く理由(年齢別)



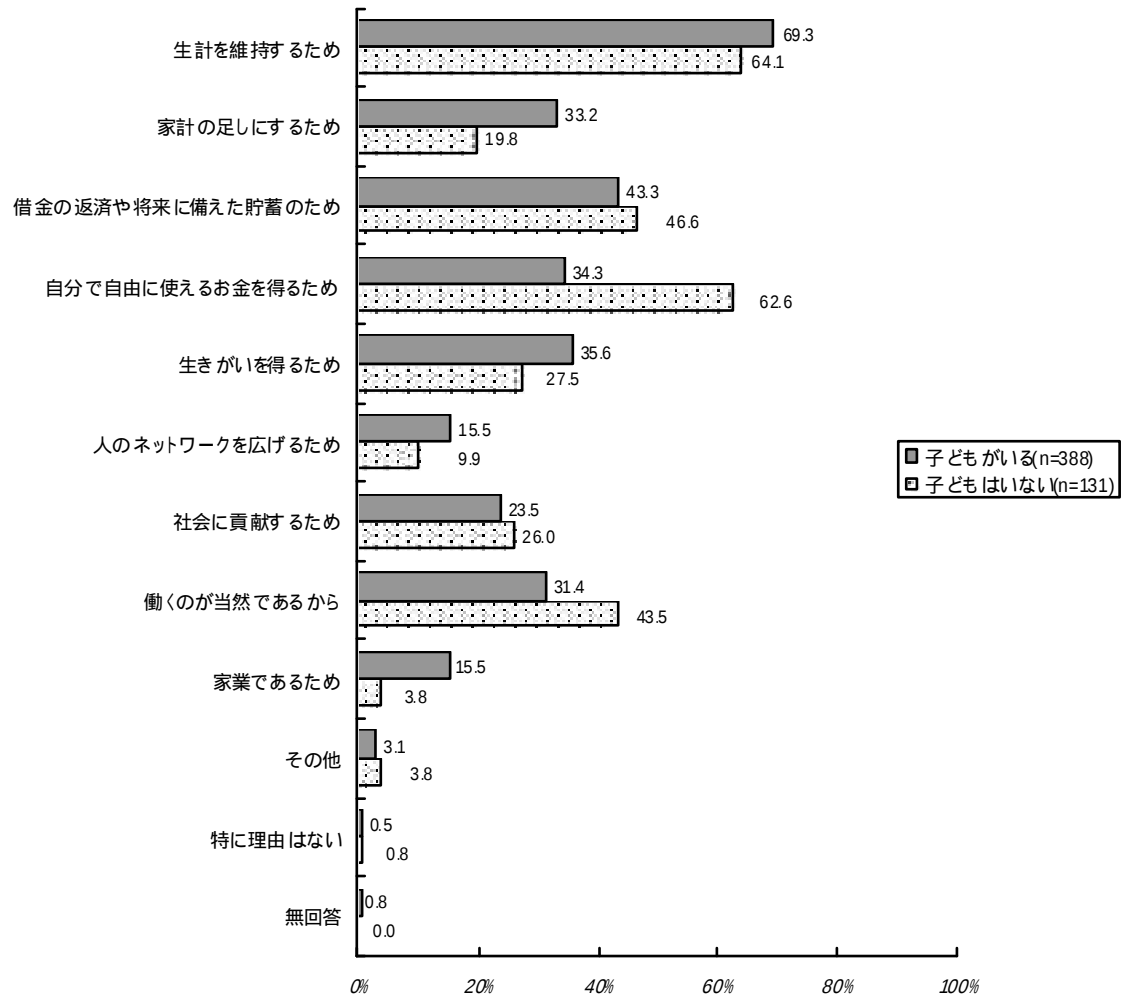
結婚の有無別にみると、結婚していない回答者では「自分で自由に使えるお金を得るため」が71.1%と最も高い一方、「働くのが当然であるから」が47.8%と半数近くの割合になっている。

図1 - 1 a(2) 働く理由（結婚の有無別）



子どもの有無別にみると、子どもがいない回答者では「自分で自由に使えるお金を得るため」が62.6%と半数以上となっており、「生計を維持するため」に次いで高い。

図1 - 1 a(3) 働く理由(子どもの有無別)

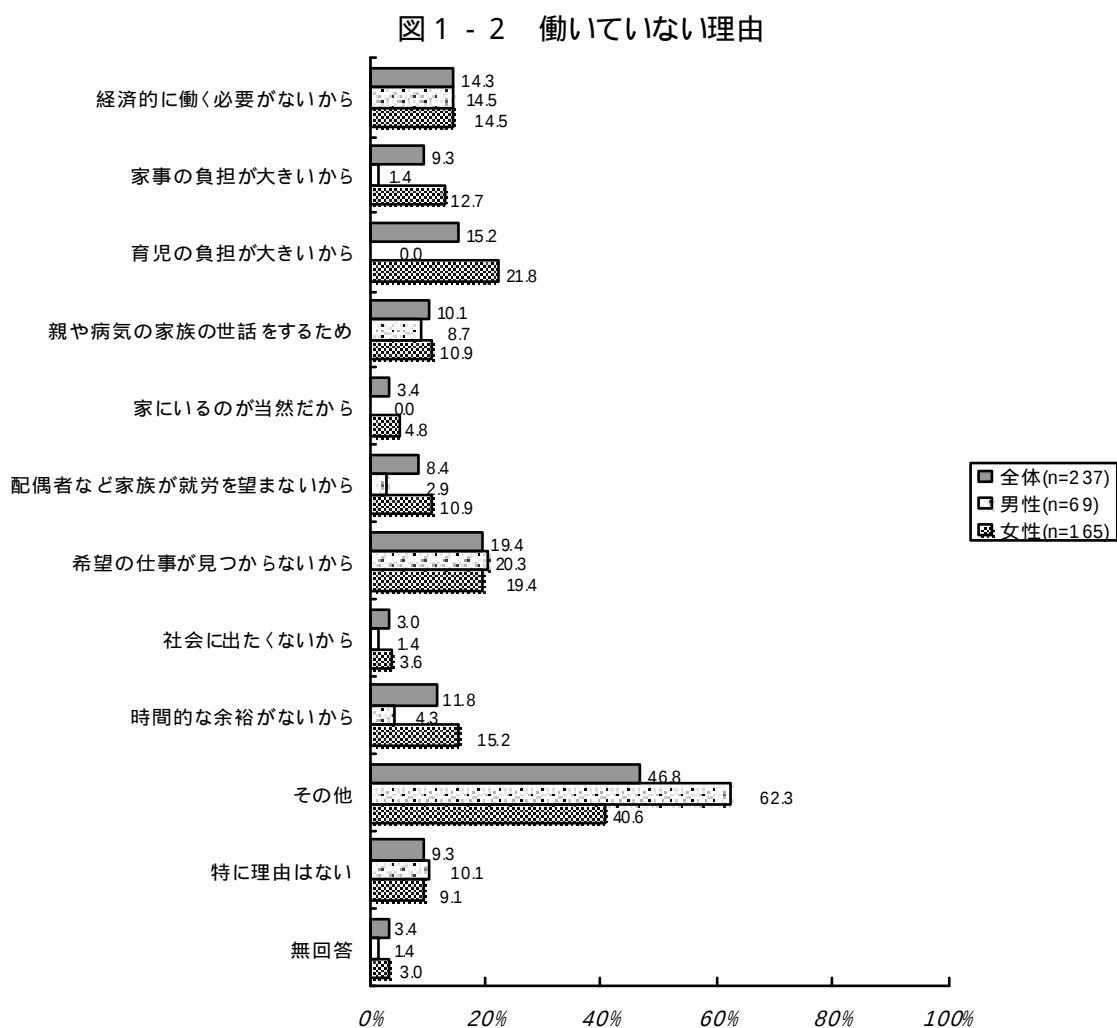


問1 - 2 働いていない理由

現在働いていない回答者に働いていない理由を質問したところ、「希望の仕事が見つからないから」との回答割合が19.4%と最も高く、次いで「育児の負担が大きいから」が15.2%、「経済的に働く必要がないから」が14.3%の順になっている。「希望の仕事が見つからないから」、「経済的に働く必要がないから」は男女でほぼ同率となっているが、「育児の負担が大きいから」は女性だけが選択している。

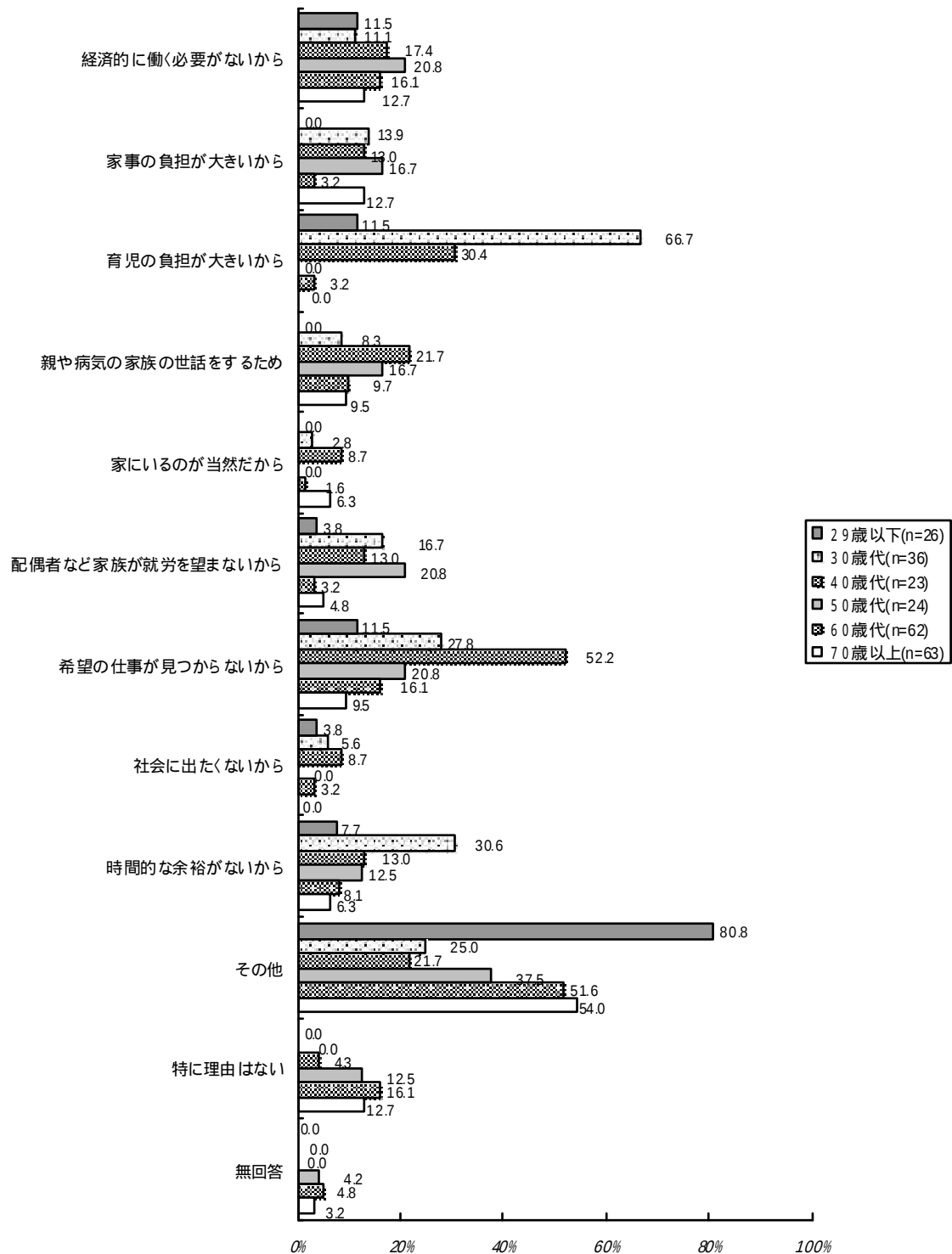
男女別にみると、男性は「希望の仕事が見つからないから」が20.3%と最も高く、次いで「経済的に働く必要がないから」が14.5%である。一方、女性は「育児の負担が大きいから」が21.8%と最も高く、次いで「希望の仕事が見つからないから」が19.4%となっている。

問1 -2 あなたが現在働いていないのは、どのような理由からですか。あてはまるものを全て選んで○を付けてください。



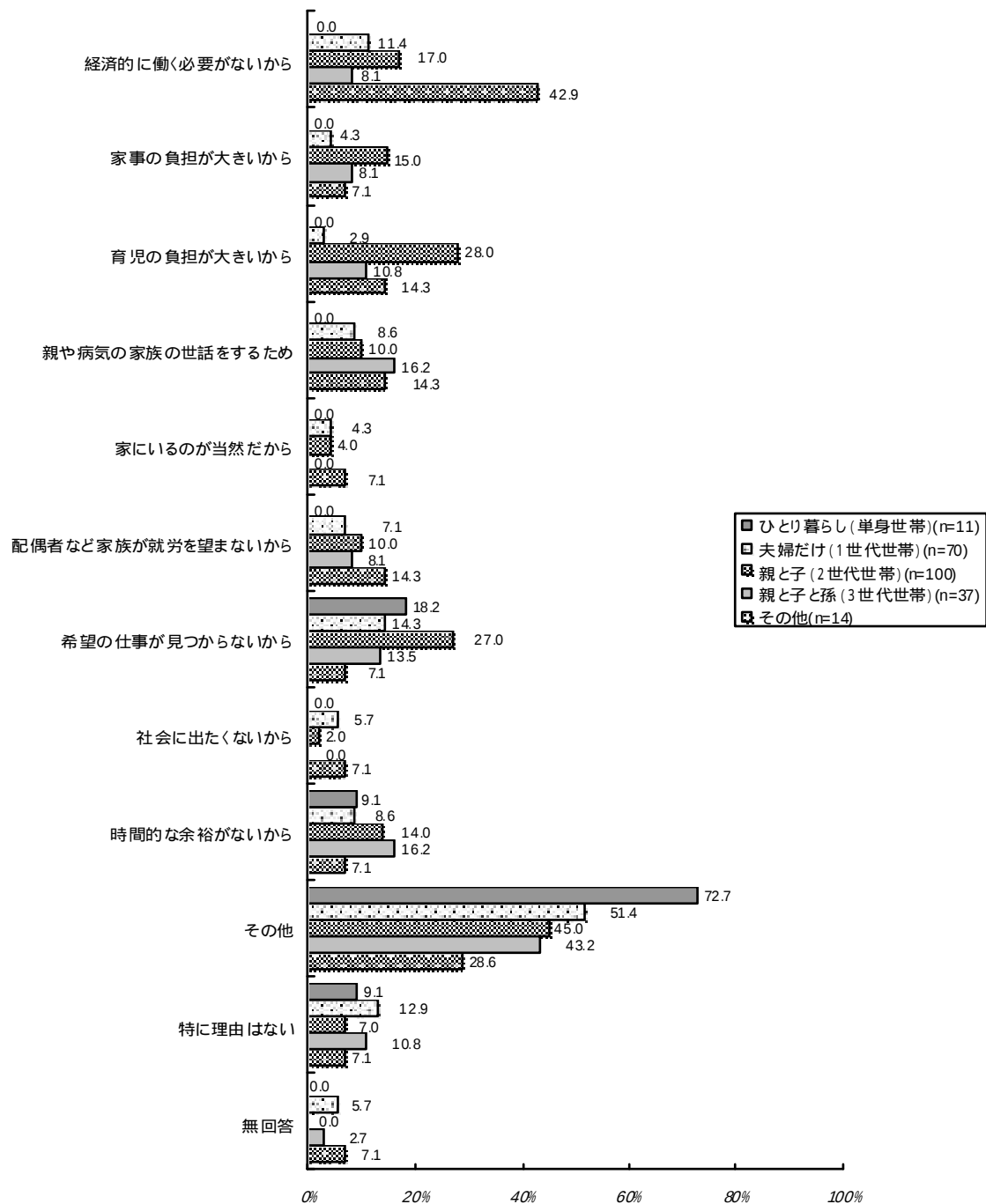
年齢別にみると、20 歳代では「その他」が最も高くなっており、そのうち 85.7%は学生だからという理由である。30 歳代では「育児の負担が大きいから」が 66.7%と最も高く、40 歳代では「希望の仕事が見つからないから」が 52.2%と最も高い。

図 1 - 2 (1) 働いていない理由（年齢別）



家族構成別にみると、「育児の負担が大きいから」について、2世代世帯では28.0%と最も割合が高いのに対し、3世代世帯では10.8%と2割近くの差がある。また3世代世帯では、「その他」を除くと「親や病気の家族の世話をするため」と「時間的な余裕がないから」がどちらも16.2%と最も高く、単身世帯では、「その他」を除くと「希望の仕事が見つからないから」が18.2%と最も高い。

図1 - 2(2) 働いていない理由（家族構成別）



問 1 - 1b 職場での男女平等

現在仕事をしている回答者に、職場での男女の扱いについて質問したところ、多くの項目で、平等になっているとの回答が大半を占めている。「女性が優遇されている」「女性のほうが非常に優遇されている」「どちらかと言えば女性のほうが優遇されている」を合わせた回答)、もしくは「男性が優遇されている」「男性のほうが非常に優遇されている」「どちらかと言えば男性のほうが優遇されている」を合わせた回答)が「平等になっている」との回答よりも多い項目は、「(7) 幹部職員への採用」「(6) 昇進・昇格」で、それぞれ 38.0%、35.1%の回答者が男性優遇の傾向が強いと回答している。「平等になっている」との回答が大半を占める項目の中で「女性が優遇されている」との回答割合が「男性が優遇されている」との回答割合を超えているのは、「(10) 有給休暇の取得」と「(9) 福利厚生」の項目である。

男女で比較すると、すべての項目で、男性回答者のほうが女性回答者よりも「平等になっている」の回答割合が高い。男性回答者が、女性優遇の傾向が強いと感じているのは、「(10) 有給休暇の取得」と「(9) 福利厚生」であり、女性回答者は「(10) 有給休暇の取得」のみとなっている。女性優遇の割合をみると、男性回答者では「(10) 有給休暇の取得」「(2) 職務内容」「(4) 上司との関係」の順に高く、女性回答者では、「(1) 募集や採用」「(2) 職務内容」「(10) 有給休暇の取得」の順になっている。

問 1 - 1b あなたの職場では、男女の扱いが平等になっていると思いますか。次の ~ の項目について、それぞれ1つずつ選び、その番号に○を付けてください。

年齢別にみると、「(1) 募集や採用」について、29 歳以下では平等になっている割合が 39.0%と 30、40 歳代に比して低く、採用に直面することの多い年代層で平等を感じていないと読み取れる。また女性優遇、男性優遇の割合がどちらも 20.4%となっており、どちらが優遇されているかという点では、男性、女性で拮抗している。

男性優遇と女性優遇を比較して男性優遇の傾向が強い項目は、30 歳代、40 歳代、50 歳代で「(7) 幹部職員への採用」「(6) 昇進・昇格」「(3) 賃金」の順となっている。一方、29 歳以下では、「(3) 賃金」「(7) 幹部職員への採用」「(6) 昇進・昇格」の順であり、若年層で違った傾向があると読み取れる。

図 1 - 1 b 職場での男女平等

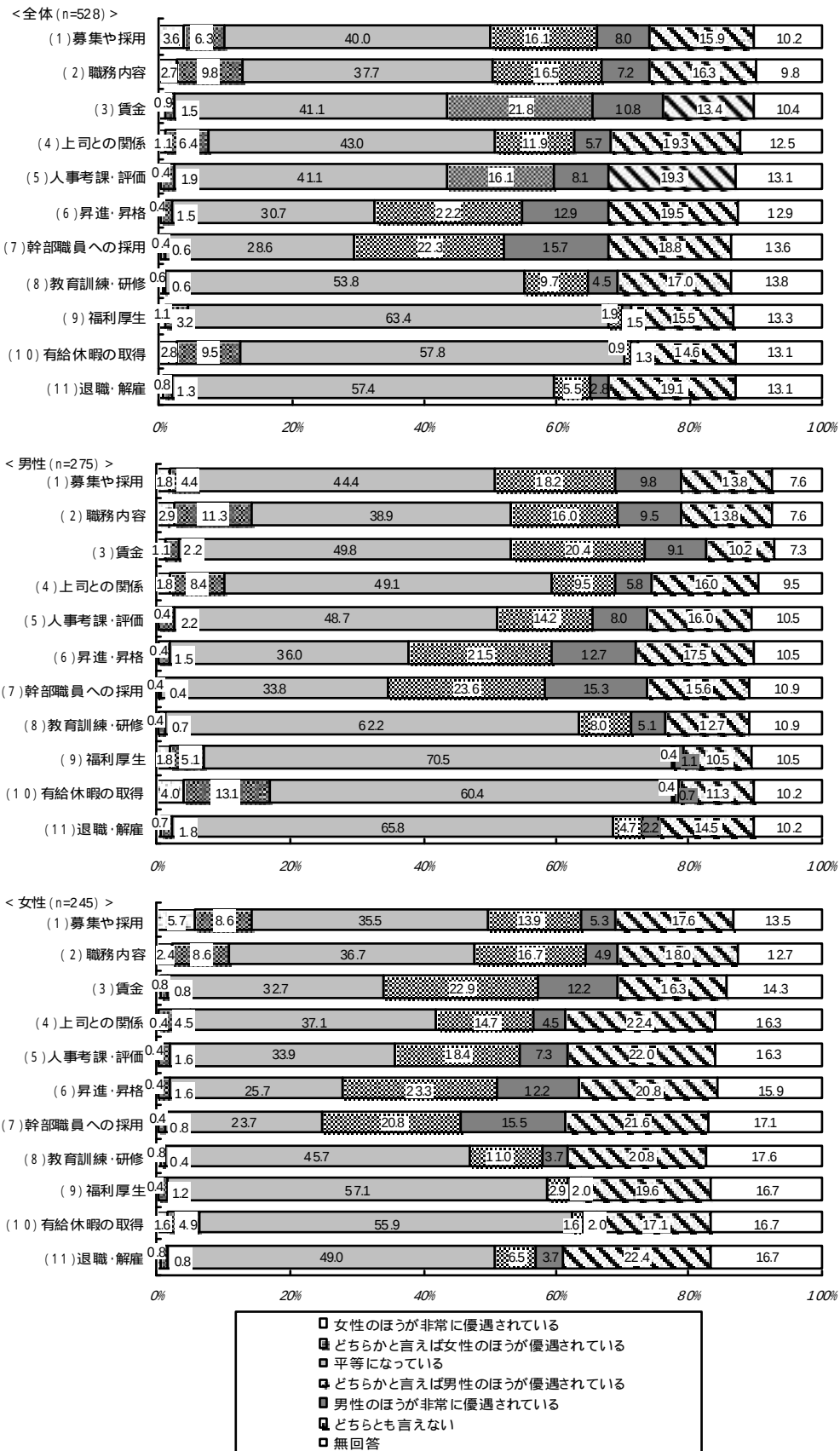
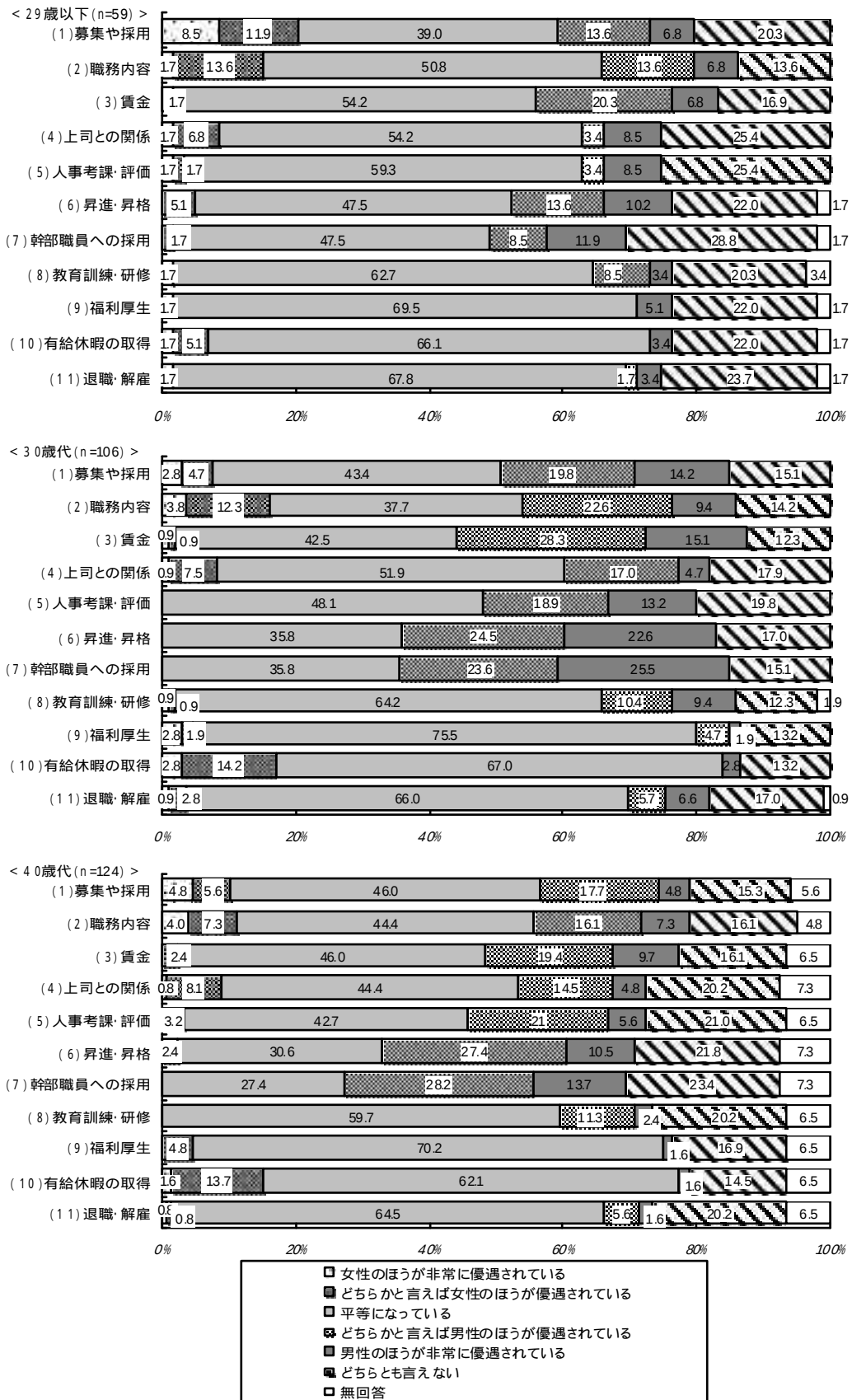
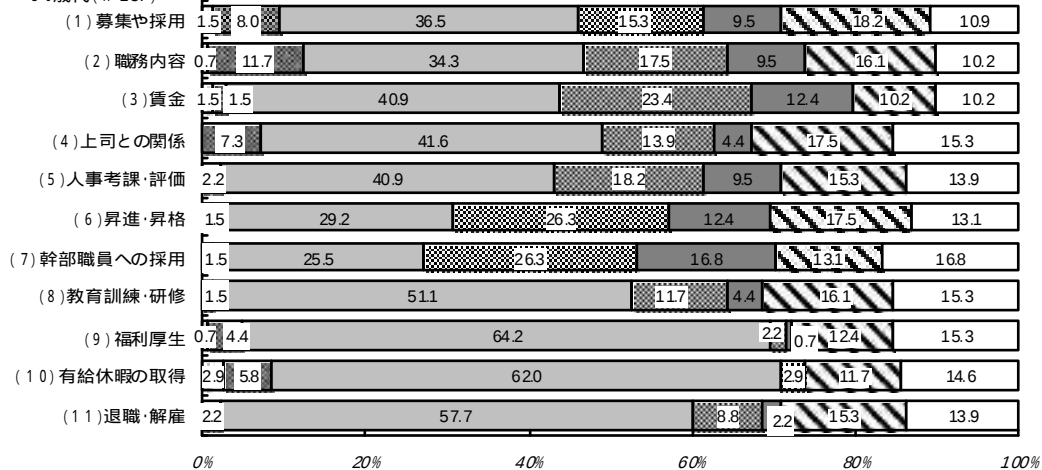


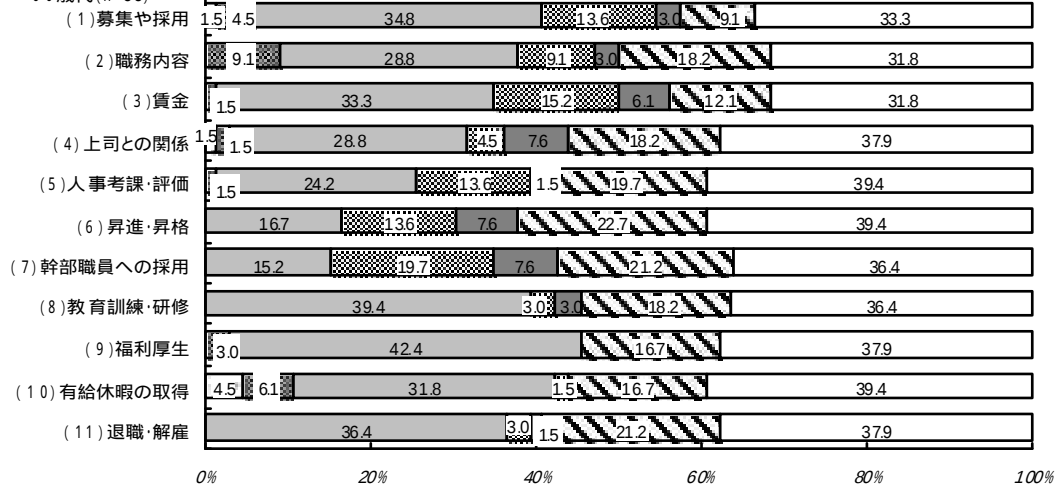
図 1 - 1 b(1) 職場での男女平等（年齢別）



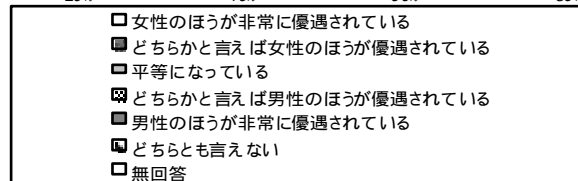
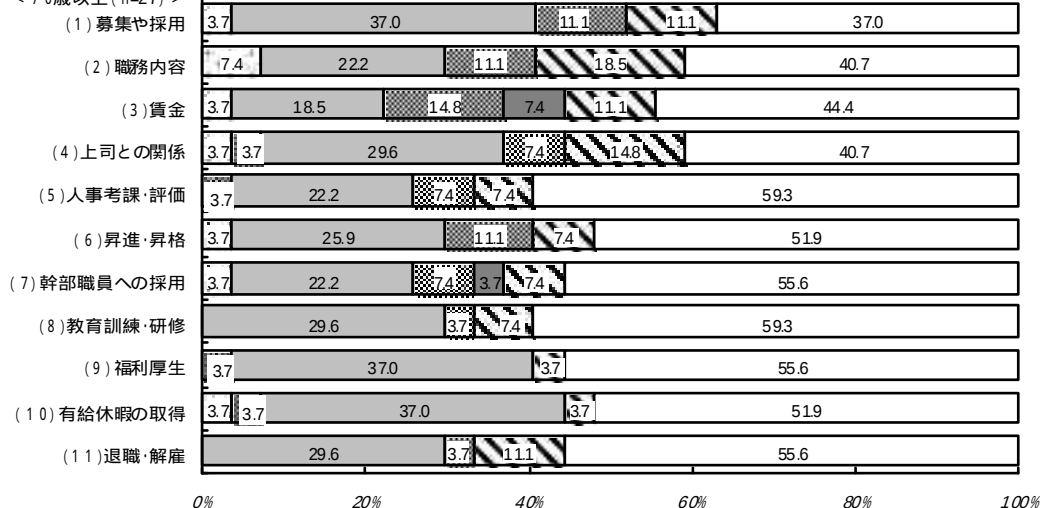
< 50歳代 (n=137) >



< 60歳代 (n=66) >



< 70歳以上 (n=27) >

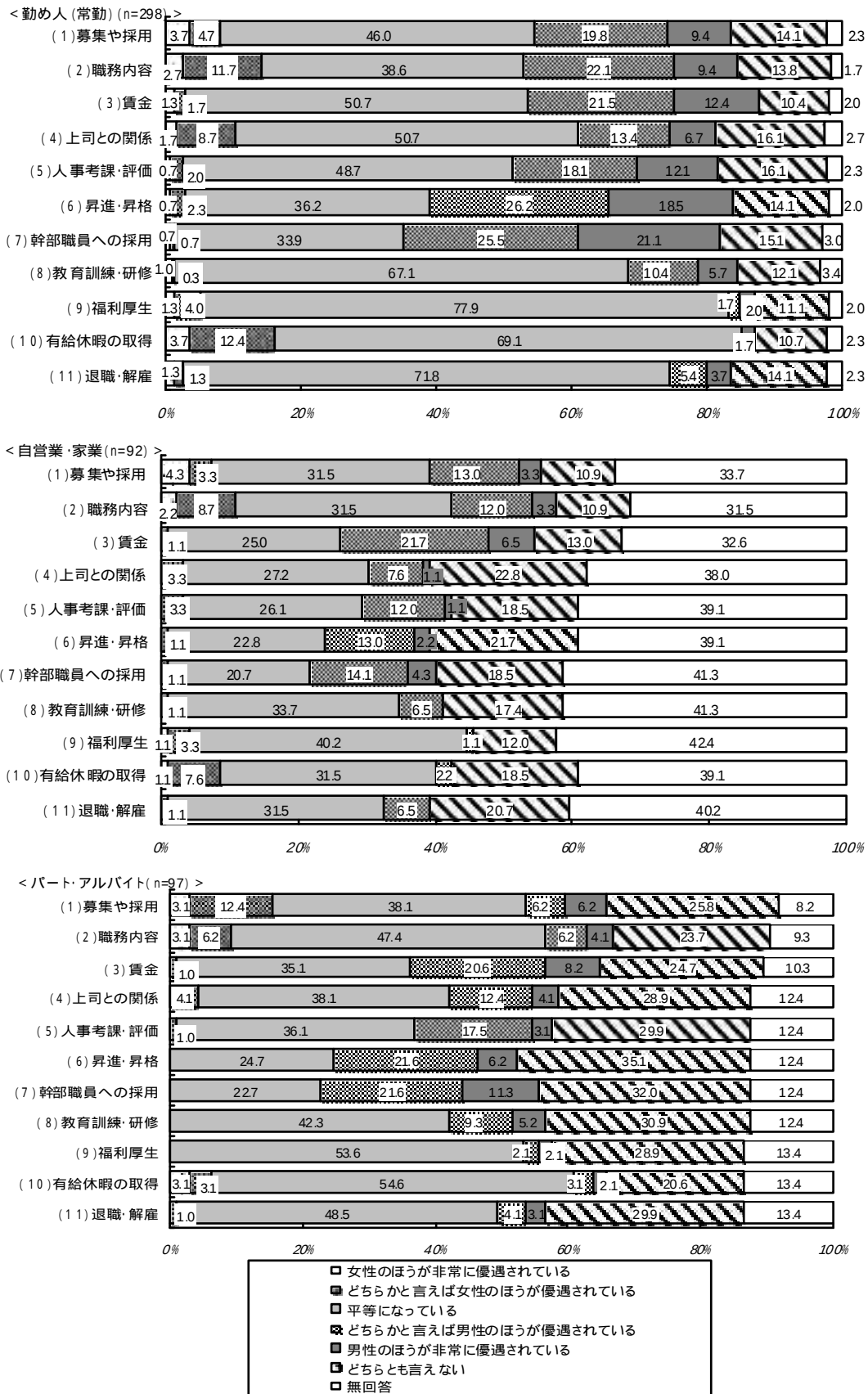


職業別にみると、男性優遇と女性優遇を比較して男性優遇の傾向が強いと感じている項目は、勤め人では「(7) 幹部職員への採用」、「(6) 昇進・昇格」、「(3) 賃金」の順となっている。自営業・家業では「(3) 賃金」、「(7) 幹部職員への採用」、「(1) 募集や採用」の順である。パート・アルバイトでは「(7) 幹部職員への採用」、「(3) 賃金」、「(6) 昇進・昇格」の順となっており、勤め人とパート・アルバイトでは、上位 3 位が同じ項目である。

男性優遇と女性優遇を比較したとき、女性優遇の傾向が強いと感じている項目は、勤め人と自営業・家業では、「(9) 福利厚生」と「(10) 有給休暇の取得」、パート・アルバイトでは「(1) 募集や採用」、「(10) 有給休暇の取得」となっている。

なお、学生と専業主婦（夫）、無職、その他は標本数が少ないため、掲載していない。

図 1 - 1 b(2) 職場での男女平等（職業別）



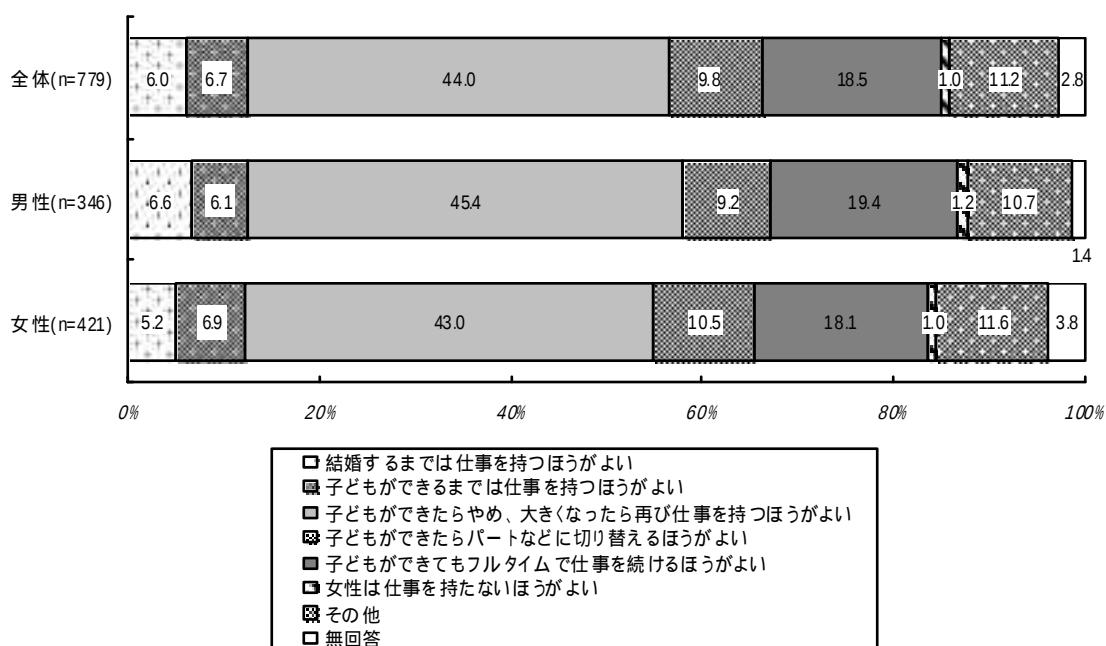
問2 女性が仕事を持つことに対する考え

女性が仕事を持つことをどう考えるかという質問に対して、「子どもができればやめ、大きくなったら再び仕事を持つほうがよい」と回答した割合が44.0%と最も高い。次いで「子どもができてフルタイムで仕事を続けるほうがよい」と回答した割合が18.5%となっており、子どもの成長過程において、子どもが小さい間は子育てを優先すべきとの回答が半数近くを占めるなか、子育てと仕事の両立を図るべきとの回答も5分の1程度を占めている。

男女で比較すると、回答傾向はほぼ同様である。

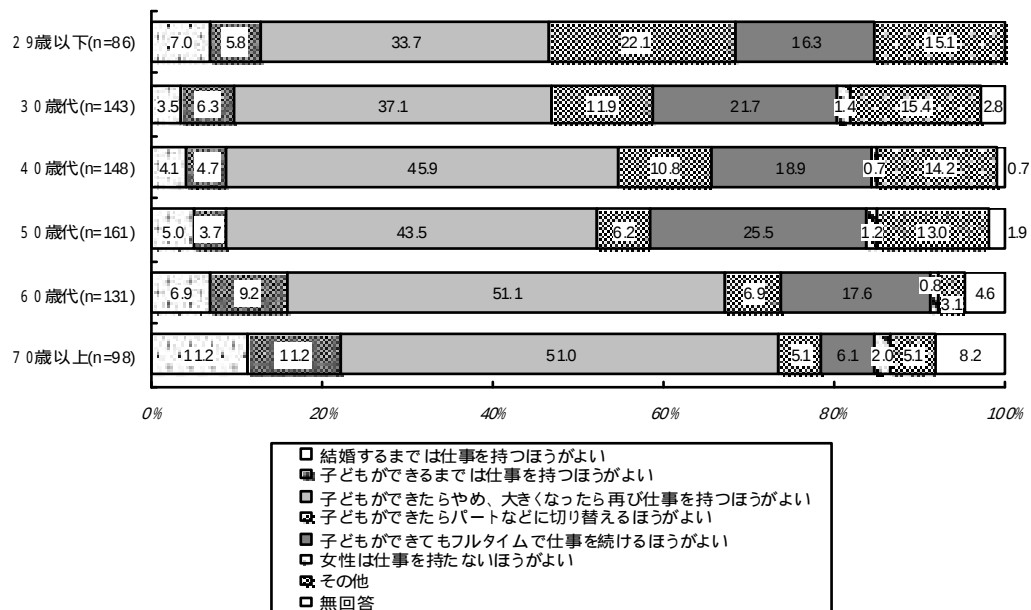
問2 一般的に、女性が仕事を持つことについて、あなたはどうお考えですか。あてはまるものを1つ選んで○を付けてください。

図2 女性が仕事を持つことに対する考え



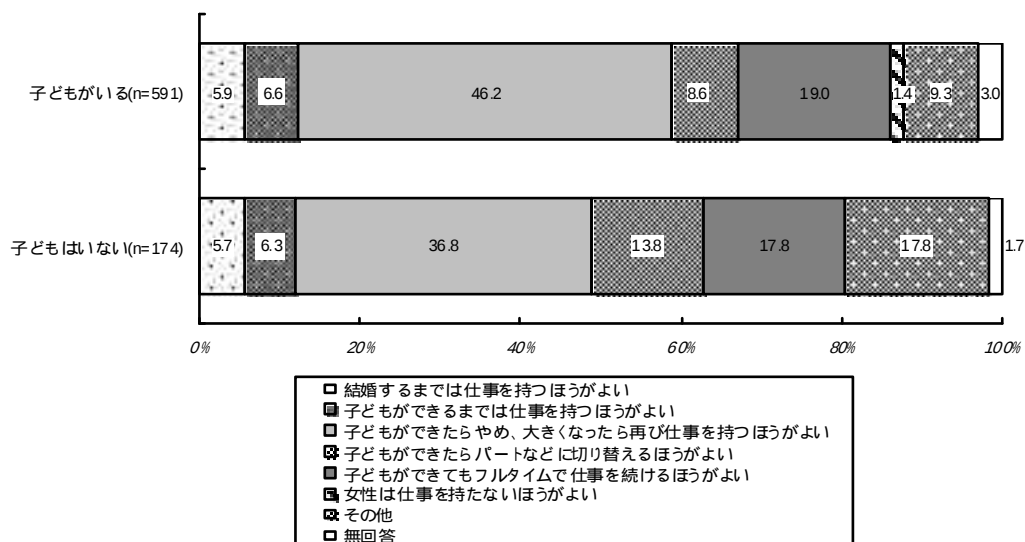
年齢別にみると、「子どもができてフルタイム」が、50歳代で25.5%と高くなっている。「子どもができたらずめ、大きくなったら再び持つほうがよい」は年齢が高いほど割合も高まる傾向にあり、「結婚するまでは仕事を持つほうがよい」については、30歳代以降で年齢が高くなるにつれ、割合も高くなっている。

図2(1) 女性が仕事を持つことに対する考え(年齢別)



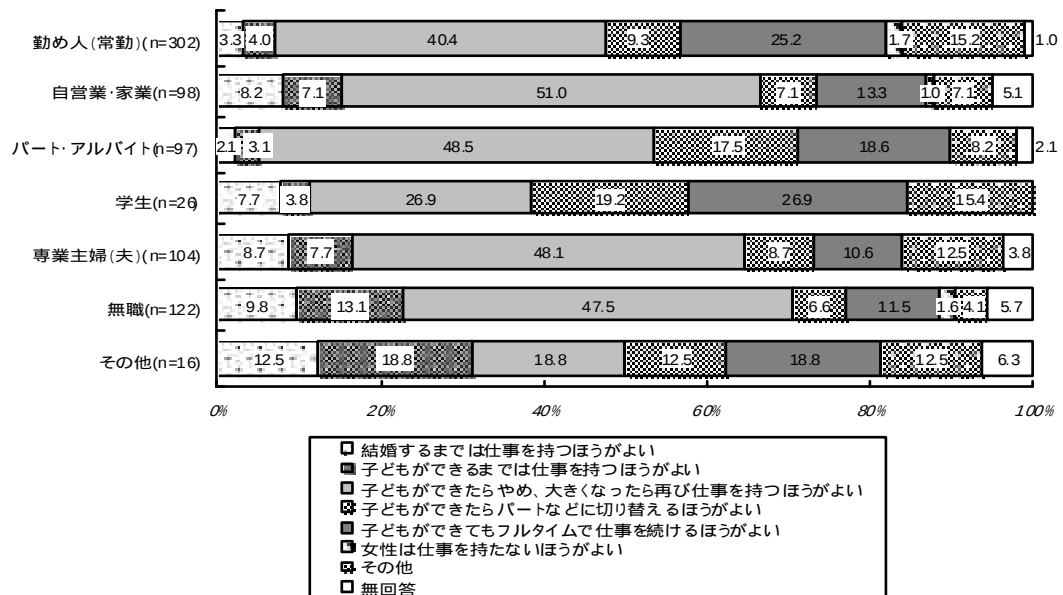
子どもの有無別にみると、「子どもができたらずめ、大きくなったら再び持つほうがよい」について、子どもがいる場合の方が46.2%と子どもがいない場合に比して高く、一方、子どもがいない場合「子どもができたらずパート」の回答割合が13.8%と、子どもがいる場合より高い。

図2(2) 女性が仕事を持つことに対する考え(子どもの有無別)



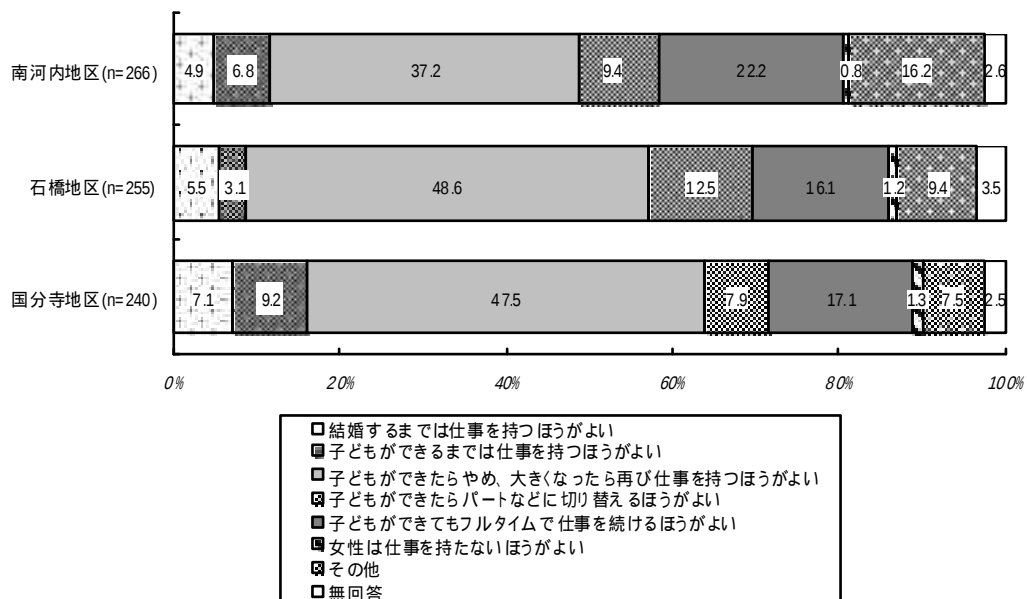
「子どもができてフルタイム」は勤め人と学生で高く、20%代後半の割合である。「子どもができたらずパート」はパート・アルバイトと学生で高く、10%代後半の割合である。

図 2 (3) 女性が仕事を持つことに対する考え（職業別）



居住地区別では、「子どもができたらずめ、大きくなったら再び仕事を持つほうがよい」が石橋地区、国分寺地区では高いが、南河内地区ではそれほど伸びない。南河内地区では「子どもができてフルタイムで仕事を続けるほうがよい」が3地区の中で最も高い。

図 2 (4) 女性が仕事を持つことに対する考え（居住地区別）



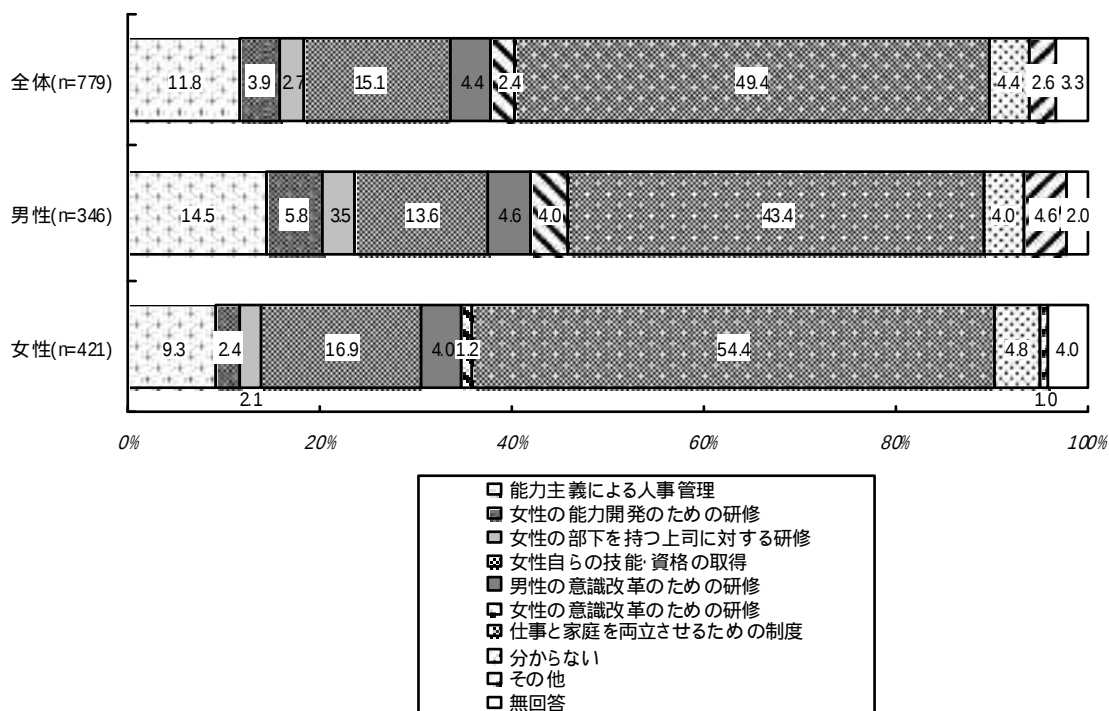
問3 女性の能力発揮のための環境づくり

女性が職場で能力を発揮するために重要だと思うことを質問したところ、「仕事と家庭を両立させるための制度」の回答割合が49.4%と最も高く、次いで「女性自らの技能・資格の取得」が15.1%、「能力主義による人事管理」が11.8%の順である。

男性の回答をみると、最も高いのは全体と同様「仕事と家庭を両立させるための制度」で43.4%であり、次いで「能力主義による人事管理」が14.5%、「女性自らの技能・資格の取得」が13.6%の順で、全体の順位と2番目、3番目が入れ替わっている。女性の回答をみると「仕事と家庭を両立させるための制度」が54.4%と過半数であり、次いで「女性自らの技能・資格の取得」が16.9%、「能力主義による人事管理」が9.3%の順で、全体の順位と同様である。

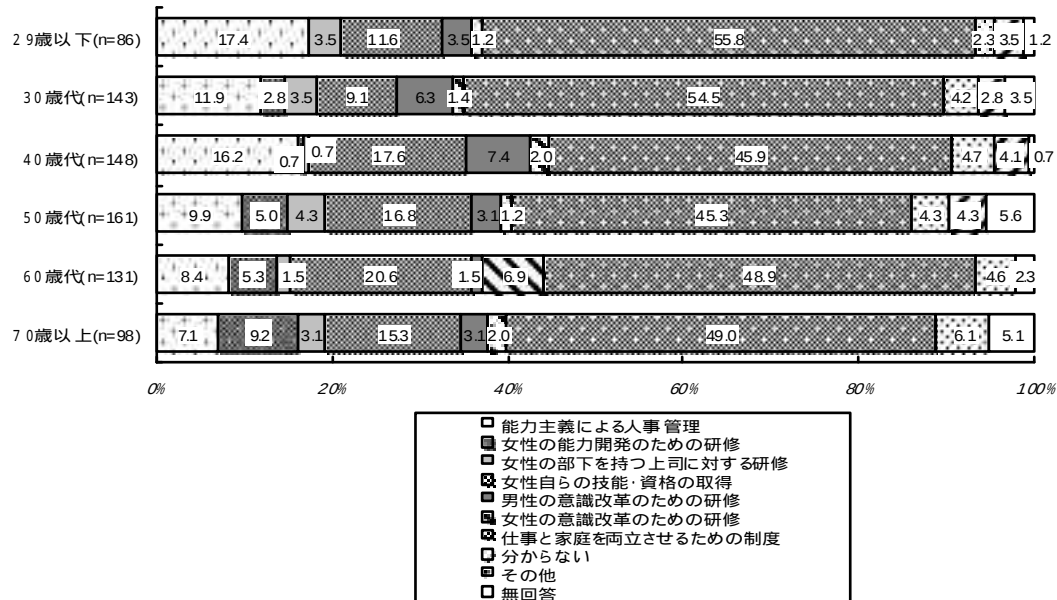
問3 女性が職場で能力を発揮するためにどのようなことが最も重要だと思いますか。次の中から1つ選んで○を付けてください。

図3 女性の能力発揮のための環境づくり



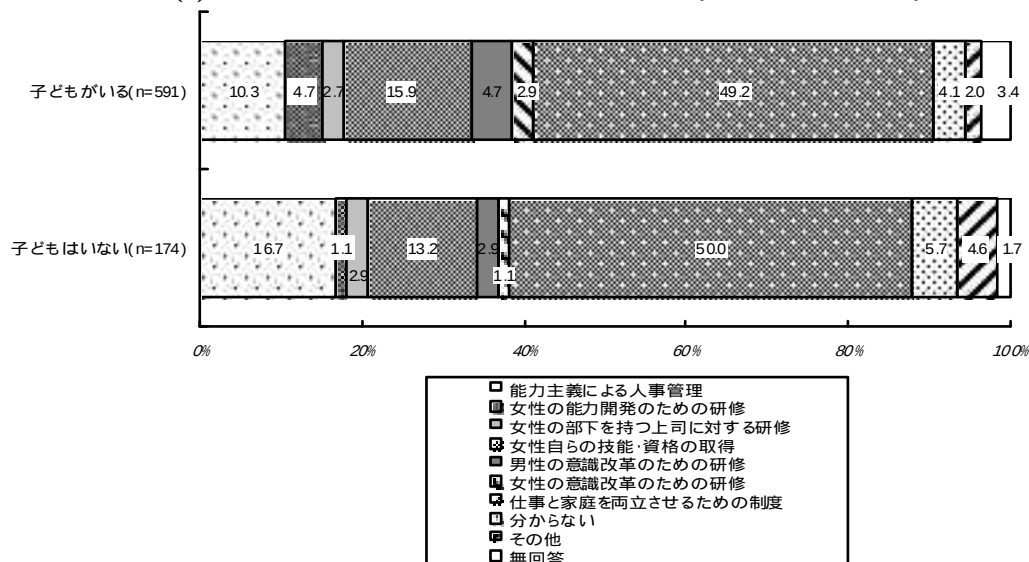
年齢別にみると、29歳以下では「仕事と家庭を両立させるための制度」が55.8%、「能力主義による人事管理」が17.4%で他世代に比べて最も割合が高い。

図3(1) 女性の能力発揮のための環境づくり（年齢別）



子どもの有無別にみると、「能力主義による人事管理」が子どもがいない回答者で16.7%と子どもがいる回答者に比して5ポイント以上高い。

図3(2) 女性の能力発揮のための環境づくり（子どもの有無別）



職業別、居住地区別には、目立った特徴が見られない。

B 生活全般について

問4 - 1 家庭における家事の役割分担

回答者の家庭のなかで、家事が誰の役割になっているか質問したところ、主に妻、もしくは主に自分と配偶者以外の家族（女性）の役割となっている割合が高いのは、「(4)洗濯」81.2%、「(1)食事の準備」80.6%、「(6)日常の買い物」69.6%、「(2)食事の後かたづけ」69.4%、「(3)掃除」68.1%、「(8)家計の管理」67.4%、「(9)預貯金などの管理」59.2%、「(5)ゴミ出し」47.2%、「(12)家族の世話・介護」35.7%であり、ほとんどの項目で女性の役割となっていると読み取れる。そのなかで、「(5)ゴミ出し」と「(12)家族の世話・介護」は5割を切っており、家族のなかの男性の役割、もしくは家族で役割分担となっている割合が、相対的に高いといえる。

「(11)子どもの教育方針」41.7%、「(7)高額な商品の購入」40.2%、「(10)育児・しつけ」38.2%、「(14)地域活動への参加」35.7%は夫婦または家族で分担している割合が高い。「(13)家具等の修理」56.8%は家族のなかの男性の役割となっている割合が高い。

問4 - 1 あなたのご家庭では、以下に挙げる家事は主にどなたの役割ですか。次の ~ の項目について、それぞれ1つずつ選び、その番号に○を付けてください。

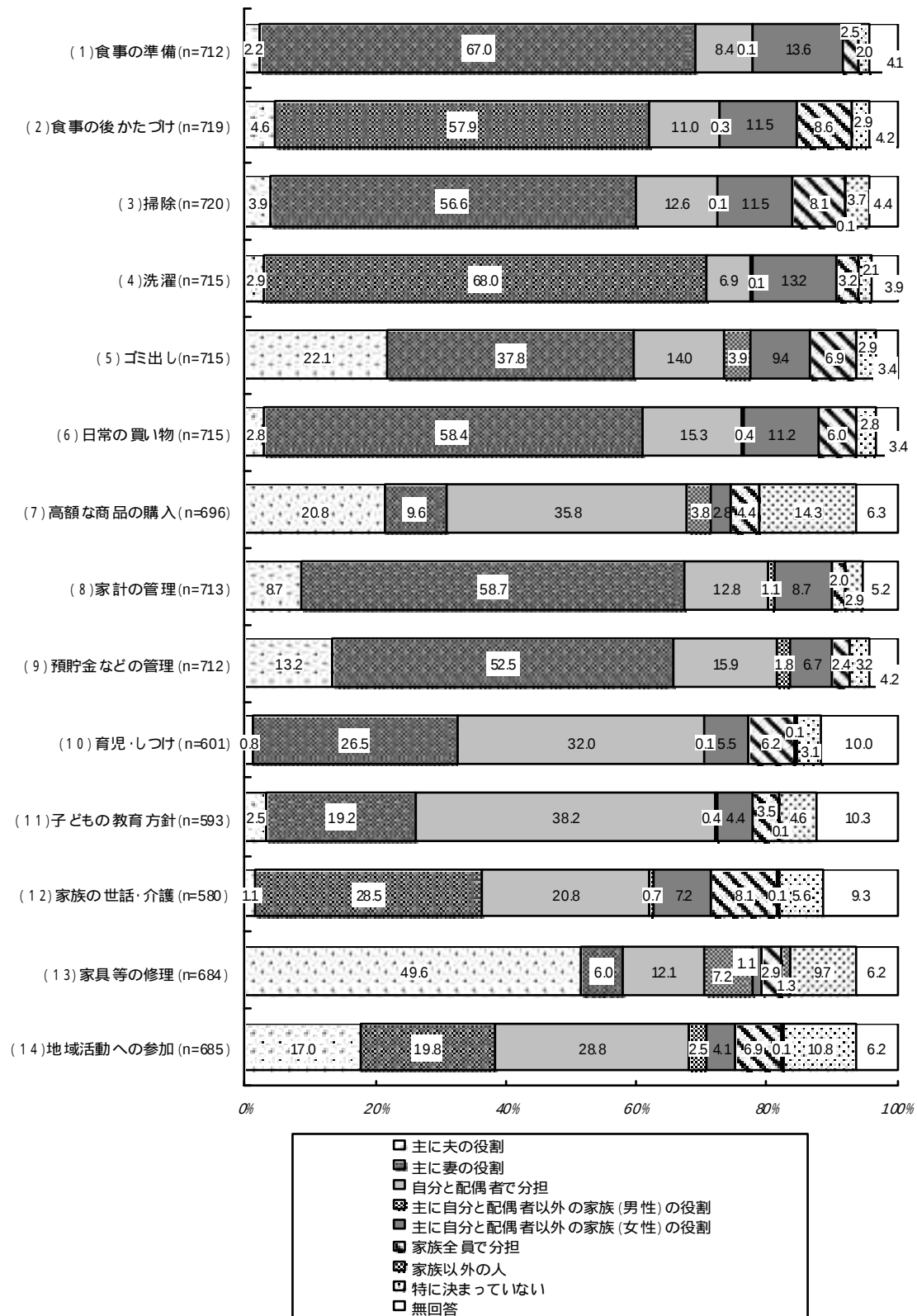
年齢別にみると、29歳以下は「主に自分と配偶者以外の家族（女性）の役割」が他の年代に比べて高く、「(1)食事の準備」から「(6)日常の買い物」までの日常の家事では20%代後半から30%台となっている。

30歳代、40歳代、60歳代、70歳以上では、「(5)ゴミ出し」が夫の役割となっている割合が高く、20%を超えている。

29歳以下と70歳以上では「(12)家族の世話・介護」を家族で分担している割合が高く、10%を超えている。

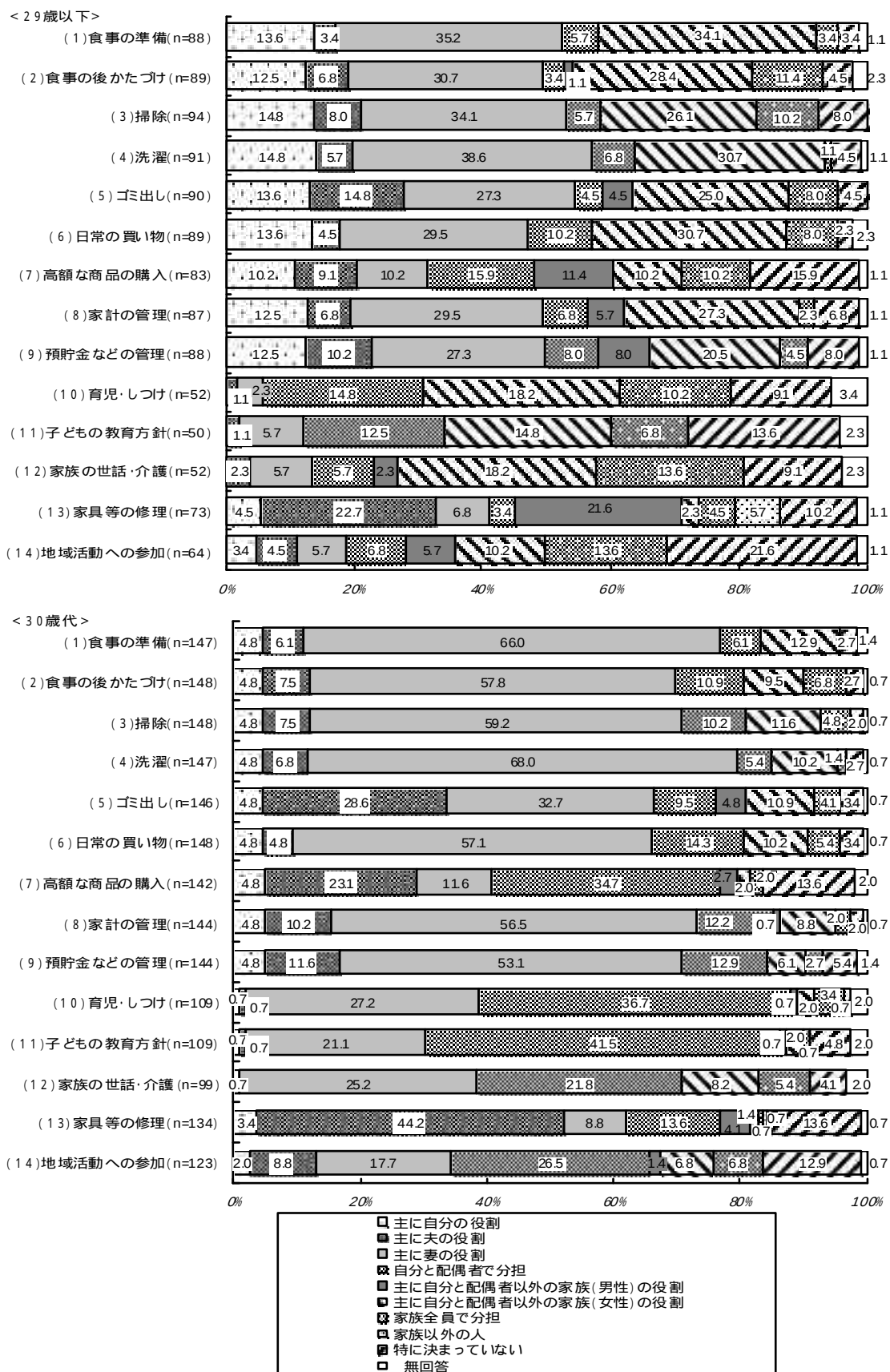
「(14)地域活動の参加」をみると、30歳代、50歳代は夫婦で分担している割合が最も高く、それぞれ26.5%、38.2%である。40歳代は妻の役割である割合が34.9%と最も高く、60歳代、70歳以上では、夫の役割である割合が28.4%、24.5%とそれぞれ最も高い。

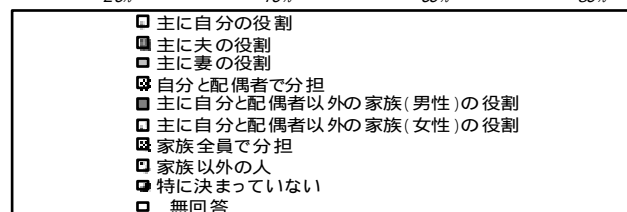
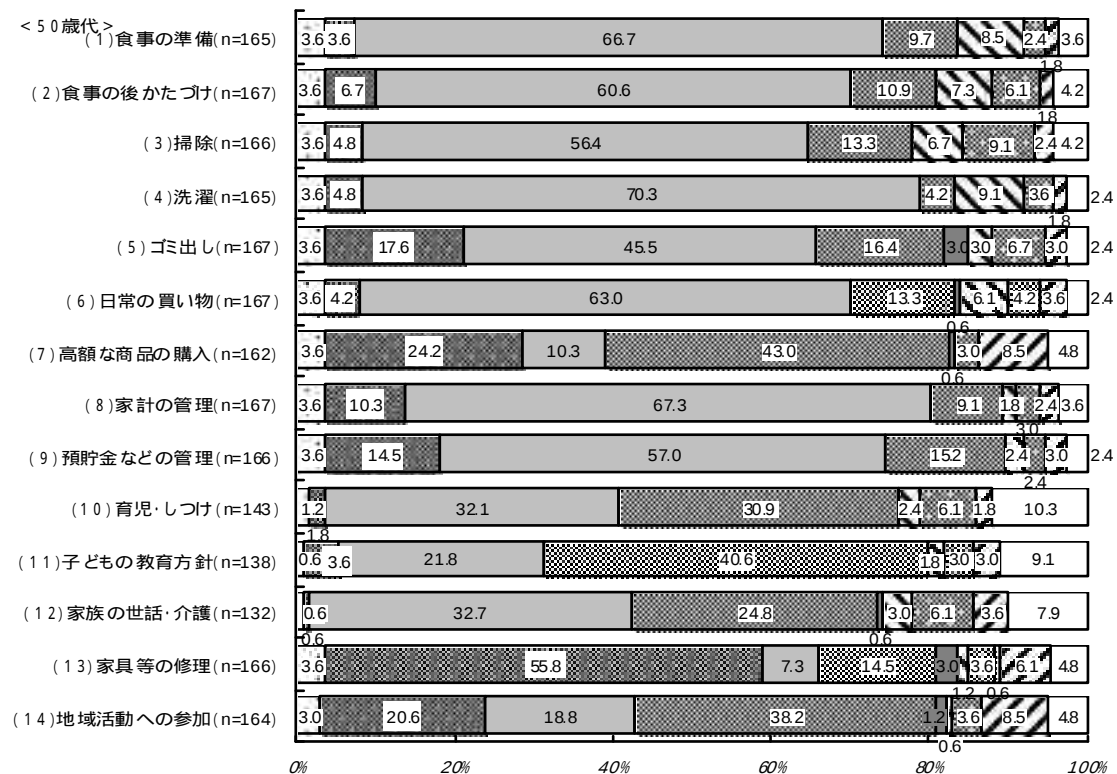
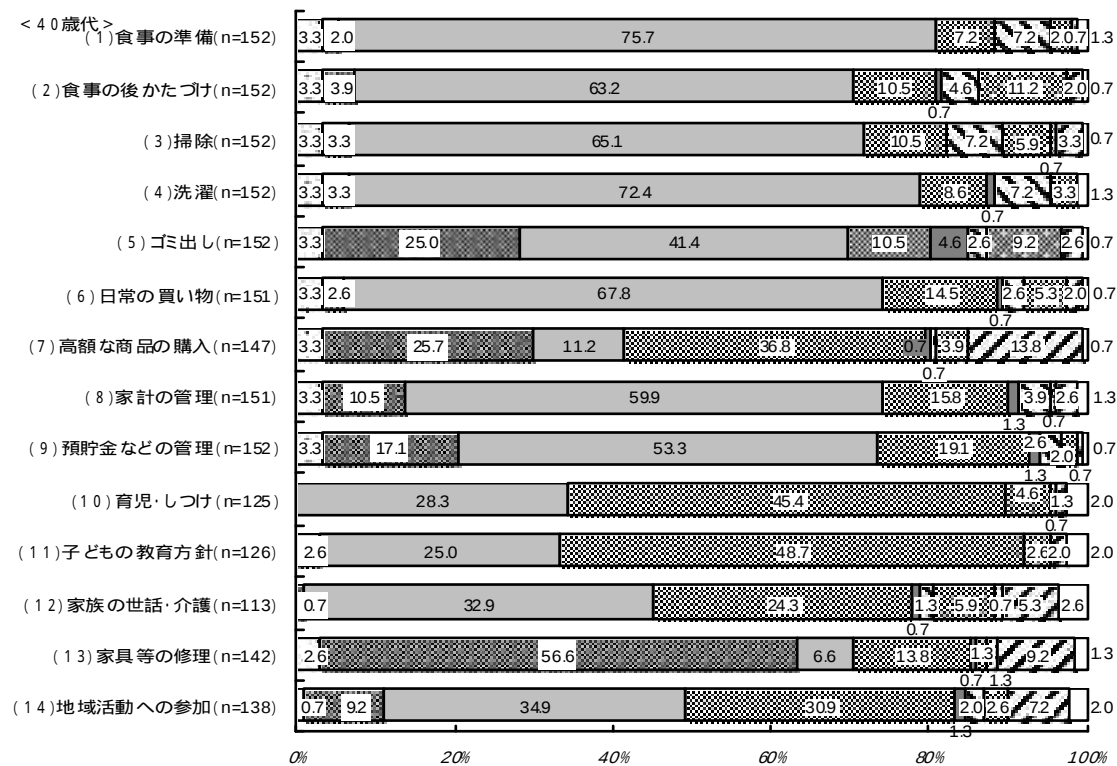
図 4 - 1 家庭における家事の役割分担（全体）

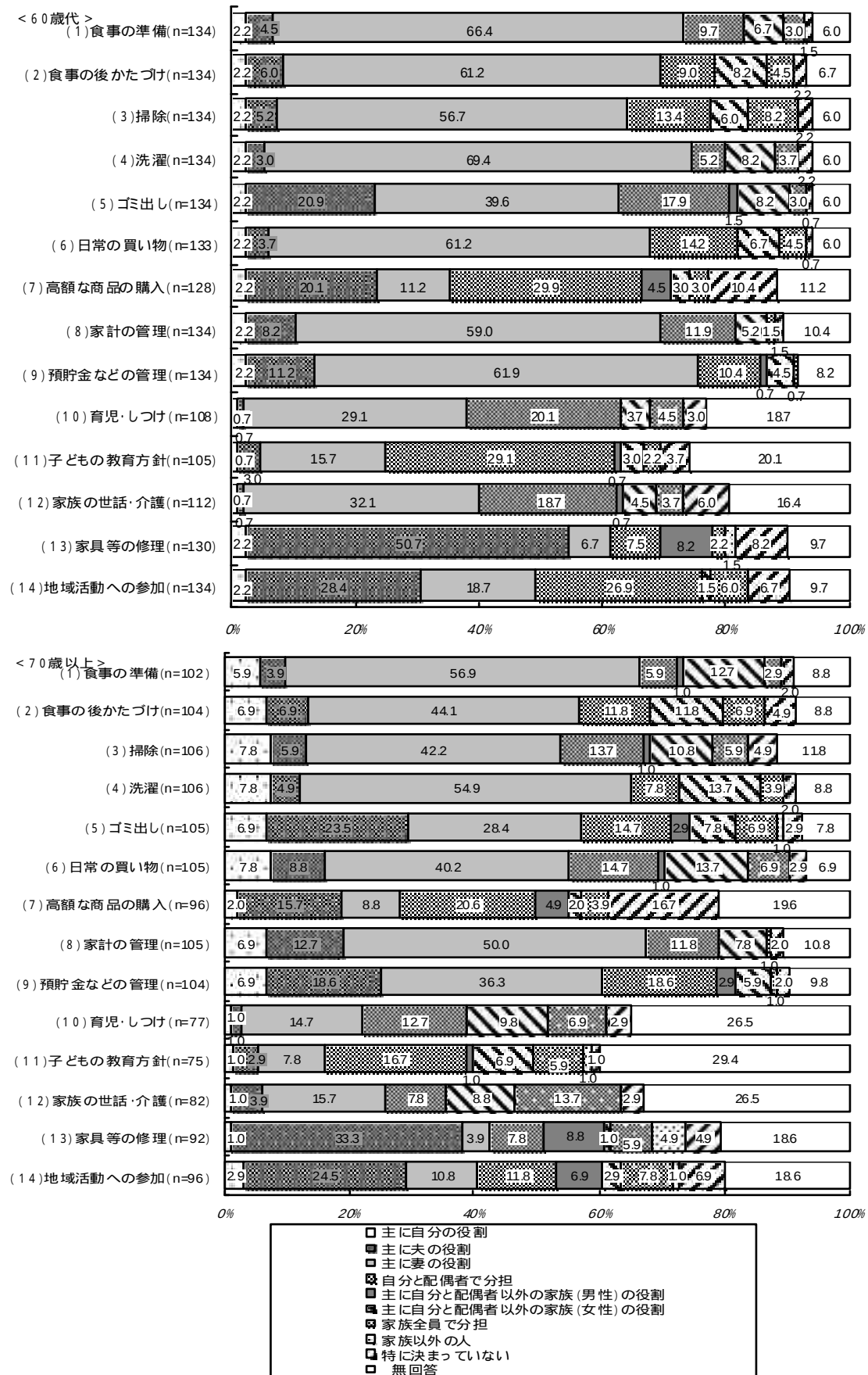


注) それぞれの項目の全体数 (n) は、属性が「一人暮らし」の回答者とそれぞれの項目について「該当事項がない」と回答している人を除いた数値である。

図4 - 1(1) 家庭における家事の役割分担（年齢別）







問 4 - 2 分担が望ましい家事

問 4 - 1 で挙げた家事のうち、「夫婦で分担」あるいは「家族で分担」が望ましいと思う項目について質問したところ、「家族の世話・介護」が 60.8%と最も高く、次いで「育児・しつけ」が 51.3%、「子どもの教育方針」が 44.4%の順となっている。

男性では、「家族の世話・介護」が 55.8%と最も高く、次いで「育児・しつけ」が 47.4%、「掃除」が 44.2%の順である。女性では「家族の世話・介護」が 65.1%と最も高く、次いで「育児・しつけ」が 55.1%、「子どもの教育方針」が 46.1%の順となっている。

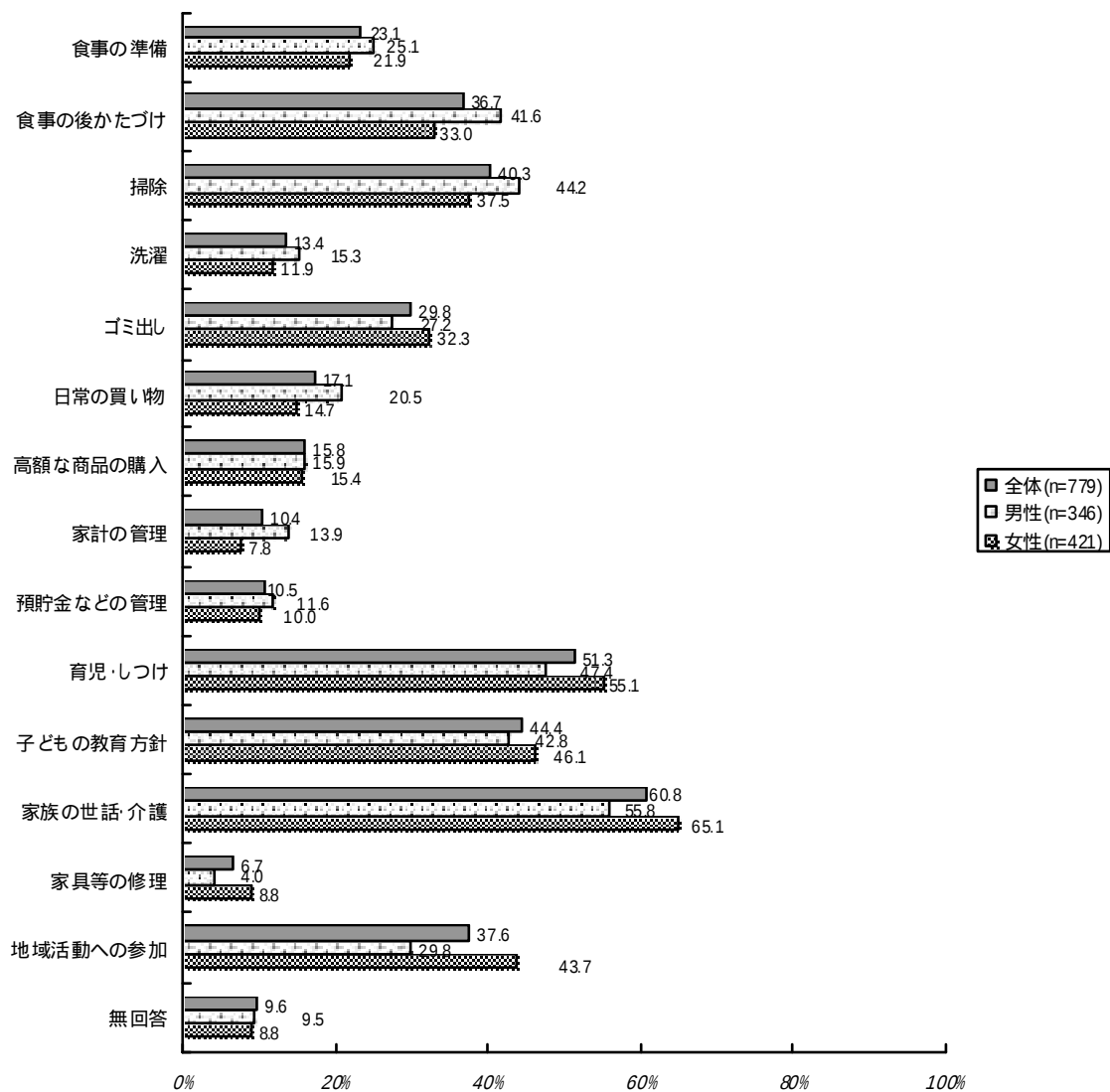
男性の回答者が女性の回答者より「分担が望ましい」と回答する割合が高い項目は、「食事の準備」、「食事の後かたづけ」、「掃除」、「洗濯」、「日常の買い物」、「家計の管理」などであり、女性が分担している割合が高いという現状から改善すべきとの意思があると読み取れる。

女性の回答者が男性の回答者より「分担が望ましい」と回答する割合が高い項目は、「育児・しつけ」、「子どもの教育方針」、「家族の世話・介護」、「家具等の修理」、「地域活動への参加」などであり、実際に夫婦または家族で分担している割合が比較的高い項目が挙げられている。

問 4 - 2 問 4 - 1 の項目のうち、「自分と配偶者で分担」または「家族全員で分担」が望ましいと思うものはどれですか。 ～ の項目から、最大 5 つまで選んで()の番号を記入してください。

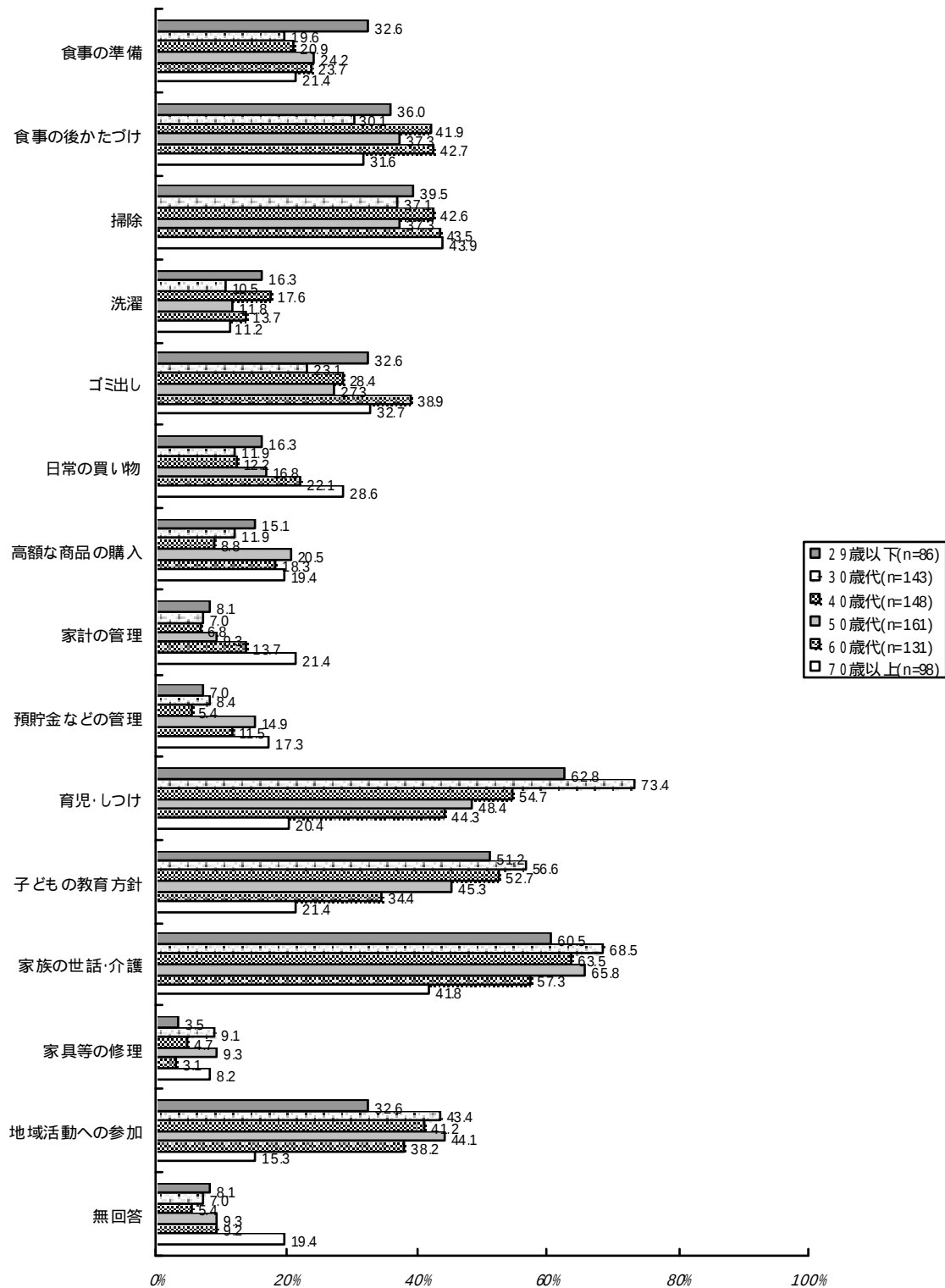
問 4 - 1 で「自分と配偶者で分担」または「家族全員で分担」と答えた項目を選んでいただいてもかまいません。

図 4 - 2 分担が望ましい家事



年齢別にみると、29歳以下、30歳代では最も高いのが「育児・しつけ」である一方、40歳代、50歳代、60歳代では「家族の世話・介護」が最も高い。上位3位までは、ほとんどの年代で、上記2項目に加え「子どもの教育方針」となっている。

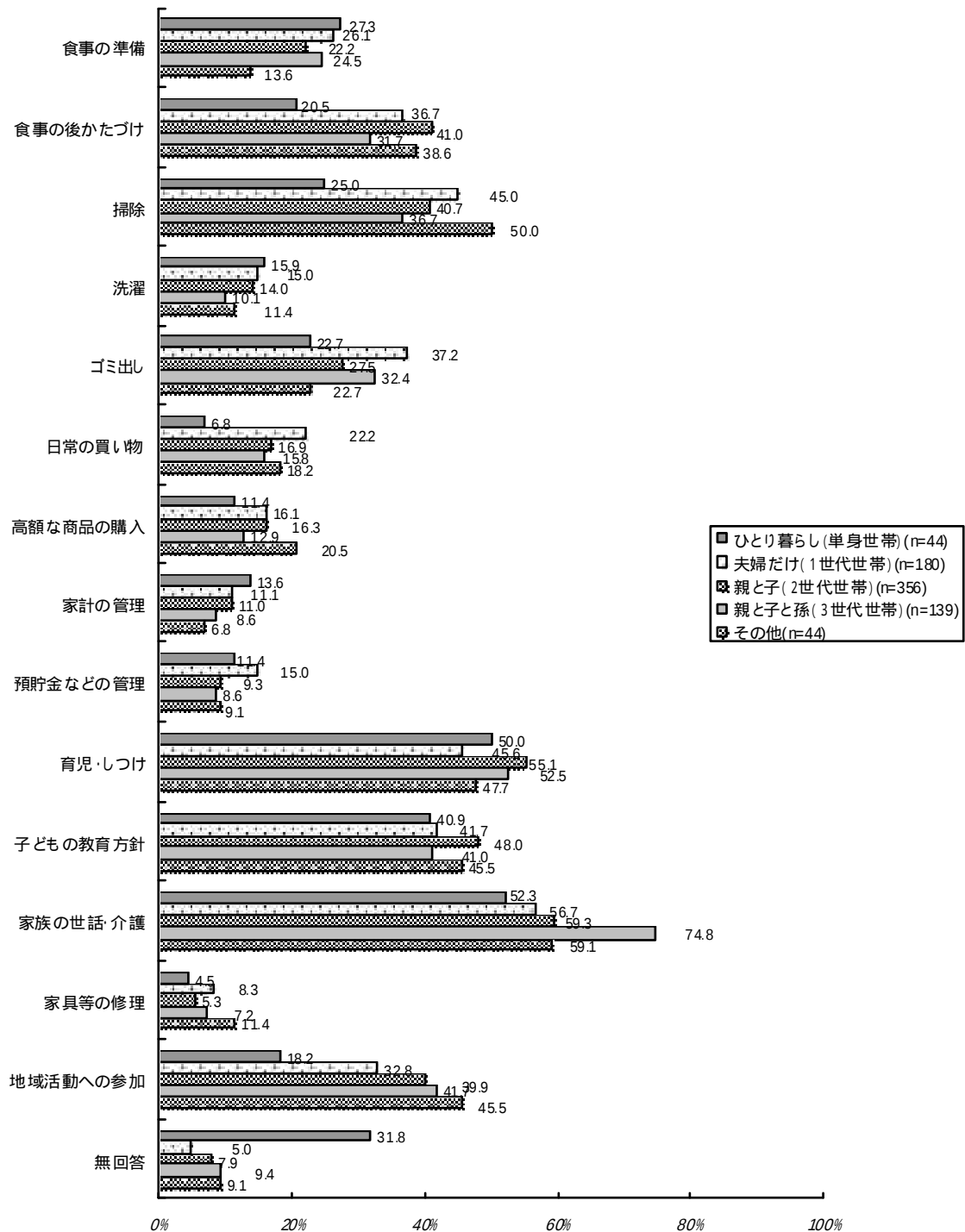
図4 - 2(1) 分担が望ましい家事（年齢別）



家族構成別にみると、3 世代世帯では、「家族の世話・介護」が 74.8%と最も高く、他の世帯と比べても 10 ポイント以上の差をつけている。また、3 世代世帯では、「地域活動への参加」が 3 位に挙がっているのも特徴的である。

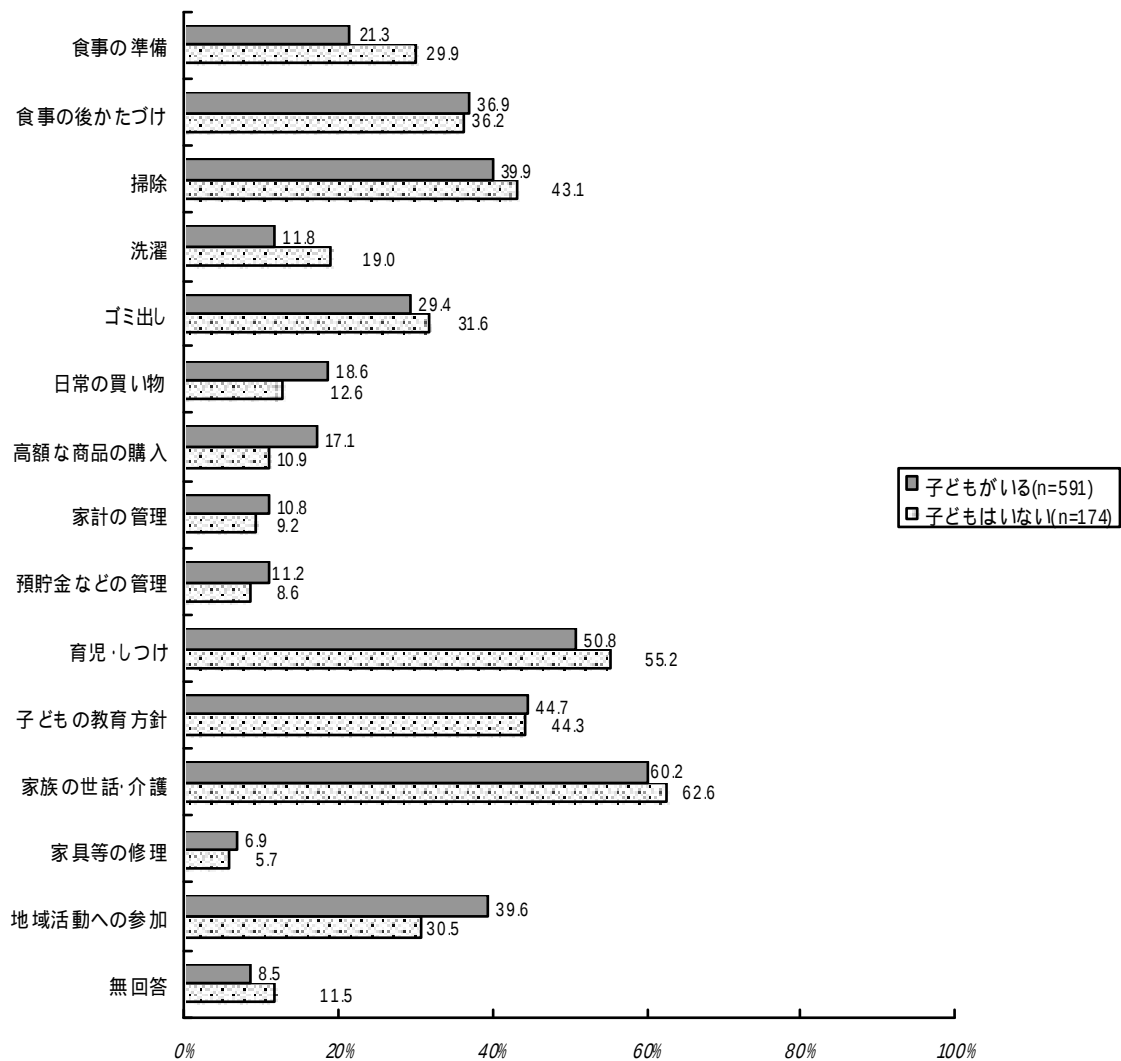
1 世代世帯では、3 番目に「掃除」、5 番目に「ゴミ出し」が挙がるなど、他の世帯よりも日常的な家事での分担を望ましいという意見が高い。

図 4 - 2 (2) 分担が望ましい家事（家族構成別）



子どもの有無別にみると、子どもがいる場合は「地域活動への参加」を家族で分担するのが望ましいとの意見の割合が、子どもがいない場合より高くなっている。これは、子どもがいる回答者は、子どもに関係する活動で地域とのつながりを持つ機会が多いためと考えられる。

図4 - 2(3) 分担が望ましい家事(子どもの有無別)



居住地区別には、目立った特徴は見られない。

問5 子どもの育て方についての考え

子どもの育て方についての考えを質問したところ、「男女関係なく、子どもの個性に応じて育てるのがよい」の回答割合が最も高く 47.1%であり、次いで「女の子も経済的自立ができるように、男の子も家事ができるように育てるのがよい」の回答割合が 35.8%、「男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」の回答割合が 15.1%となっている。

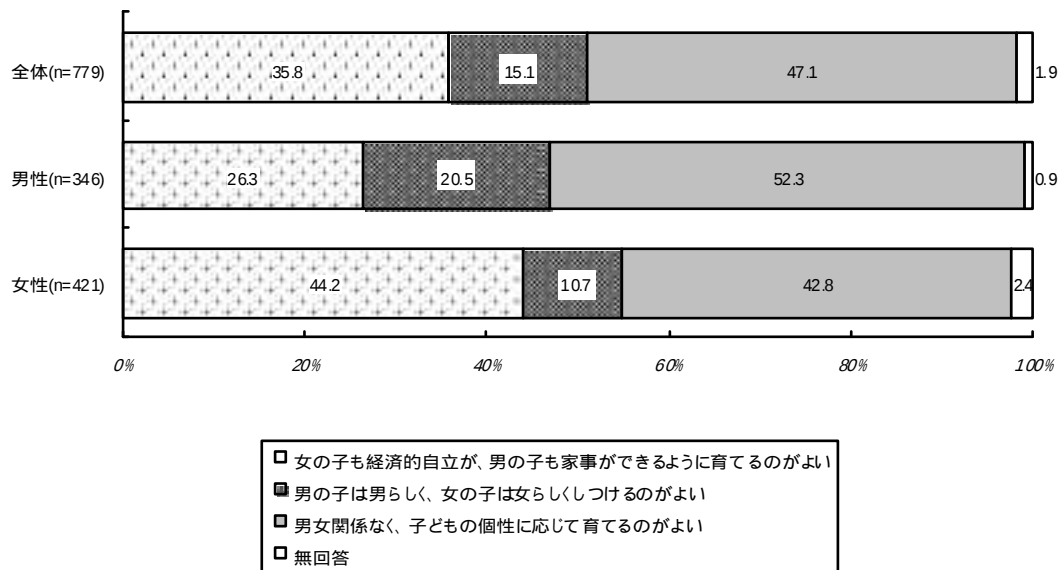
男性では「男女関係なく、子どもの個性に応じて育てるのがよい」の回答割合が 52.3%と過半数であり、次いで、「女の子も経済的自立ができるように、男の子も家事ができるように育てるのがよい」の回答割合が 26.3%、「男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」の回答割合が 20.5%となっている。全体の傾向と比較すると、「男女関係なく、子どもの個性に応じて育てるのがよい」と「男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」の回答割合が高く、「女の子も経済的自立ができるように、男の子も家事ができるように育てるのがよい」の回答割合は低くなっている。

一方、女性では「女の子も経済的自立ができるように、男の子も家事ができるように育てるのがよい」の回答割合が 44.2%と最も高くなっている。次いで「男女関係なく、子どもの個性に応じて育てるのがよい」の回答割合が 42.8%、「男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」との回答割合が 10.7%となっており、家庭における教育では、女性のほうが男女平等教育の推進に対する意識が高いといえる。

問5 あなたは子どもの育て方についてどのように思いますか。あなたのお考えに最も近いものを1つ選び、○を付けてください。

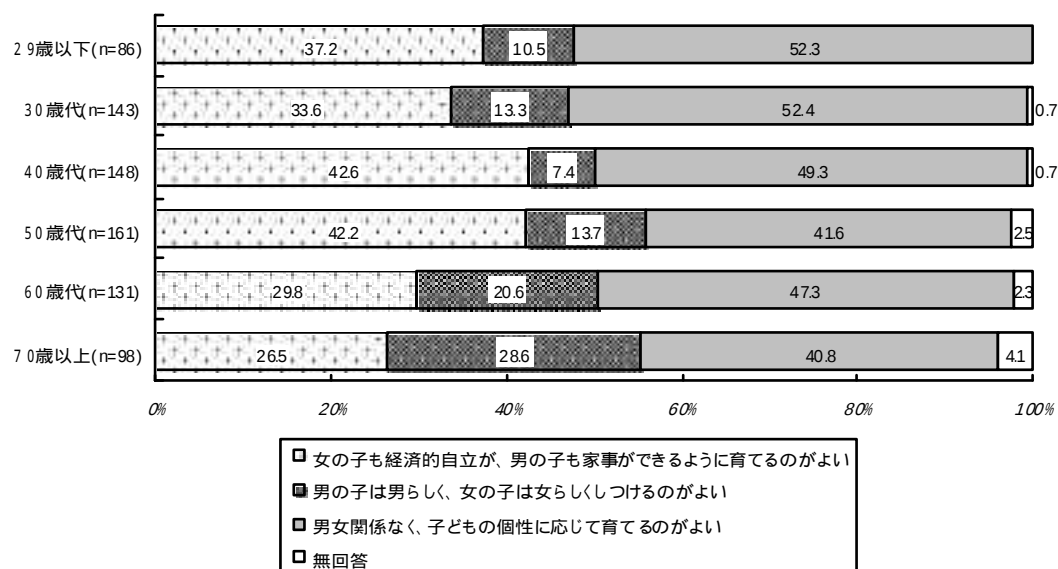
子どもがいらっしやらない方、またすでに養育が終わられた方も、「子どもを育てるとしたら」としてお答えください。

図5 子どもの育て方についての考え



年齢別にみると、29歳以下、30歳代では「男女関係なく、子どもの個性に応じて育てるのがよい」がそれぞれ52.3%、52.4%と高い。40歳代、50歳代では「女の子も経済的自立が、男の子も家事ができるように育てるのがよい」がそれぞれ、42.6%、42.2%と高い。「男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」との回答は40歳代がもっとも低く、29歳以下、30歳代、50歳代が10%台前半と同程度で、40歳代以降、年齢が高くなるにつれ割合も高くなる。

図5(1) 子どもの育て方についての考え（年齢別）



子どもの有無別には、ほとんど違いがみられない。

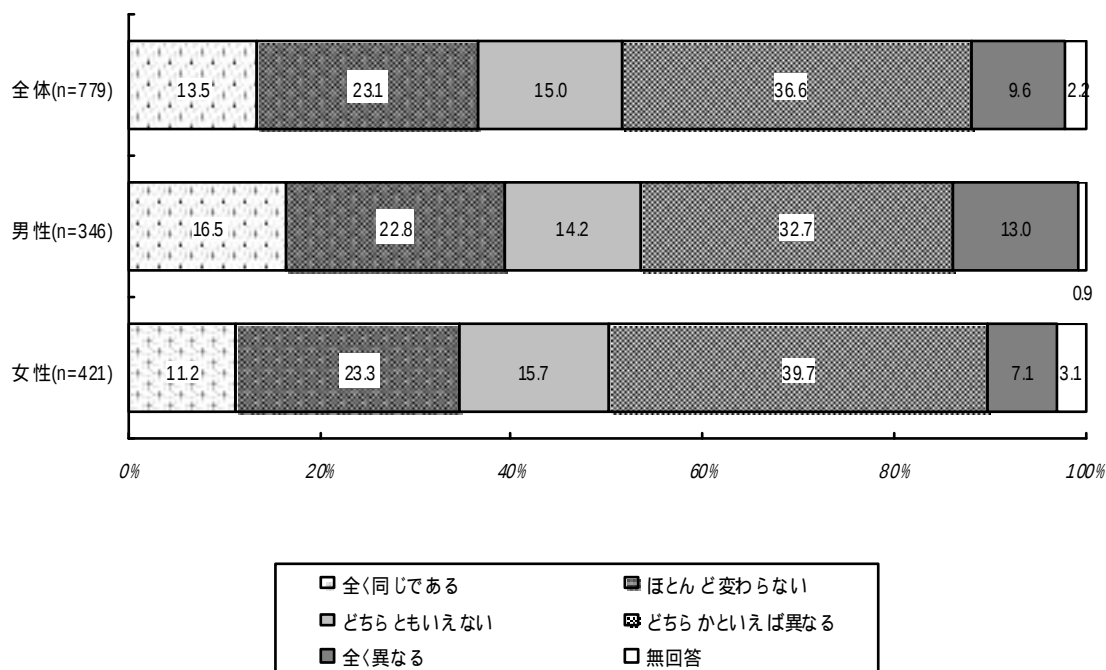
問6 子育てにおける父親と母親の違い

子育てにおける父親と母親の違いについてどう考えるかという質問に対して、「どちらかといえば異なる」の回答割合が高く、36.6%である。次いで「ほとんど変わらない」が23.1%、「どちらともいえない」が15.0%、「全く同じである」が13.5%の順である。全体として、「異なる」（「どちらかといえば異なる」と「全く異なる」を合わせた回答）との意見の方が46.2%と強い。

男女別にみると、男性では「どちらかといえば異なる」の回答割合が32.7%、次いで「ほとんど変わらない」が22.8%、「全く同じである」が16.5%、「どちらともいえない」が14.2%となっており、「異なる」との意見の方が強い。女性では「どちらかといえば異なる」が39.7%、「ほとんど変わらない」が23.3%、「どちらともいえない」が15.7%、「全く同じである」が11.2%の順となっており、女性も「異なる」との意見の方が強い。

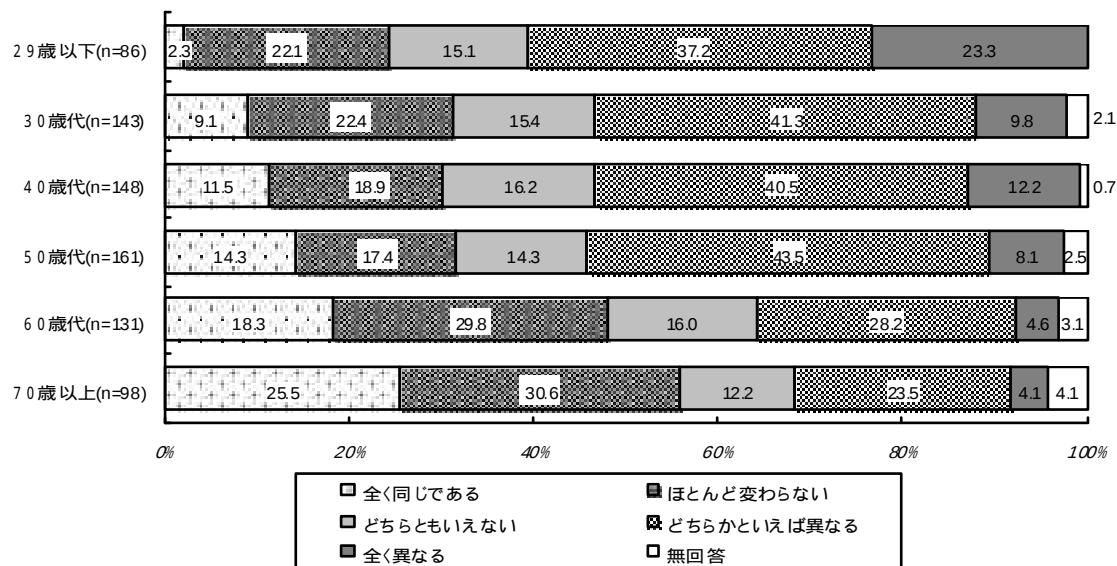
問6 あなたは、子育てにおける父親と母親の役割の違いについてどうお考えですか。あてはまるものを1つ選び、○を付けてください。

図6 子育てにおける父親と母親の違い



年齢別にみると、「全く同じである」は年齢が高くなるにつれ割合も高くなっている。また「ほとんど変わらない」を合わせた、変わらないとの意見は年齢が高くなるにつれ高くなる傾向にあり、一方で異なるとの意見は年齢が低くなるにつれ低くなる。

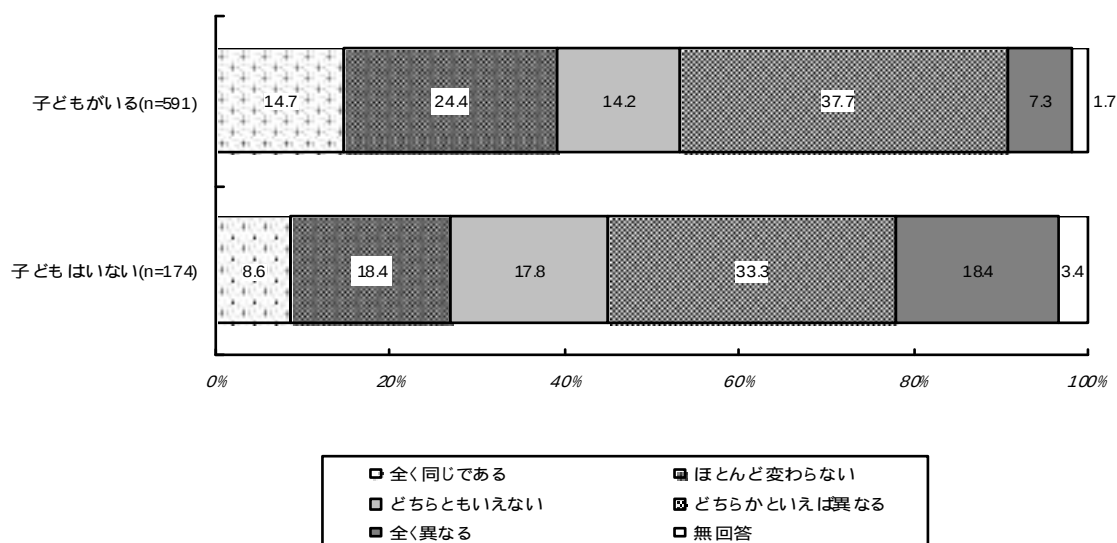
図 6 (1) 子育てにおける父親と母親の違い (年齢別)



家族構成別には、目立った特徴がみられない。

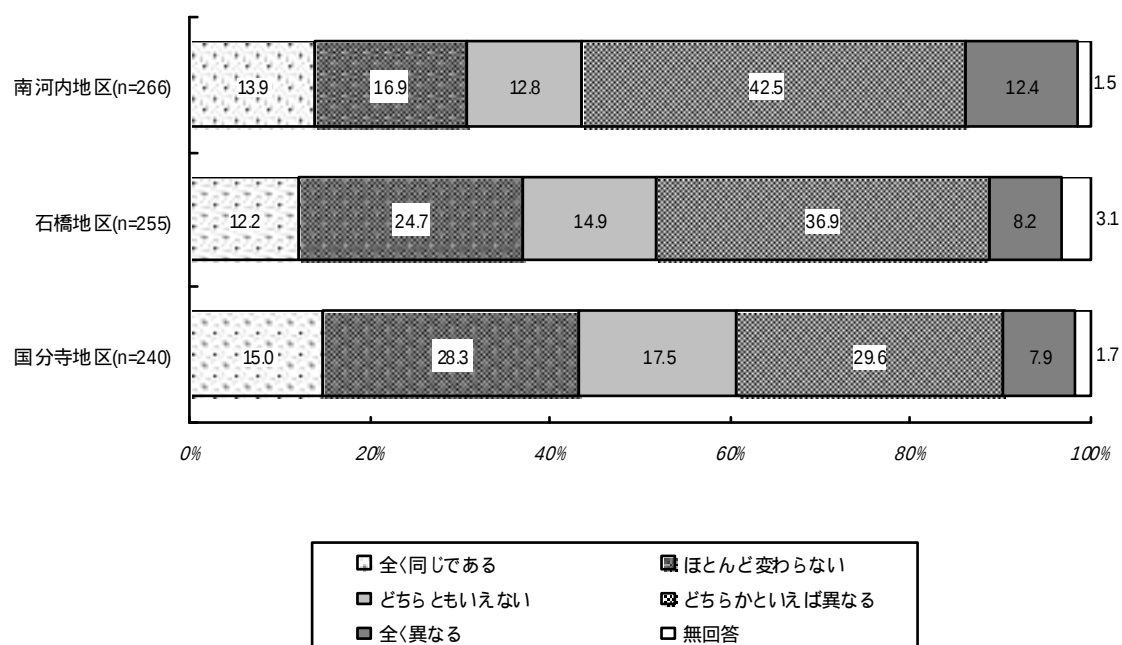
子どもの有無別では、子どもがいる回答者は「全く同じである」と「ほとんど変わらない」を合わせた、変わらないとの意見が 39.1%であり、子どもがいない回答者とは 12.1 ポイントの差がある。子どもがいない回答者は「どちらかといえば異なる」と「全く異なる」を合わせた、異なるとの意見が 51.7%であり、子どもがいる回答者とは 6.7 ポイントの差がある。

図 6 (2) 子育てにおける父親と母親の違い (子どもの有無別)



居住地区別では、「全く同じである」と「ほとんど変わらない」を合わせた、変わらないとの意見は国分寺地区で最も高く、異なるとの意見は南河内地区で最も高い。

図 6 (3) 子育てにおける父親と母親の違い (居住地区別)



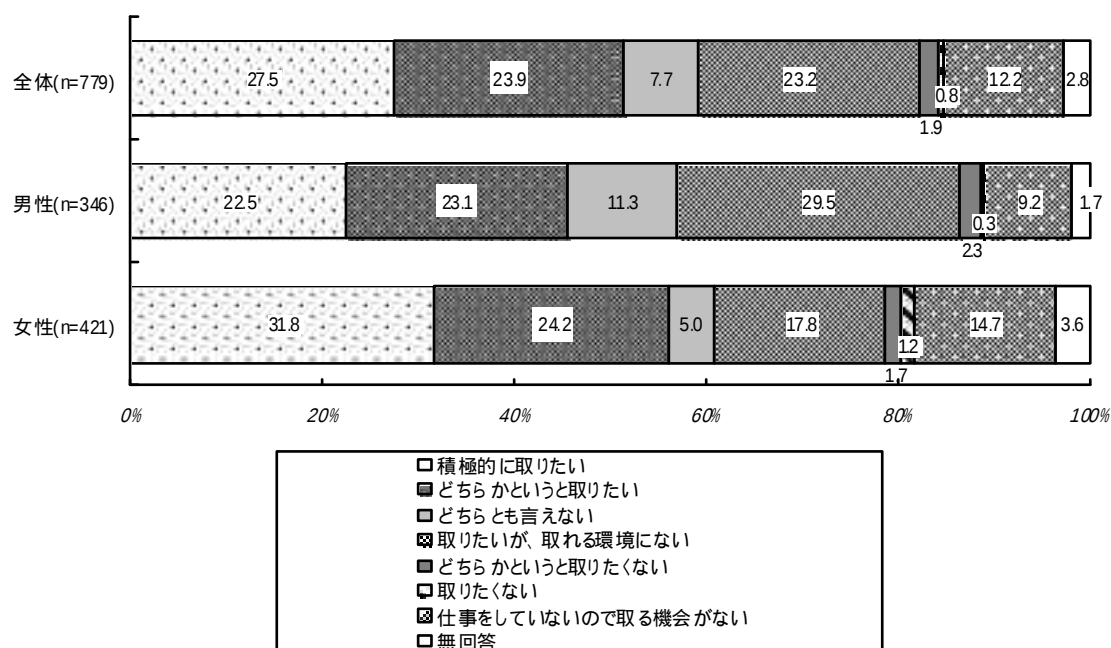
問7 育児休業・介護休業の取得

育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取ることにについての考えを質問したところ、「積極的に取りたい」との回答が27.5%と最も高く、「どちらかというに取りたい」が23.9%、次いで「取りたいが、取れる環境にない」が23.2%となっている。

男性では、「取りたいが取れる環境にない」が29.5%と最も高くなっており、次いで「どちらかというに取りたい」が23.1%、「積極的に取りたい」が22.5%の順である。一方、女性では「積極的に取りたい」が31.8%と最も高く、「どちらかというに取りたい」が24.2%、「取りたいが、取れる環境にない」が17.8%の順である。男性も女性も「取りたい」と考えている回答者が大半だが、男性は取れる環境に置かれていないとの認識が女性と比較して強い。

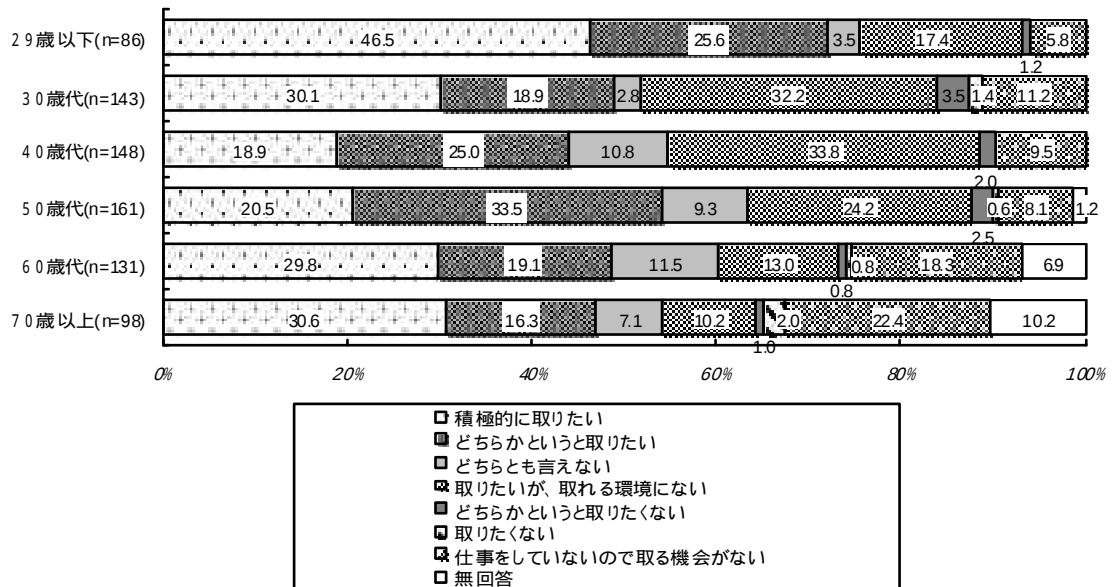
問7 育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取ることにについて、あなたはどうお考えですか。あてはまるものを1つ選び、○を付けてください。
現在取得する予定がない方も、将来取る必要が生じた場合としてお答えください。

問7 育児休業・介護休業の取得



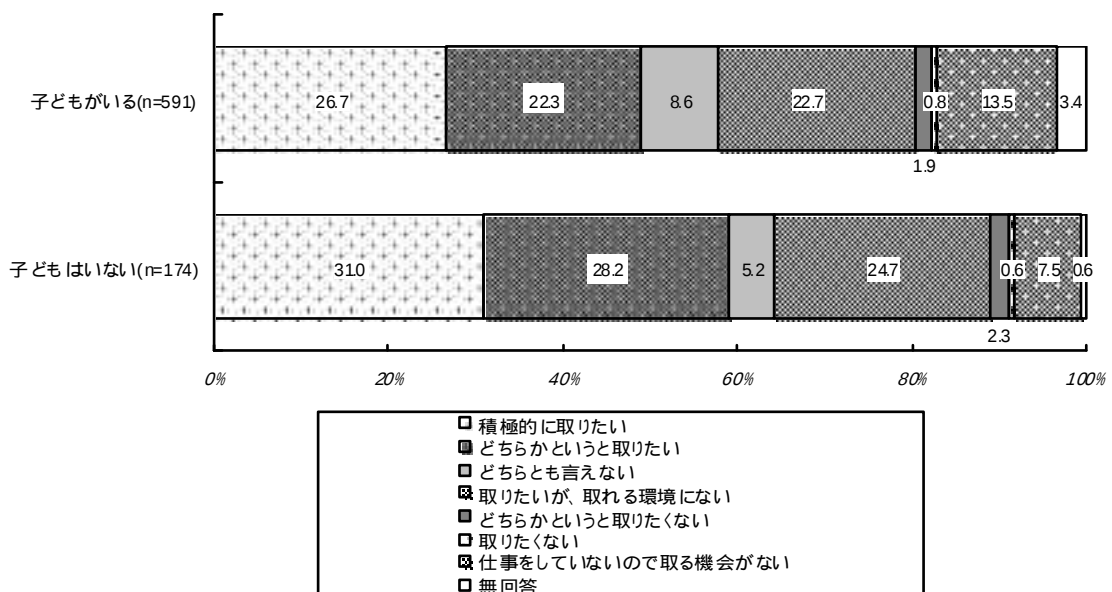
年齢別にみると、「積極的に取りたい」と「どちらかという取りたい」を合わせた、取りたいという意見が 29 歳以下で最も高く 72.1%、次いで 50 歳代で 54.0%となっている。30 歳代と 40 歳代では「取りたいが、取れる環境にない」という意見が 30%を超えている。

問 7 (1) 育児休業・介護休業の取得（年齢別）



子どもの有無別にみると、子どもがいない回答者は「積極的に取りたい」と「どちらかという取りたい」を合わせた、取りたいとの意見が 59.2%であり、子どもがいる回答者と比して 10.2 ポイント高い。

問 7 (2) 育児休業・介護休業の取得（子どもの有無別）



問 8 男性、女性ともに家事等に参加するための環境づくり

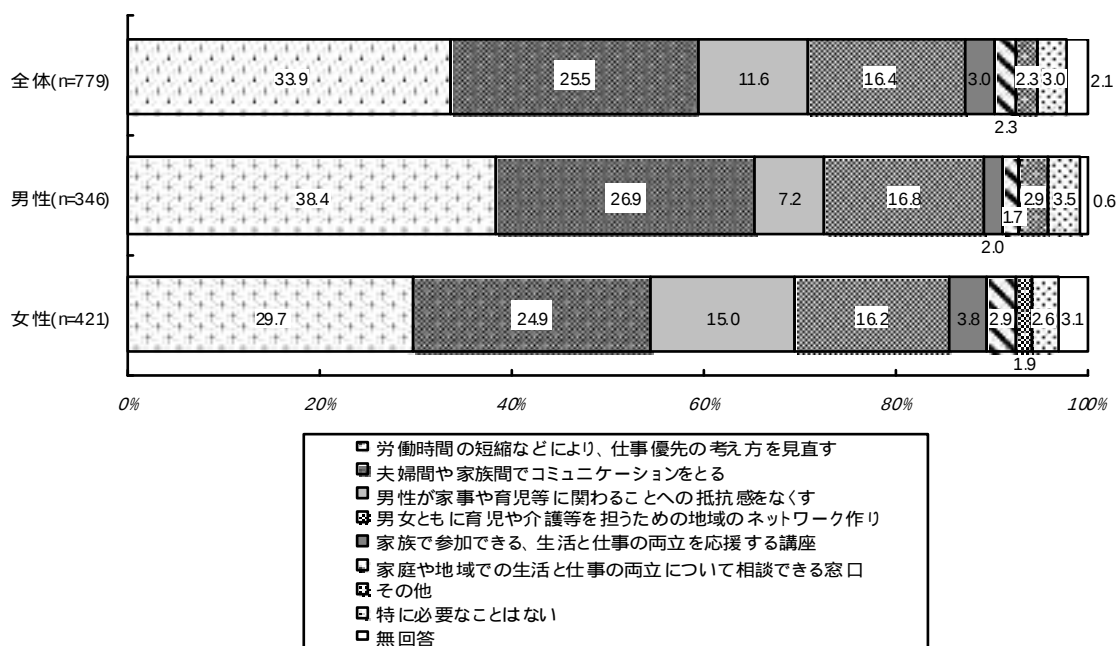
今後、男性も女性もともに、家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するために重要だと思う事項を問う質問に対して、「労働時間の短縮などにより、仕事優先の考え方を見直す」の回答割合が 33.9%と最も高く、次いで「夫婦間や家族間でコミュニケーションをとる」が 25.5%、「男女ともに育児介護等を担うための地域のネットワーク作り」が 16.4%の順となっている。

男女別にみると、男性では「労働時間の短縮などにより、仕事優先の考え方を見直す」の回答割合が 38.4%と最も高く、次いで「夫婦間や家族間でコミュニケーションをとる」が 26.9%、「男女ともに育児介護等を担うための地域のネットワーク作り」が 16.8%となっており、全体の順位と同様である。女性においても順位は同様であり、「労働時間の短縮などにより、仕事優先の考え方を見直す」の回答割合が 29.7%と最も高く、次いで「夫婦間や家族間でコミュニケーションをとる」が 24.9%、「男女ともに育児介護等を担うための地域のネットワーク作り」が 16.2%となっている。また「男性が家事や育児等に関わることへの抵抗感をなくす」の回答割合が 15.0%と、男性（7.2%）に比して約 2 倍の割合を占めている。

男性は女性に比して、仕事と家庭の両立を目指すことが必要との認識が強く、女性は男性に比して、男性の意識改革が必要との認識が強いと読み取れる。

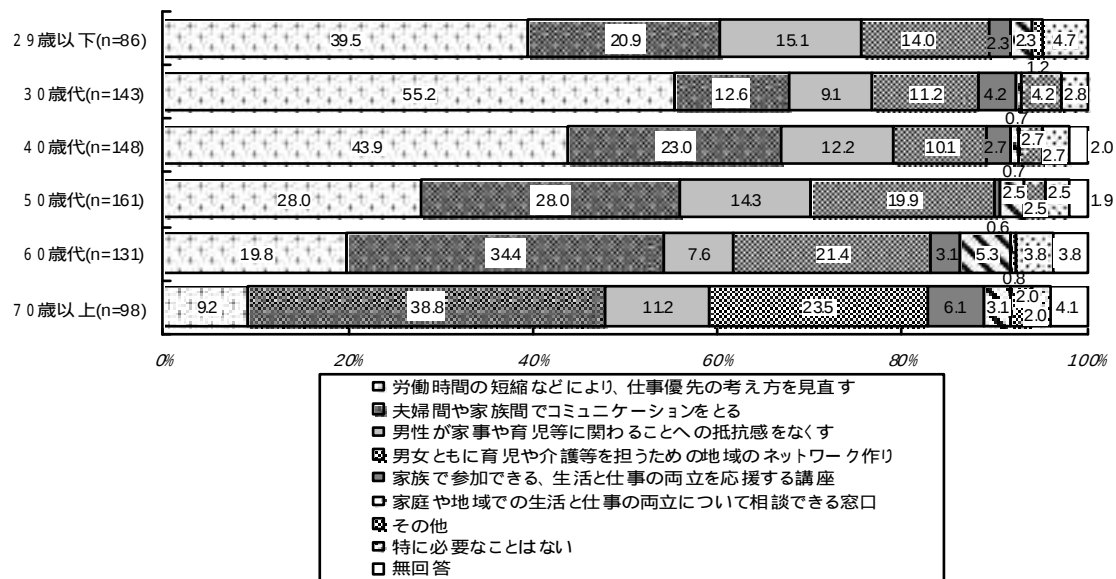
問 8 今後、男性も女性もともに、家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するためには、どのようなことがもっとも重要だと思いますか。次の中から 1つ 選び、○を付けてください。

図 8 男性、女性ともに家事等に参加するための環境づくり



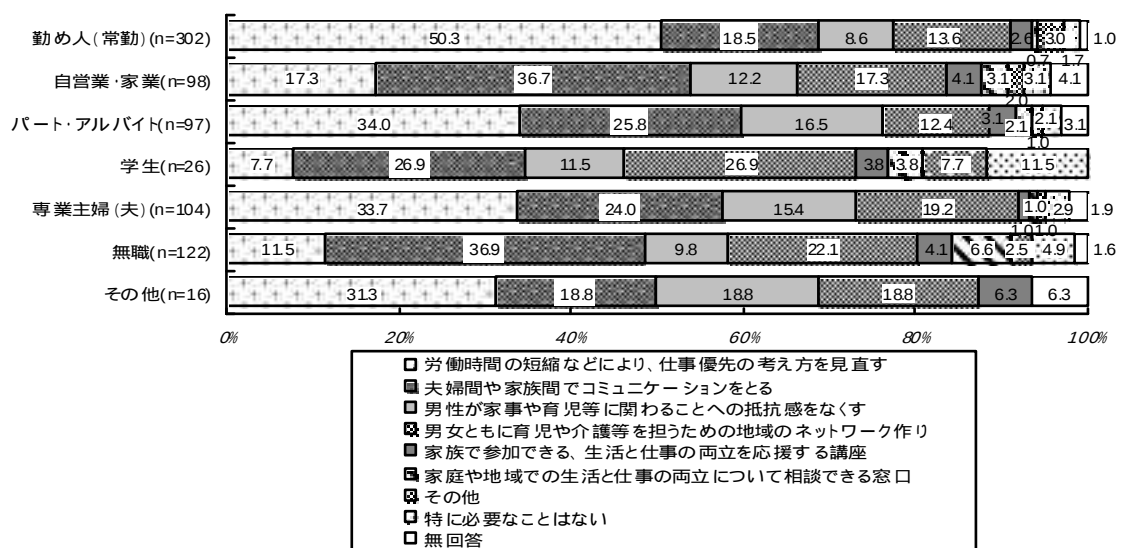
年齢別にみると、「労働時間の短縮などにより、仕事優先の考え方を見直す」では、30歳代以降年齢が高くなるにつれ割合は低くなる一方、「夫婦間や家族間でコミュニケーションをとる」では30歳代以降、年齢が高くなるにつれ割合も高くなっている。年齢が高くなるにつれ、家事分担は家族内の問題であるとの認識が強い。「男女ともに育児や介護等を担うための地域のネットワーク作り」は40歳代以降年齢が高くなるにつれ割合が高くなっており、年齢が高くなるにつれ、地域でのつながりを重視している傾向にある。

図 8 (1) 男性、女性ともに家事等に参加するための環境づくり（年齢別）



職業別にみると「労働時間の短縮などにより、仕事優先の考え方を見直す」において、勤め人(常勤)の回答者が50.3%と最も高い。「夫婦間や家族間でコミュニケーションをとる」では、自営業・家業の回答者と無職の回答者がそれぞれ36.7%、36.9%とほぼ同率である。

図 8 (2) 男性、女性ともに家事等に参加するための環境づくり（職業別）



C 男女が安心して健康に暮らせる環境

問9 ドメスティック・バイオレンス（DV）の認識

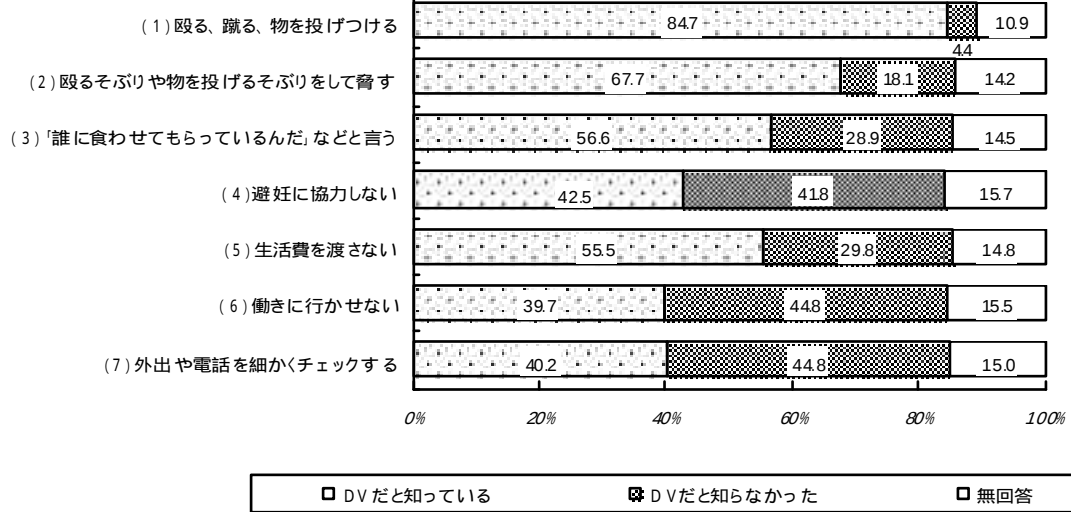
ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人など親密な関係にある（あった）パートナーからの暴力）に当たる行為についての認識を質問したところ、「（１）殴る、蹴る、物を投げつける」行為については84.7%の回答者がDVと認識しており、DVの認識割合は最も高い。次いで「（２）殴るそぶりや物を投げるそぶりをして脅す」行為については67.7%、「（３）「誰に食わせてもらっているんだ」などと言う」行為については56.6%、「（５）生活費を渡さない」行為については55.5%がDVと認識している。「（４）避妊に協力しない」行為については、DVと知っている割合のほうが知らない割合よりも若干高いものの、42.5%と過半数を切っている。また、「（６）働きに行かせない」行為や「（７）外出や電話を細かくチェックする」行為は知っている割合よりも知らない割合の方が高くなっており、それぞれ44.8%の回答者がDVと知らないと回答している。

男女別にみると、男性はすべての項目において、「知っている」との回答割合のほうが「知らなかった」との回答割合よりも高い。女性は、「（４）避妊に協力しない」、「（６）働きに行かせない」、「（７）外出や電話を細かくチェックする」の項目で、「知らなかった」との回答割合のほうが「知っている」との回答割合よりも高く、男性のほうが女性よりもDVについての知識を持っていると読み取れる。

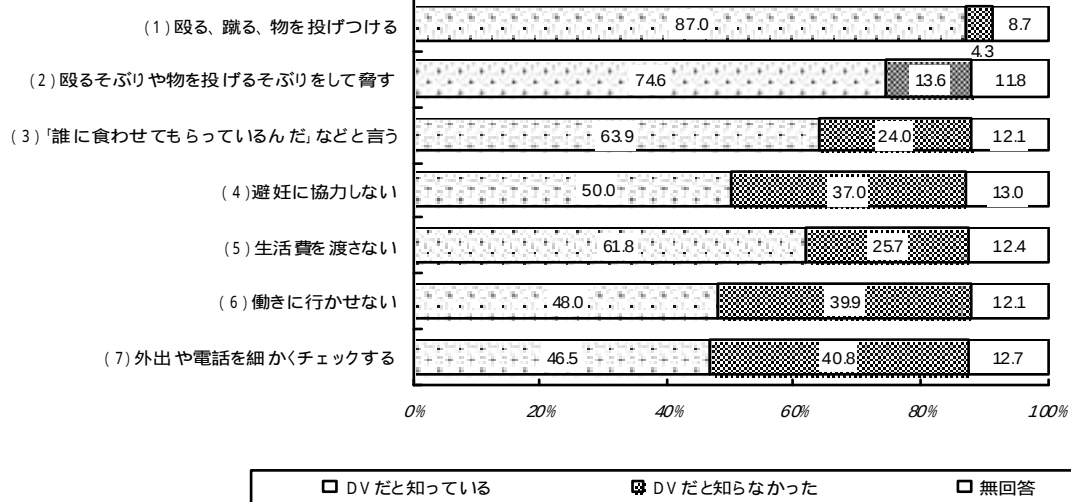
問9 あなたは次にあげる行為が、ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人など親密な関係にある（あった）パートナーからの暴力）にあたると知っていますか。それぞれの項目について、いずれか1つに○を付けてください。

図9 ドメスティック・バイオレンスの認識

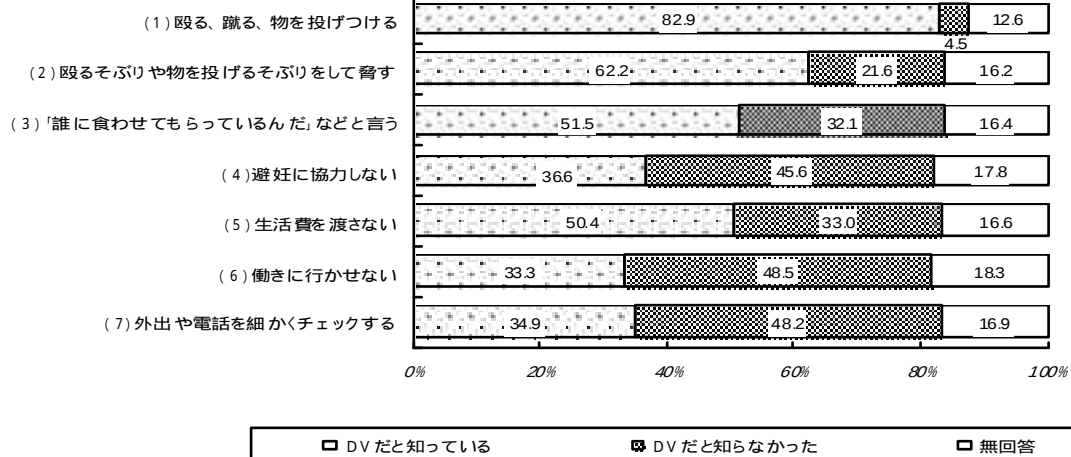
< 全体(n=779) >



< 男性(n=346) >

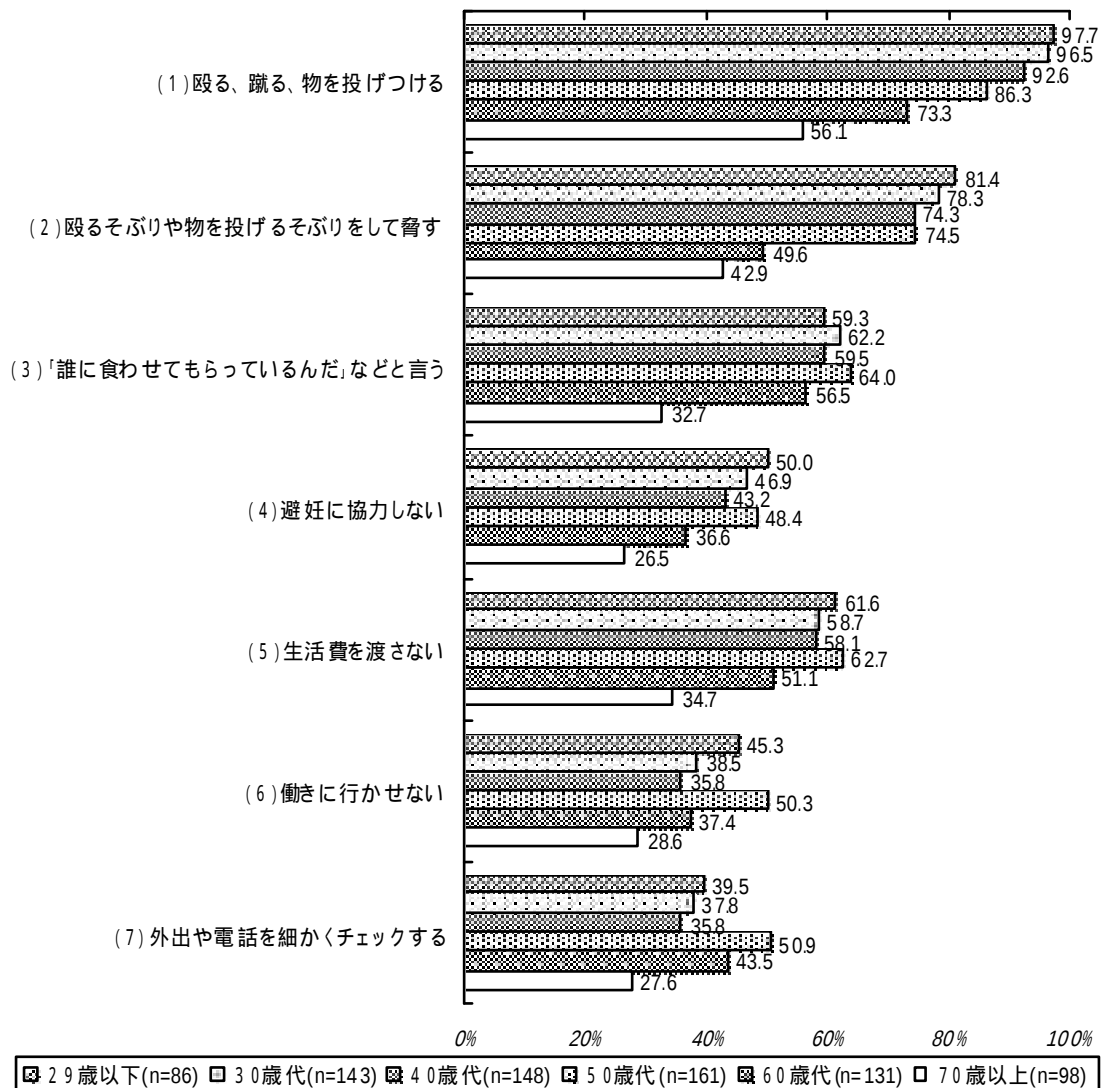


< 女性(n=421) >



年齢別にみると、「(1) 殴る、蹴る、物を投げつける」行為、「(2) 殴るそぶりや物を投げるそぶりをして脅す」行為は、年齢が高くなるにつれ、認識が下がる傾向にある。その他については、「(3) 「誰に食わせてもらっているんだ」などと言う」、「(5) 生活費を渡さない」、「(6) 働きに行かせない」、「(7) 外出や電話を細かくチェックする」行為では 50 歳代の認識が最も高くなっている。

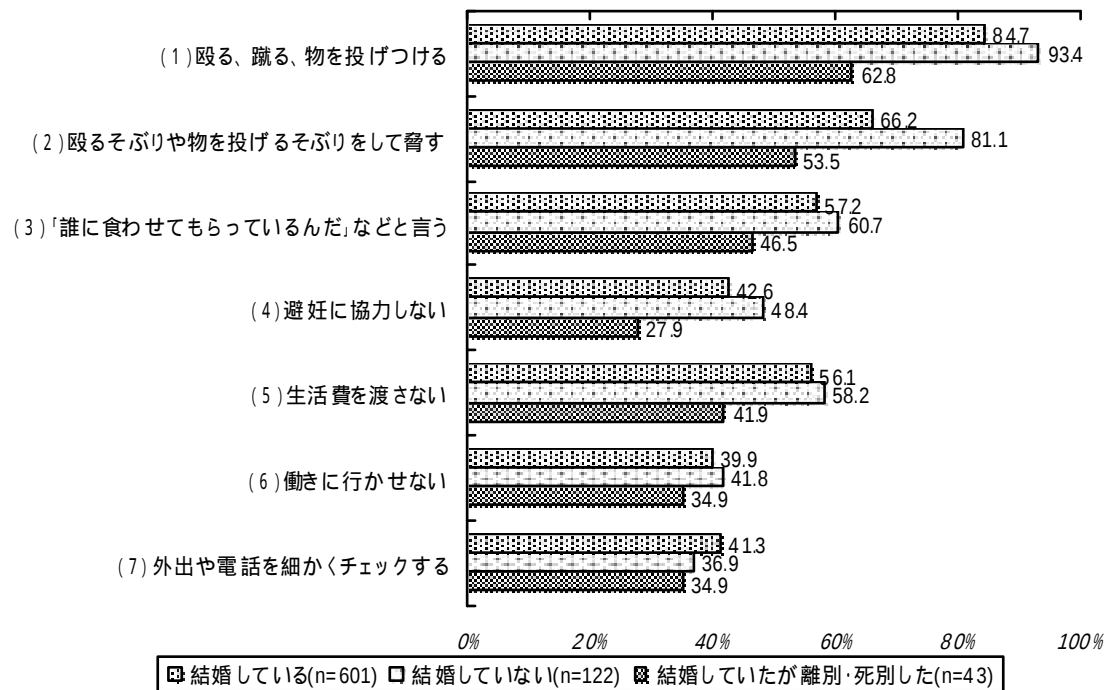
図 9 (1) ドメスティック・バイオレンスの認識 (年齢別)



各項目の各年代における、「DVだと知っている」との回答割合のみを示している。

「(7) 外出や電話を細かくチェックする」行為以外のすべての行為について、結婚していない回答者のほうが「DVだと知っている」割合が高い。特に、「(2) 殴るそぶりや物を投げるそぶりをして脅す」行為は、結婚していない場合が 81.1%と、結婚している場合と比して 25 ポイント程度の差がついている。

図 9 (2) ドメスティック・バイオレンスの認識 (結婚の有無)



各項目の各年代における、「DVだと知っている」との回答割合のみを示している。

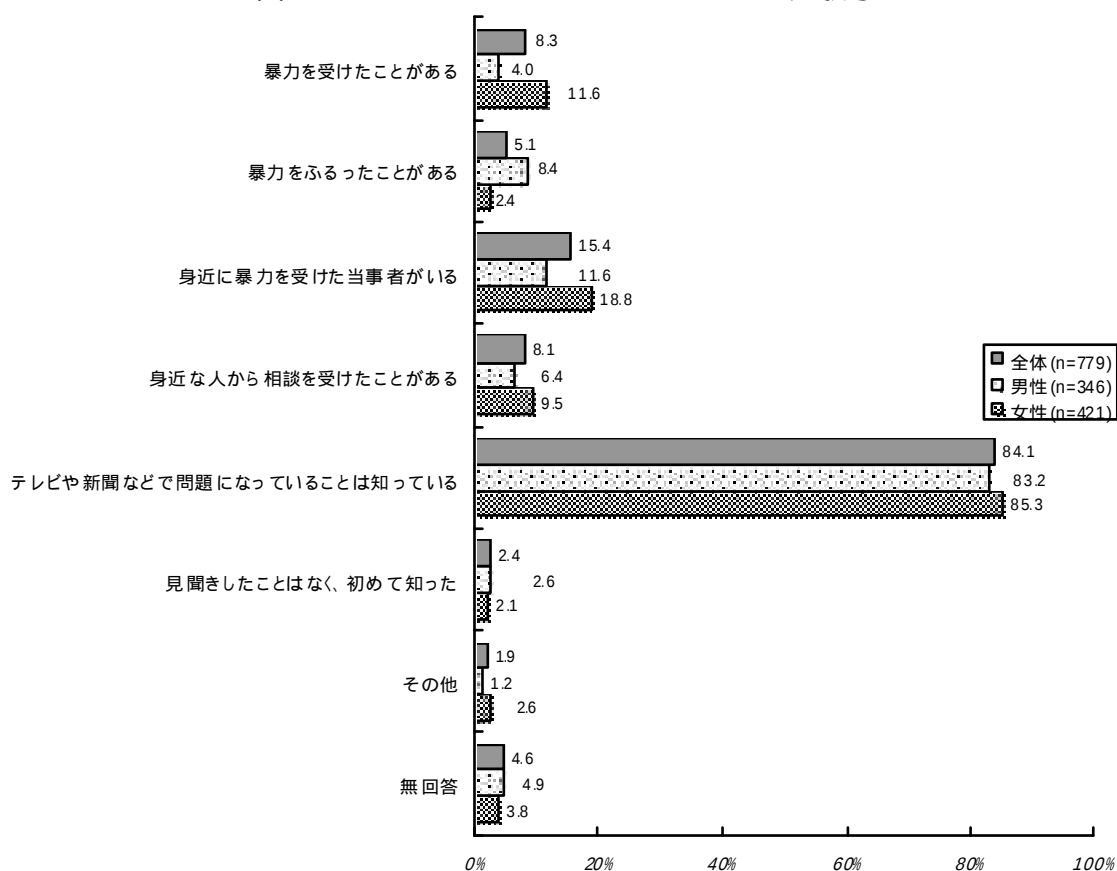
問10 ドメスティック・バイオレンスの経験等

問9で取り上げたドメスティック・バイオレンスを経験したり、身近で見聞きしたりしたことがあるかという質問に対して、84.1%の回答者が「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」と回答している。DVの被害者、加害者になったことがある人はそれぞれ8.3%、5.1%である。身近にDVの当事者がいる人、相談を受けたことがある人はそれぞれ15.4%、8.1%であり、1割前後の回答者がDVを身近なものと捉えているといえる。一方、「見聞きしたことはなく、初めて知った」との回答は2.4%と少数にとどまる。

男女別にみると、「暴力を受けたことがある」の割合は女性のほうが高く、「暴力をふるったことがある」の割合は男性のほうが高い。また「身近に暴力を受けた当事者がいる」「身近な人から相談を受けたことがある」の割合は、いずれも女性のほうが高い。男性が暴力をふるい、女性が暴力を受けるというケースが多く、また、DVの当事者は身近にいる女性に相談するケースが多いと読み取れる。

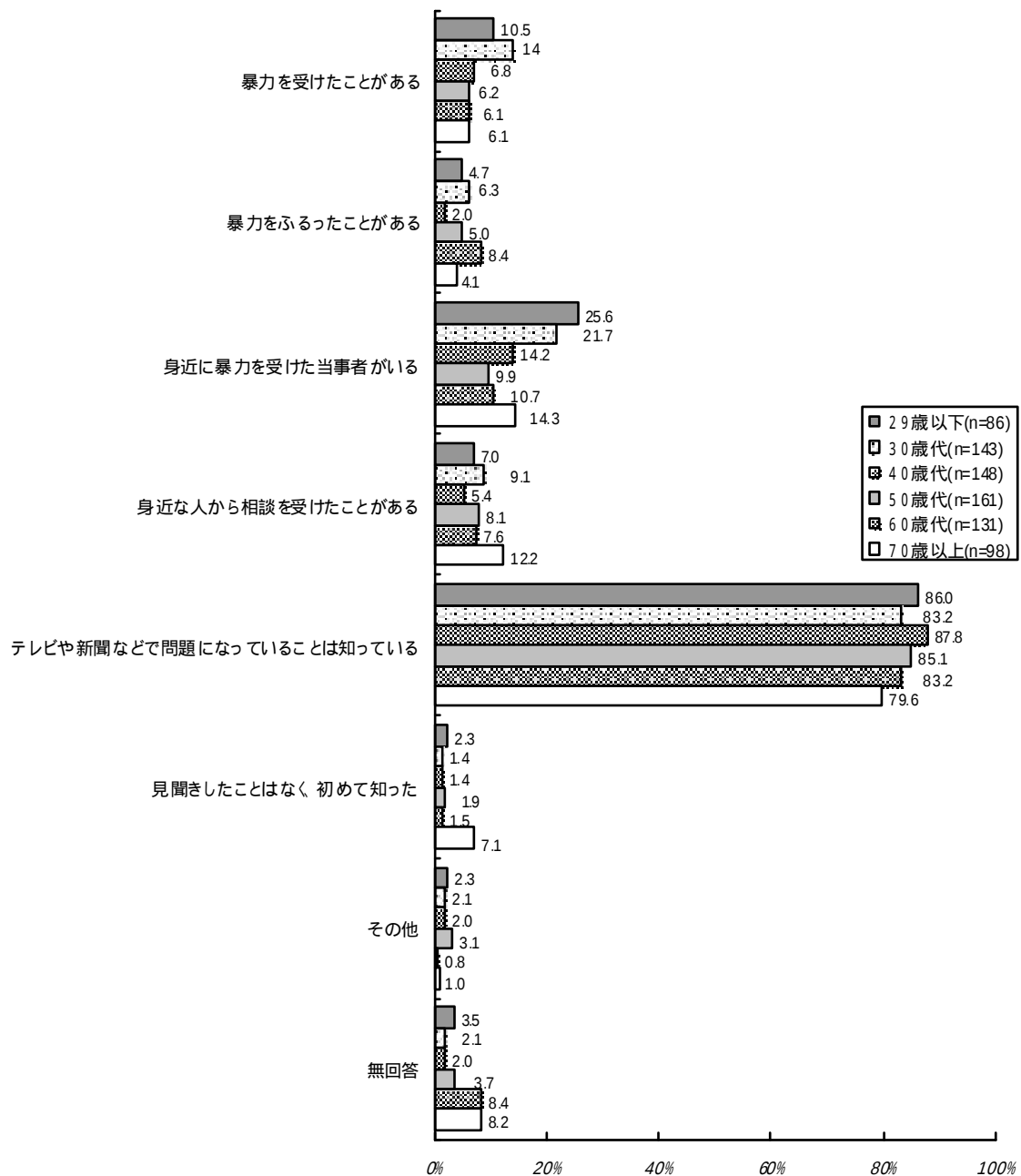
問10 あなたは、問9であげたようなドメスティック・バイオレンスを経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。あてはまるもの全てを選び、○を付けてください。

図10 ドメスティック・バイオレンスの経験等



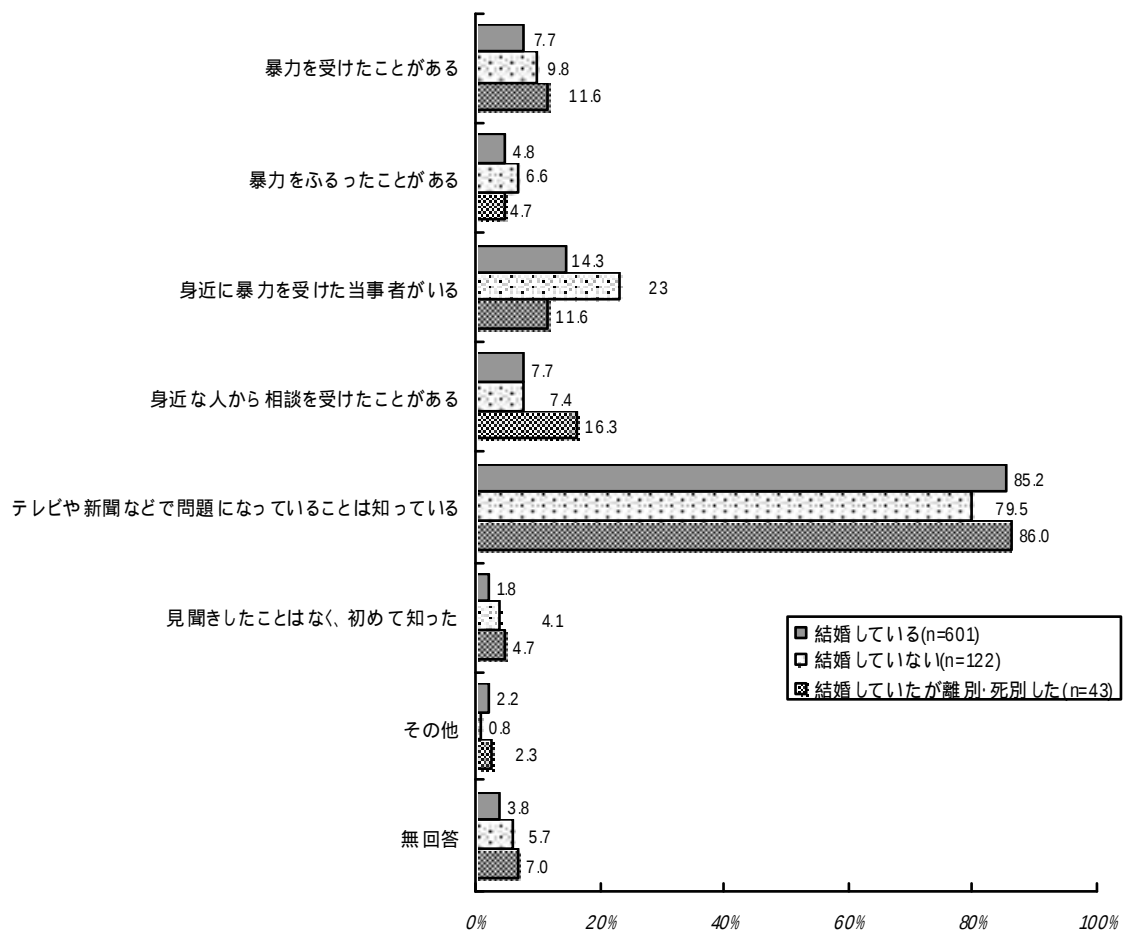
年齢別にみると、「暴力を受けたことがある」について、29歳以下、30歳代で10%を超えており、若い年代層で、他の年代層より高い割合でDVの経験がある。「身近に暴力を受けた当事者がいる」について、29歳以下が25.6%と最も高く、30歳代でも20%を超えており、年齢が低いほど割合が高い傾向にある。

図10(1) ドメスティック・バイオレンスの経験等(年齢別)



結婚の有無別にみると、結婚していない回答者でも結婚している回答者と同程度、もしくはそれ以上の割合で「暴力を受けたことがある」(9.8%)や「暴力をふるったことがある」(6.6%)と回答している。一方で、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の回答は、結婚していない場合の方が相対的に低くなっている。

図 1 0 (2) ドメスティック・バイオレンスの経験等(結婚の有無別)



居住地区別には目立った特徴がみられない。

問 1 1 ドメスティック・バイオレンス防止のための取り組み

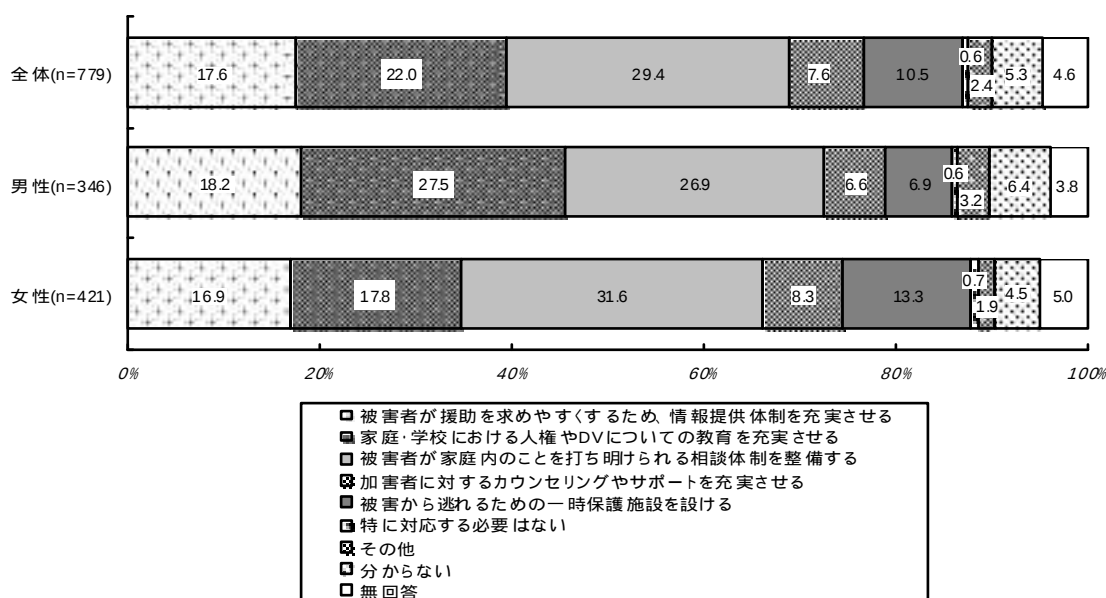
ドメスティック・バイオレンスを防ぐために、どのような取り組みが重要だと思うかという質問に対して、「被害者が家庭内のことを打ち明けられる相談体制を整備する」が 29.4%と最も高く、次いで「家庭・学校における人権や DV についての教育を充実させる」が 22.0%、「被害者が援助を求めやすくするため、情報提供体制を充実させる」が 17.6%の順となっている。

男女別にみると、男性では「家庭・学校における人権や DV についての教育を充実させる」が 27.5%と最も高く、次いで「被害者が家庭内のことを打ち明けられる相談体制を整備する」が 26.9%、「被害者が援助を求めやすくするため、情報提供体制を充実させる」が 18.2%の順である。女性では「被害者が家庭内のことを打ち明けられる相談体制を整備する」が 31.6%と最も高く、次いで「家庭・学校における人権や DV についての教育を充実させる」が 17.8%、「被害者が援助を求めやすくするため、情報提供体制を充実させる」が 16.9%の順である。

男性は、人権や DV についての教育を充実させることによる事前防止策についての意識が相対的に高い一方、女性は、相談できる体制を整備するなど、DV の被害に遭った後の防衛策についての意識が相対的に高い。

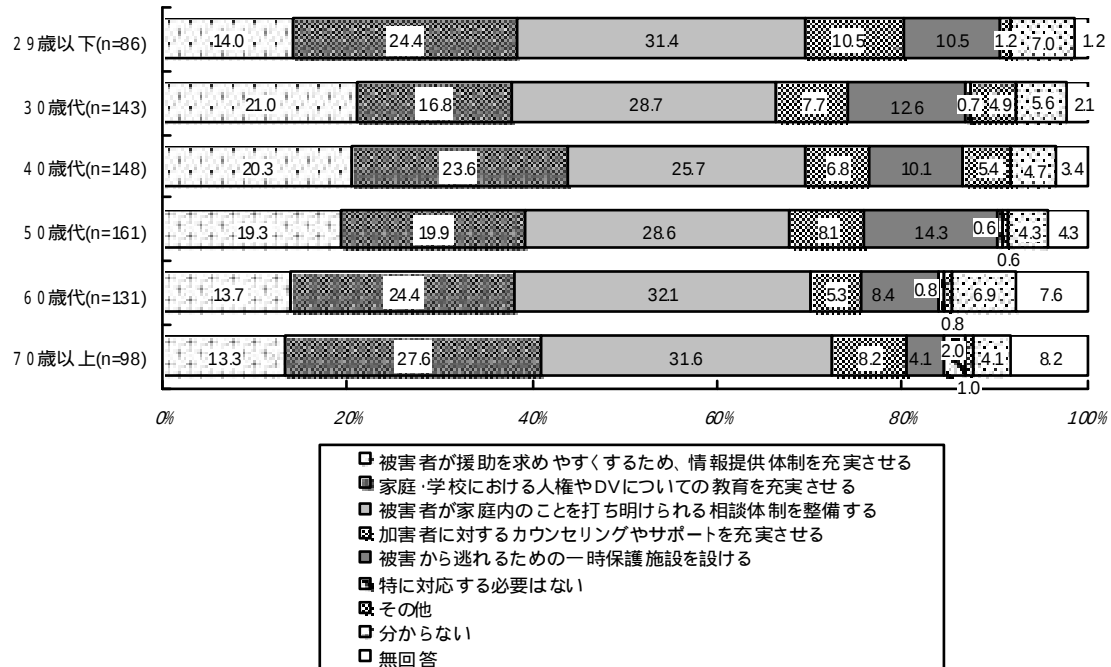
問 11 ドメスティック・バイオレンスを防ぐために、どのような取り組みがもっとも重要だと思いますか。次の中から 1つ 選び、○を付けてください。

図 1 1 ドメスティック・バイオレンス防止のための取り組み



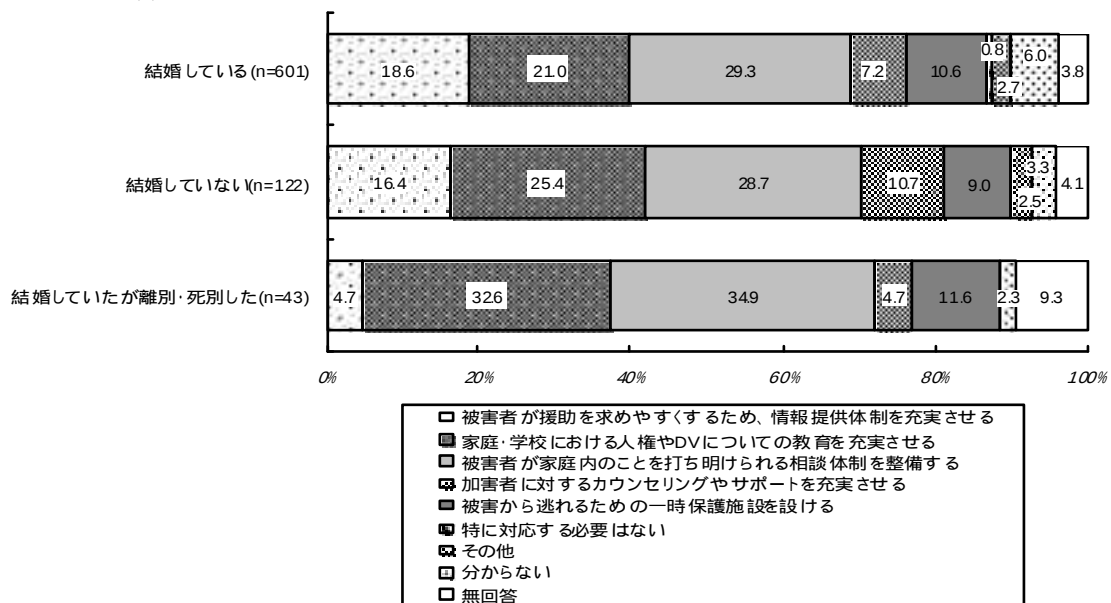
「被害者が援助を求めやすくするため、情報提供体制を充実させる」は 30 歳代、40 歳代、50 歳代で 20%前後と高い。

図 1 1 (1) ドメスティック・バイオレンス防止のための取り組み（年齢別）



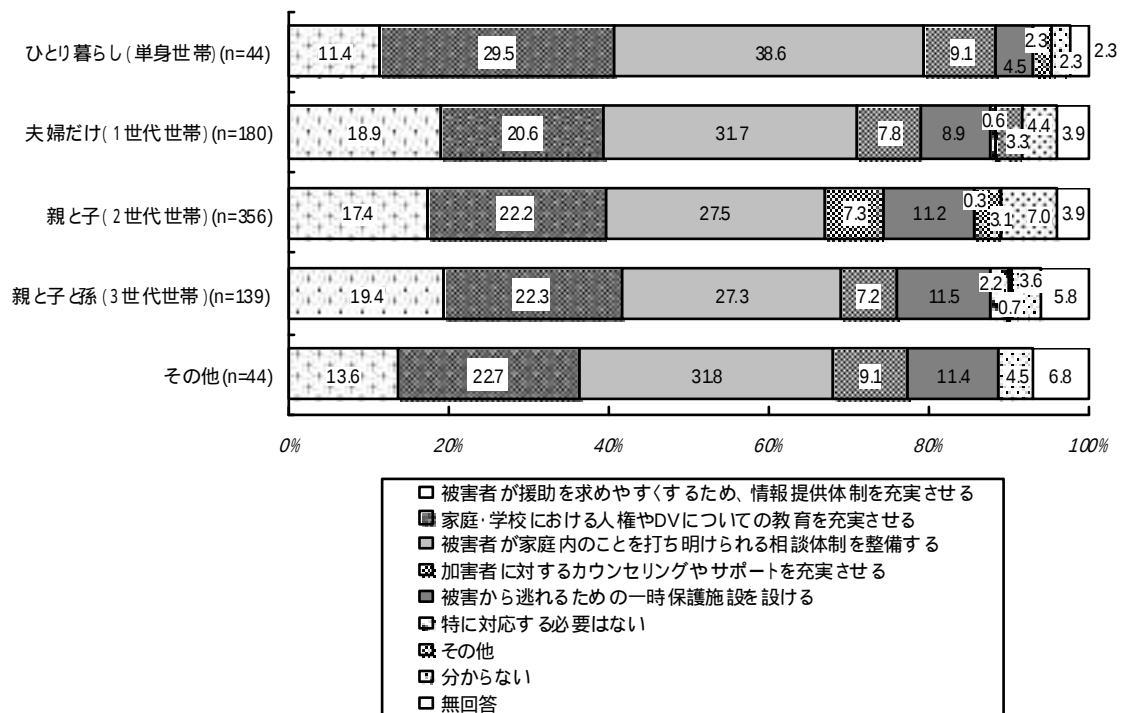
「被害者が援助を求めやすくするため、情報提供体制を充実させる」と「被害者が家庭内のことを打ち明けられる相談体制を整備する」において、結婚している回答者の方が結婚していない回答者よりも割合が高い。

図 1 1 (2) ドメスティック・バイオレンス防止のための取り組み（結婚の有無別）



家族構成別にみると、「被害者が家庭内のことを打ち明けられる相談体制を整備する」と「家庭・学校における人権やDVについての教育を充実させる」が単身世帯において最も多く、それぞれ38.6%、29.5%となっている。一方「被害から逃れるための一時保護施設を設ける」では2世代世帯、3世代世帯で10%を超えている。

図1 1(3) ドメスティック・バイオレンス防止のための取り組み(家族構成別)



居住地区別には目立った特徴がみられない。

D 男女共同参画に対する意識

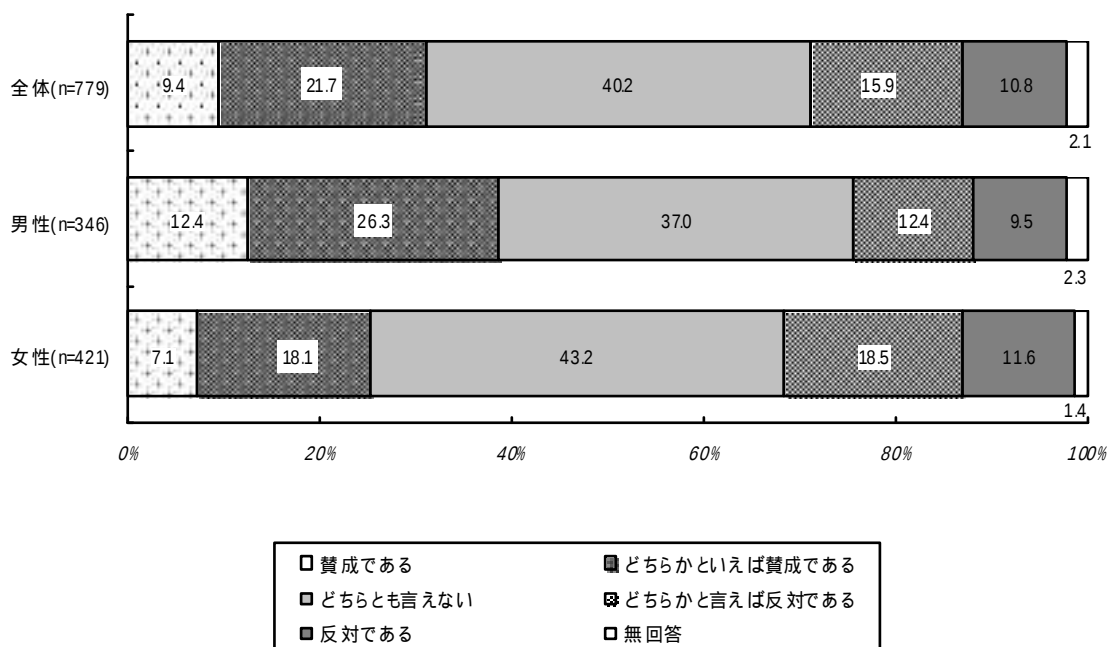
問 1 2 「夫は働き、妻は家庭」という考え方に対する考え

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてどう考えるかという質問に対して、「どちらとも言えない」の割合が 40.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成である」の割合が 21.7%、「どちらかと言えば反対である」の割合が 15.9%である。「賛成である」と「どちらかといえば賛成である」をあわせた賛成の割合が 31.1%に対し、「反対である」と「どちらかと言えば反対である」をあわせた反対の割合が 26.7%であり、「賛成」の意見が上回っている。

男女別にみると、男性では「賛成」が 38.7%、「反対」が 21.9%で、「賛成」が 16.8 ポイント上回っている。女性では「賛成」が 25.2%、「反対」が 30.1%で、「反対」が 4.9 ポイント上回っている。男性と女性では考え方が違っており、女性のほうが男女共同参画に対する意識が高いといえる。

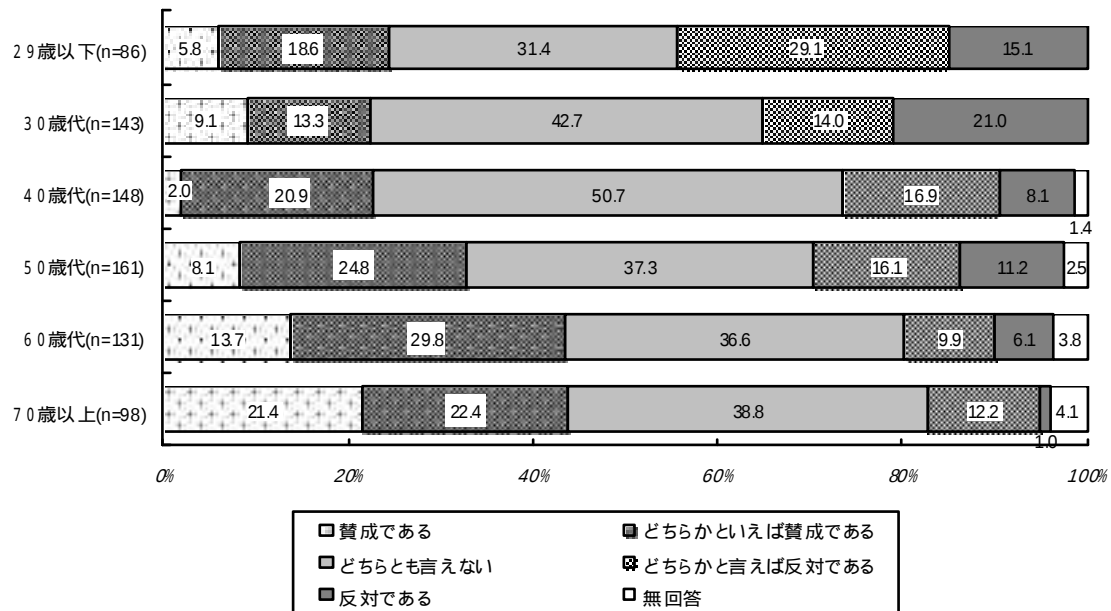
問 12 あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どうお考えになりますか。あてはまるものを 1つ 選び、○を付けてください。

問 1 2 「夫は働き、妻は家庭」という考え方に対する考え



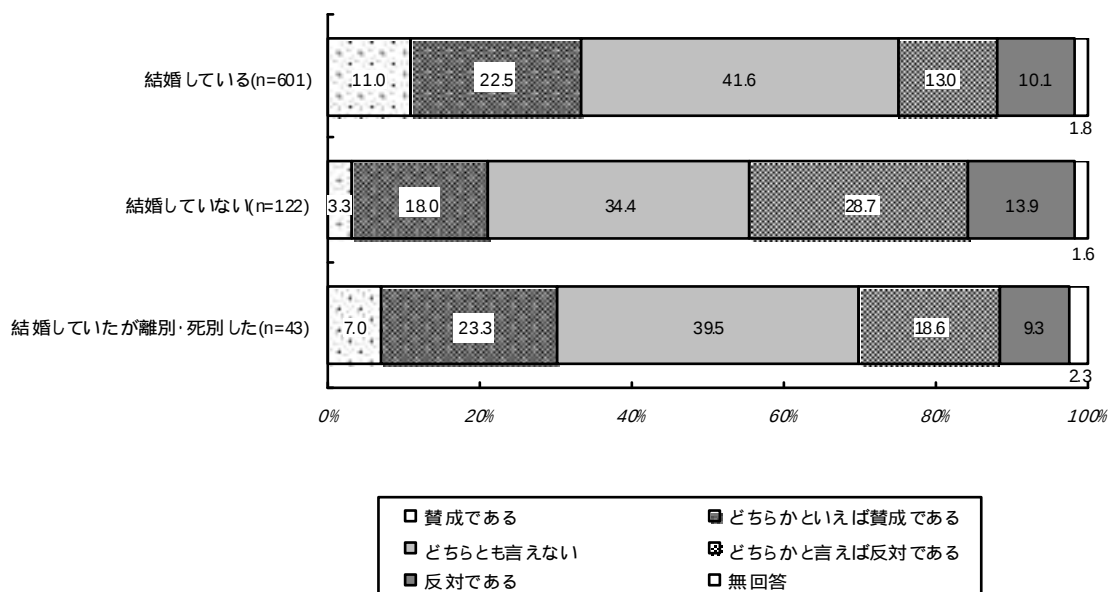
年齢別にみると、賛成の割合は、年齢が高くなるにつれ高くなる傾向にあり、70歳以上で43.8%と最も高い。一方、反対の割合は、年齢が低いほど割合は高い傾向にあり、29歳以下は44.2%と高く、70歳以上で13.2%と最も低い。

問12(1) 「夫は働き、妻は家庭」という考え方に対する考え（年齢別）



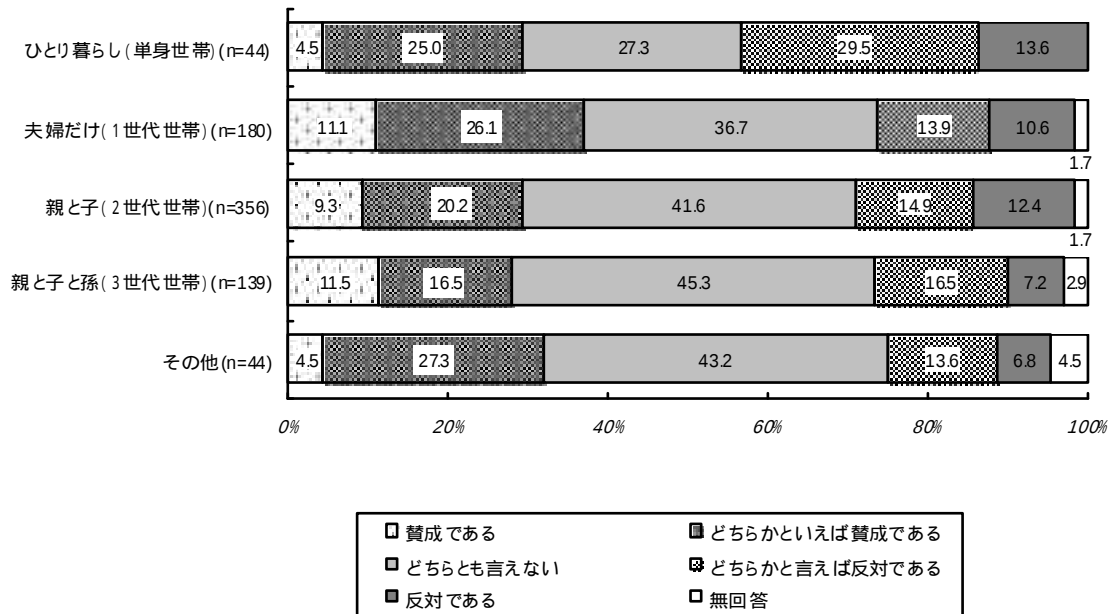
結婚の有無別にみると、結婚している回答者では賛成の割合が33.5%と結婚していない回答者より12.2ポイント高い。一方、結婚していない回答者では反対の割合が42.6%と結婚している回答者より19.5ポイント高い。

問12(2) 「夫は働き、妻は家庭」という考え方に対する考え（結婚の有無別）



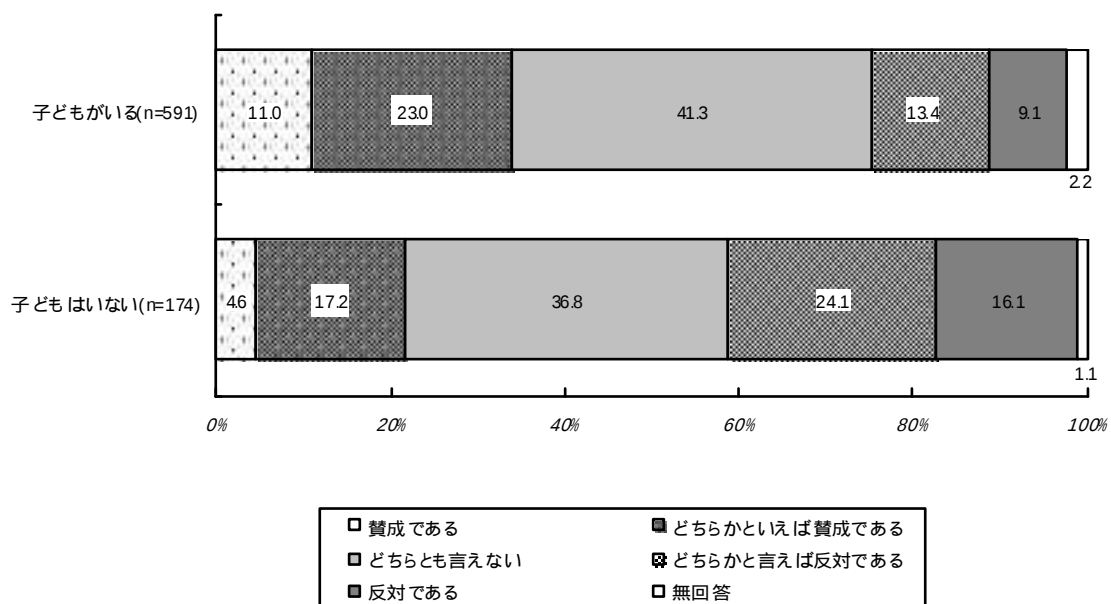
家族構成別にみると賛成の割合は 1 世代世帯で 37.2%と最も高い。一方反対の割合は単身世帯で 43.1%と最も高い。反対の割合の方が多いのは単身世帯のみである。

問 1 2 (3) 「夫は働き、妻は家庭」という考え方に対する考え（家族構成別）



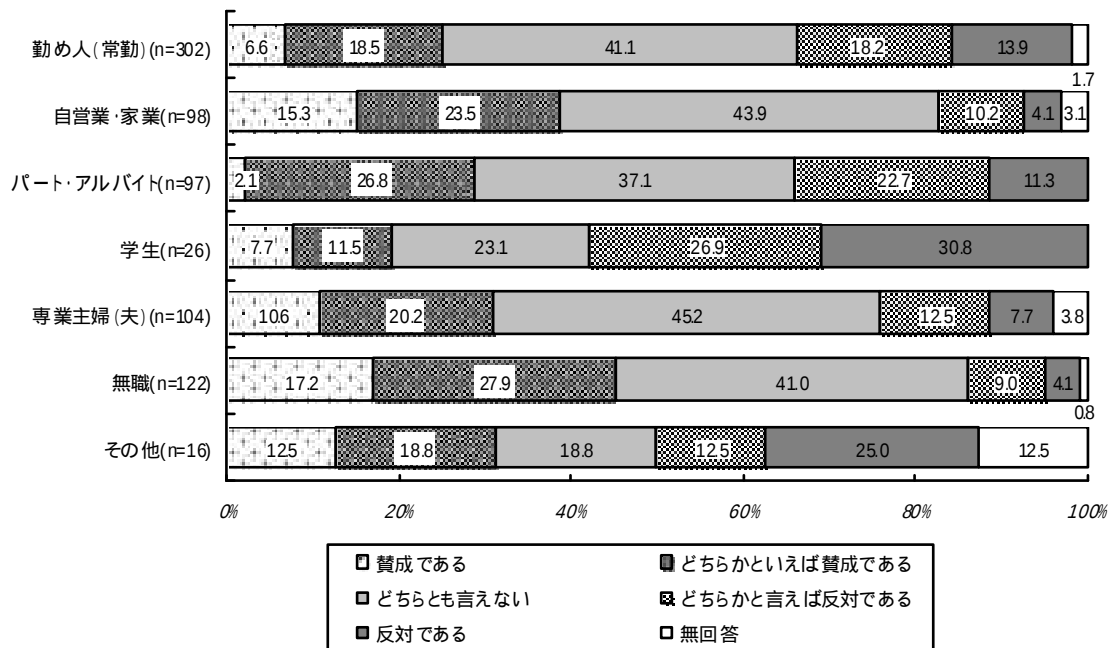
子どもの有無別にみると、子どもがいる回答者は賛成の割合が 34.0%と子どもがいない回答者より 12.2 ポイント高く、一方、子どもがいない回答者では反対の割合が 40.2%と子どもがいる回答者より 17.7 ポイント高い。子どもがいる回答者は賛成の意見が強く、子どもがいない回答者は反対の意見が強い。

問 1 2 (4) 「夫は働き、妻は家庭」という考え方に対する考え（子どもの有無別）



職業別にみると、勤め人では賛成が 25.1%、反対が 32.1%で反対の方が 7 ポイント高い。賛成が強いのは自営業・家業と専業主婦（夫）、無職であり、反対が強いのは勤め人、パート・アルバイト、学生である。自営業・家業と専業主婦（夫）では賛成がそれぞれ 38.8%、30.8%と 3 割を超えている。

問 1 2 (5) 「夫は働き、妻は家庭」という考え方に対する考え（職業別）



居住地区別には目立った特徴がみられず、いずれの地区でも賛成意見のほうが強い。

問 13 男女共同参画に関わる言葉等の認知度

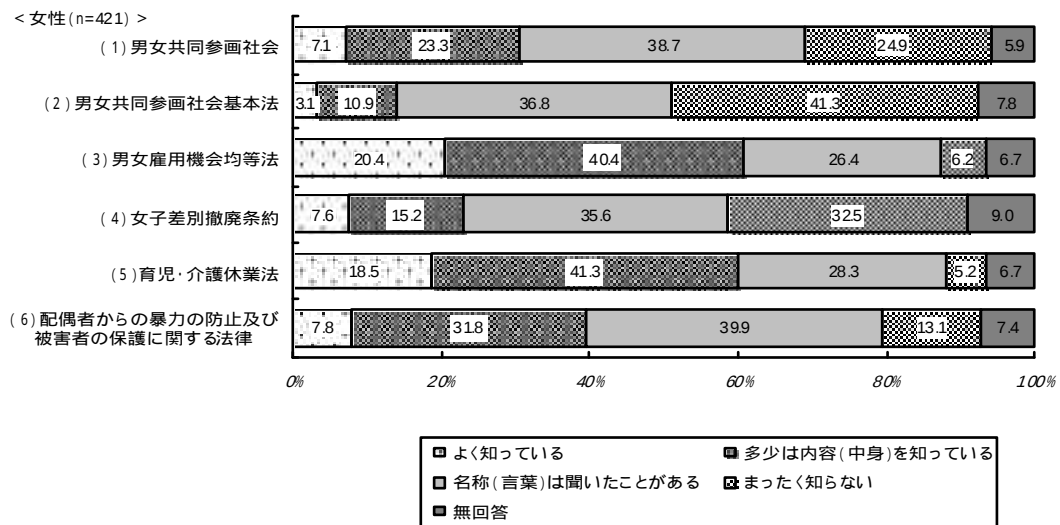
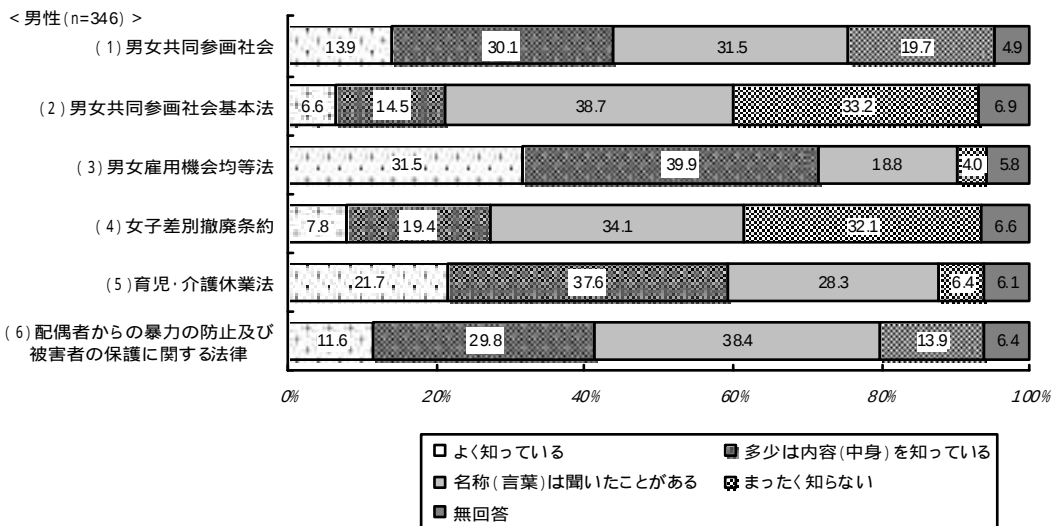
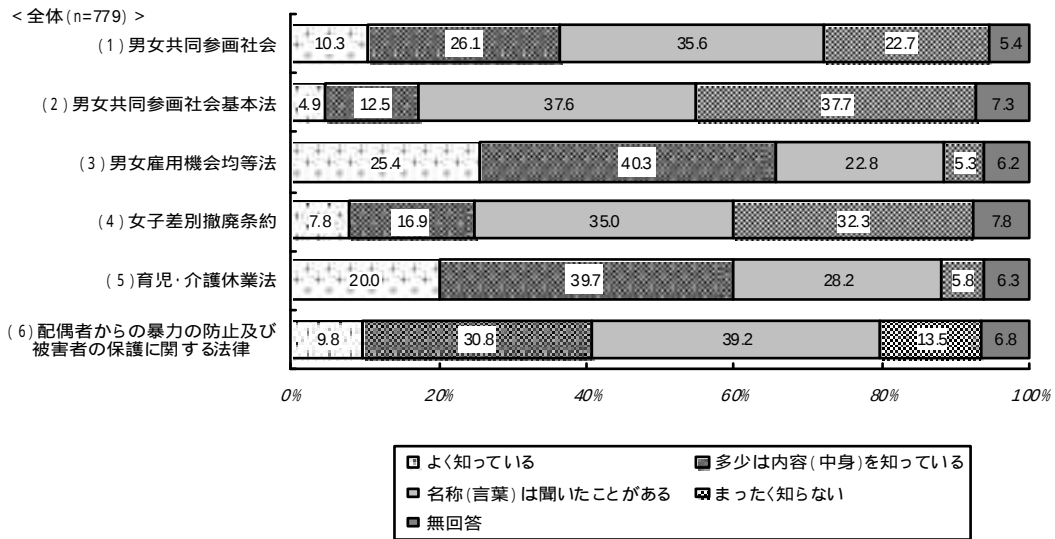
男女共同参画に関する言葉や内容を知っているか質問したところ、「よく知っている」と「多少は内容（中身）を知っている」を合わせた「内容に対する認知度」をみると、「(3) 男女雇用機会均等法」についての認知度が 65.7%と最も高く、次いで「(5) 育児・介護休業法」が 59.7%、「(6) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」が 40.6%、「(1) 男女共同参画社会」が 36.4%の順となっている。

男性では、「(3) 男女雇用機会均等法」についての認知度が 71.4%と最も高く、次いで「(5) 育児・介護休業法」が 59.3%、「(1) 男女共同参画社会」が 44.0%、「(6) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」が 41.4%となっており、「(5) 育児・介護休業法」を除き、全体よりも認知度が高いことが読み取れる。

女性では、「(3) 男女雇用機会均等法」についての認知度が 60.8%と最も高く、次いで「(5) 育児・介護休業法」が 59.8%、「(6) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」が 39.6%となっている。女性の「(1) 男女共同参画社会」に対する認知度は 30.4%であり、男性と比して 10 ポイント以上の差がみられる。

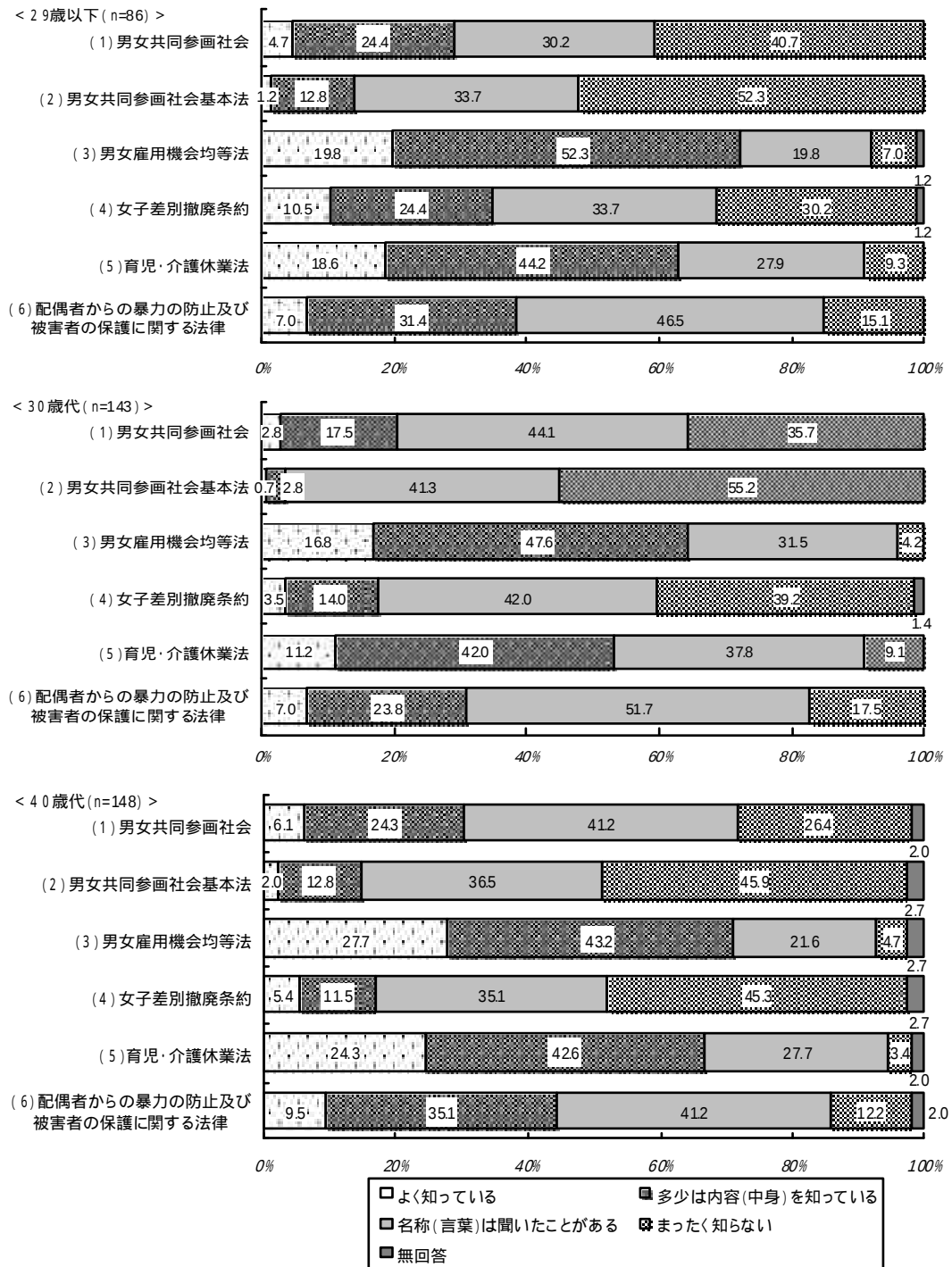
問 13 あなたは、次にあげる男女共同参画に関する言葉や内容を知っていますか。それぞれの項目について、あてはまるものを 1 つ 選び、○を付けてください。

図 1 3 男女共同参画に関わる言葉等の認知度

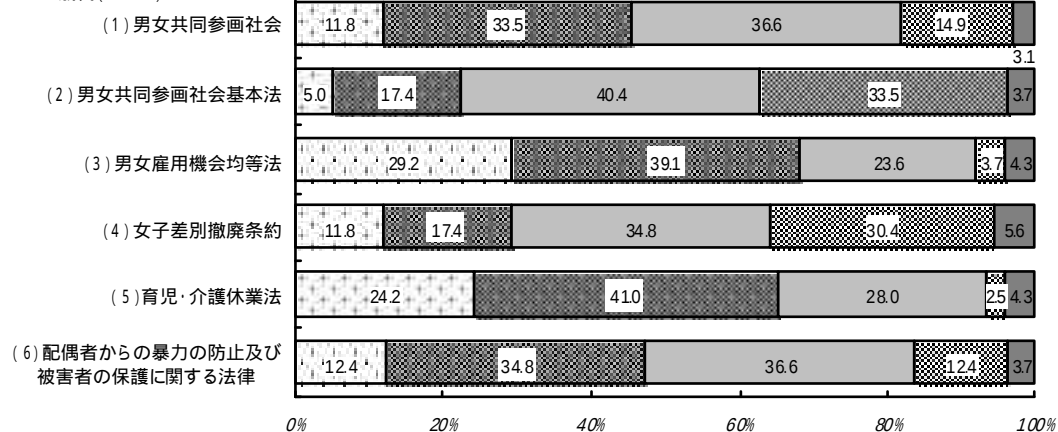


年齢別にみると、「(1)男女共同参画社会」は、年齢が高いほうが内容まである程度知っている割合が高くなる傾向にある。「(3)男女雇用機会均等法」は、どの年代層でも知っている割合が高い。「(5)育児・介護休業法」は、どの年代でも知っている割合が高いが、特に40歳代、50歳代で高い。「(6)配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」は、20歳代、30歳代で、「名称(言葉)は聞いたことがある」にとどまっている割合が高い。

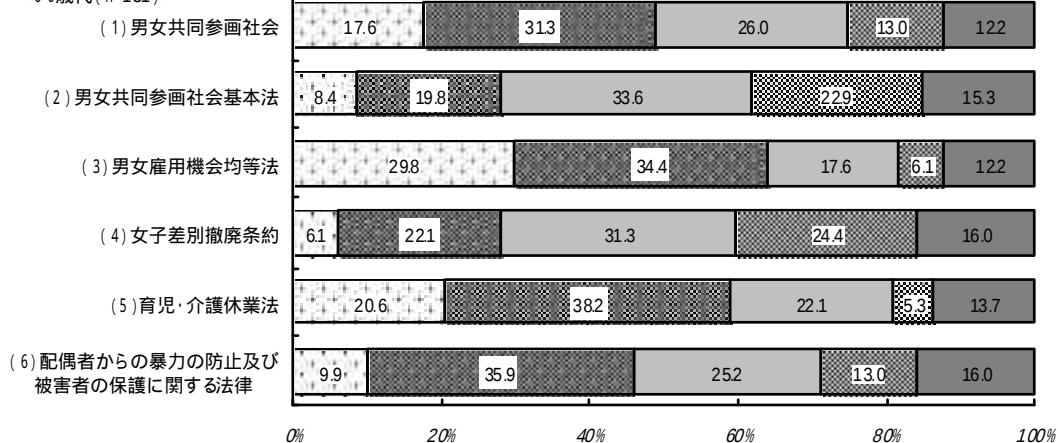
図1 3(1) 男女共同参画に関わる言葉等の認知度(年齢別)



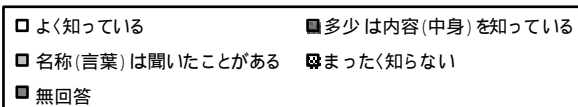
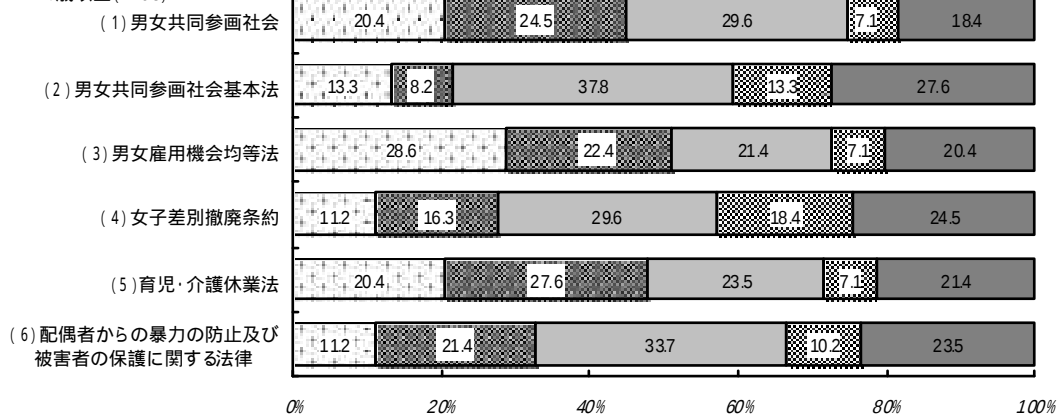
< 50歳代 (n=161) >



< 60歳代 (n=131) >

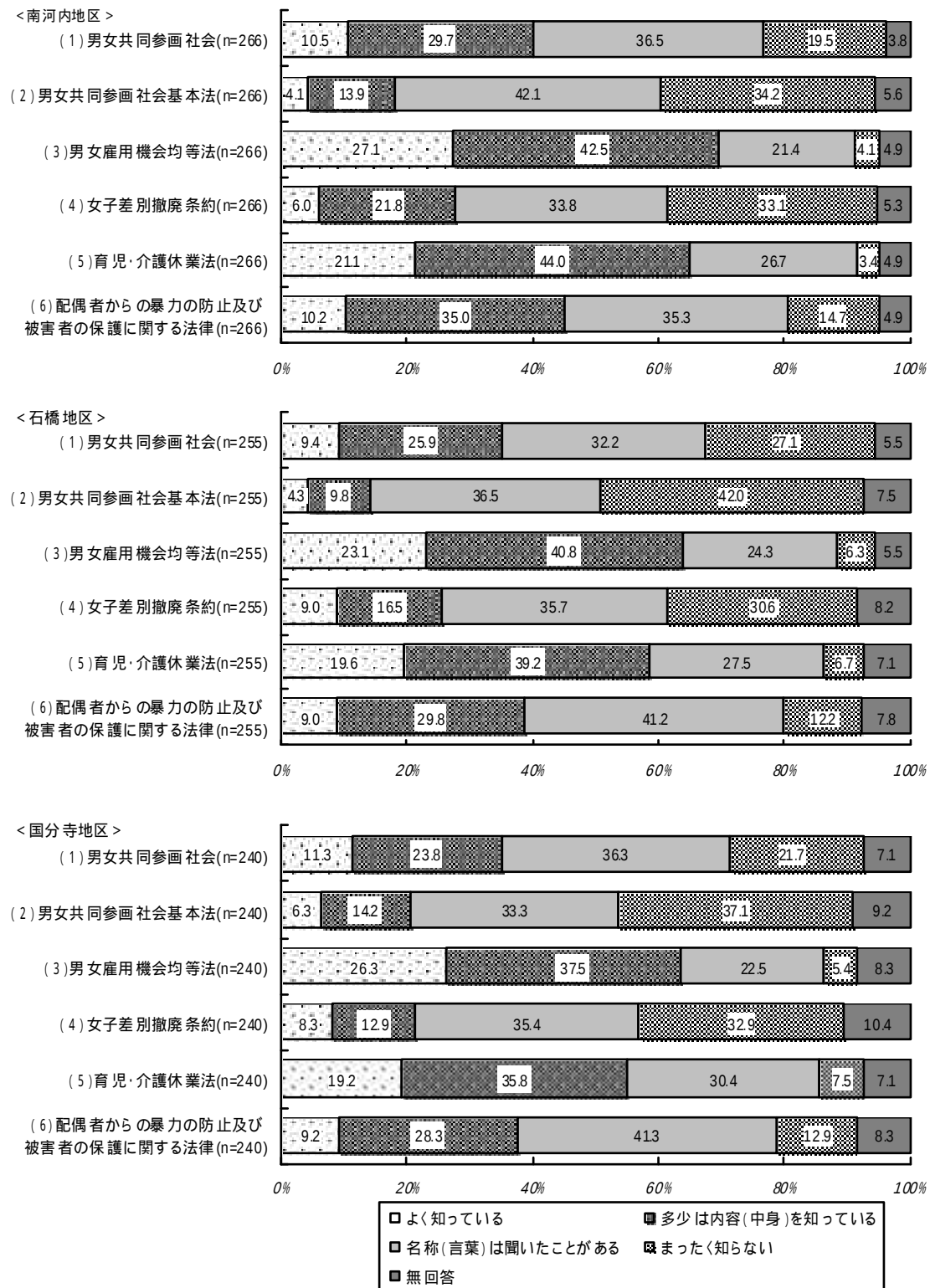


< 70歳以上 (n=98) >



居住地区別に見ると、「(2) 男女共同参画社会基本法」を除くすべての項目で、南河内地区において知っている割合が最も高く、次いで石橋地区、国分寺地区となっている。

図 1 3 (2) 男女共同参画に関わる言葉等の認知度（居住地区別）



E 市（行政）に要望する施策

問 1 4 市に相談したいこと

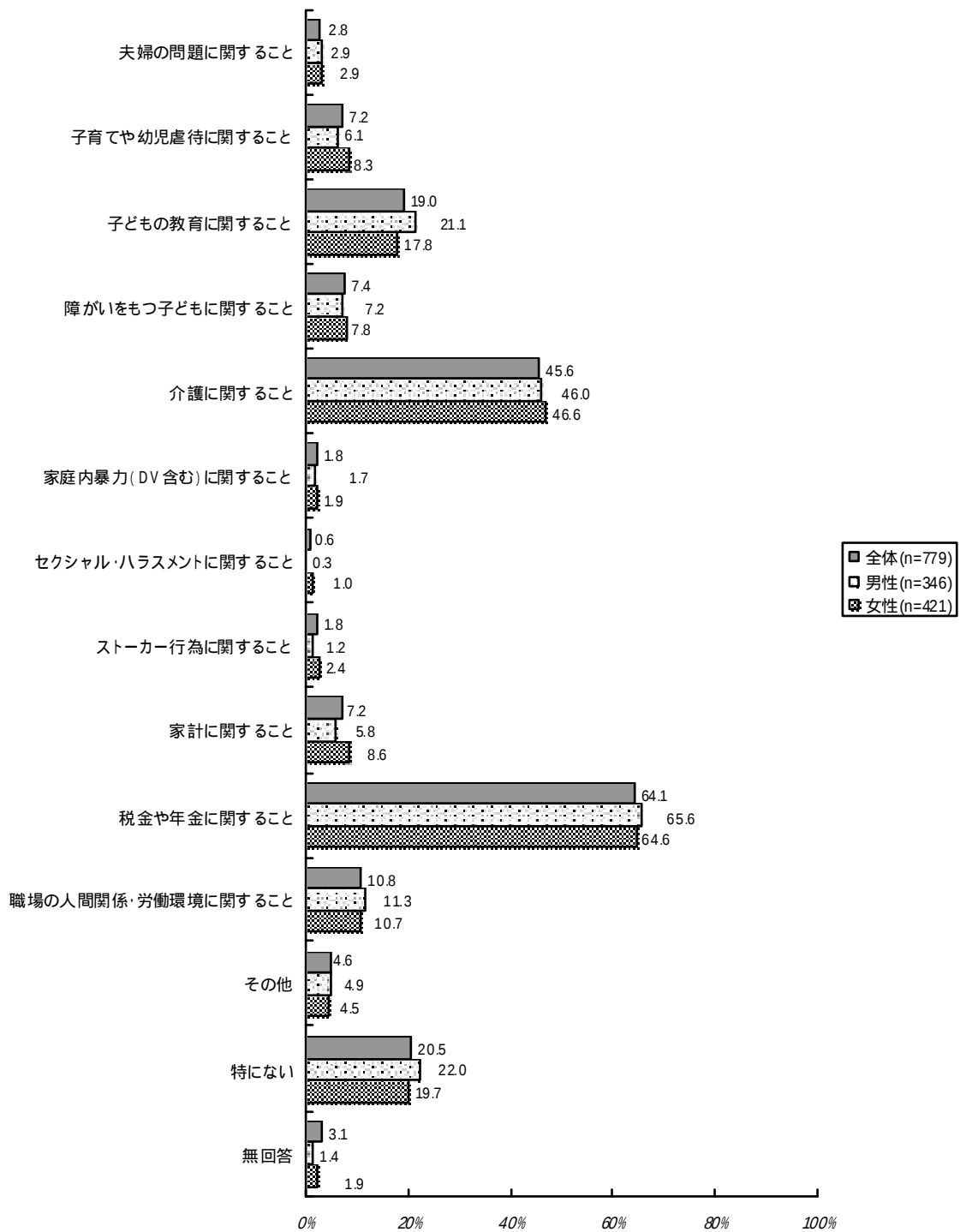
市（行政）に相談したいと思うことを質問したところ、「税金や年金に関すること」という回答が 64.1%と最も多く、次いで「介護に関すること」との回答が 45.6%、「子どもの教育に関すること」との回答が 19.0%である。

男女別にみると、男性も女性も上位 4 位までは全体と同様であるが、「税金や年金に関すること」、「子どもの教育に関すること」については男性のほうが若干高くなっている。また女性は「家計に関すること」が 5 番目に挙がっている。

「夫婦の問題に関すること」、「家庭内暴力（DV 含む）に関すること」、「セクシャル・ハラスメントに関すること」、「ストーカー行為に関すること」、といった男女共同参画社会と直接関係する項目について、市（行政）に相談したいという声は少数にとどまっている。

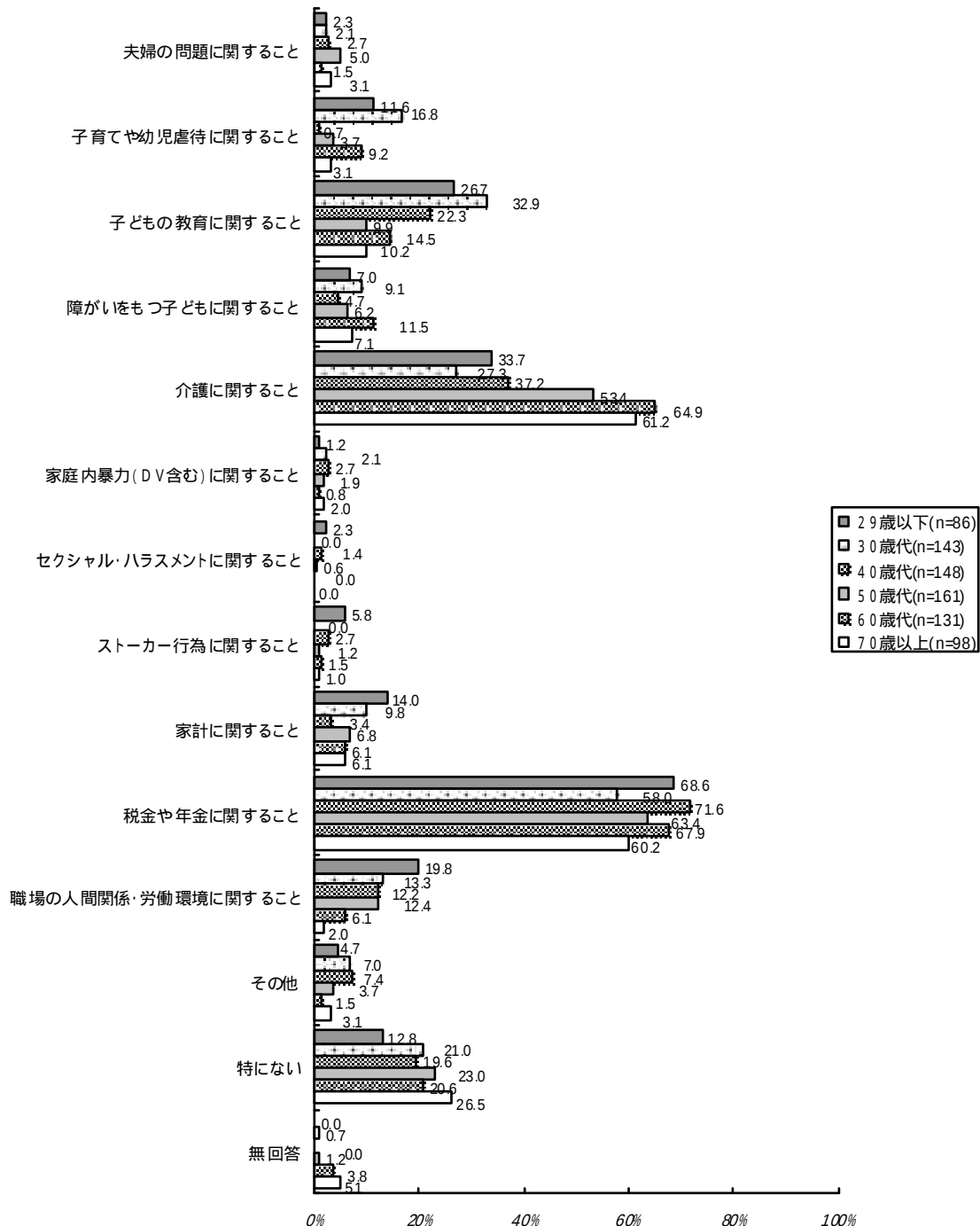
問 14 あなたが市（行政）に相談したいと思うことを、次の中から**最大3つまで**選んで、○を付けてください。

図 1 4 市に相談したいこと



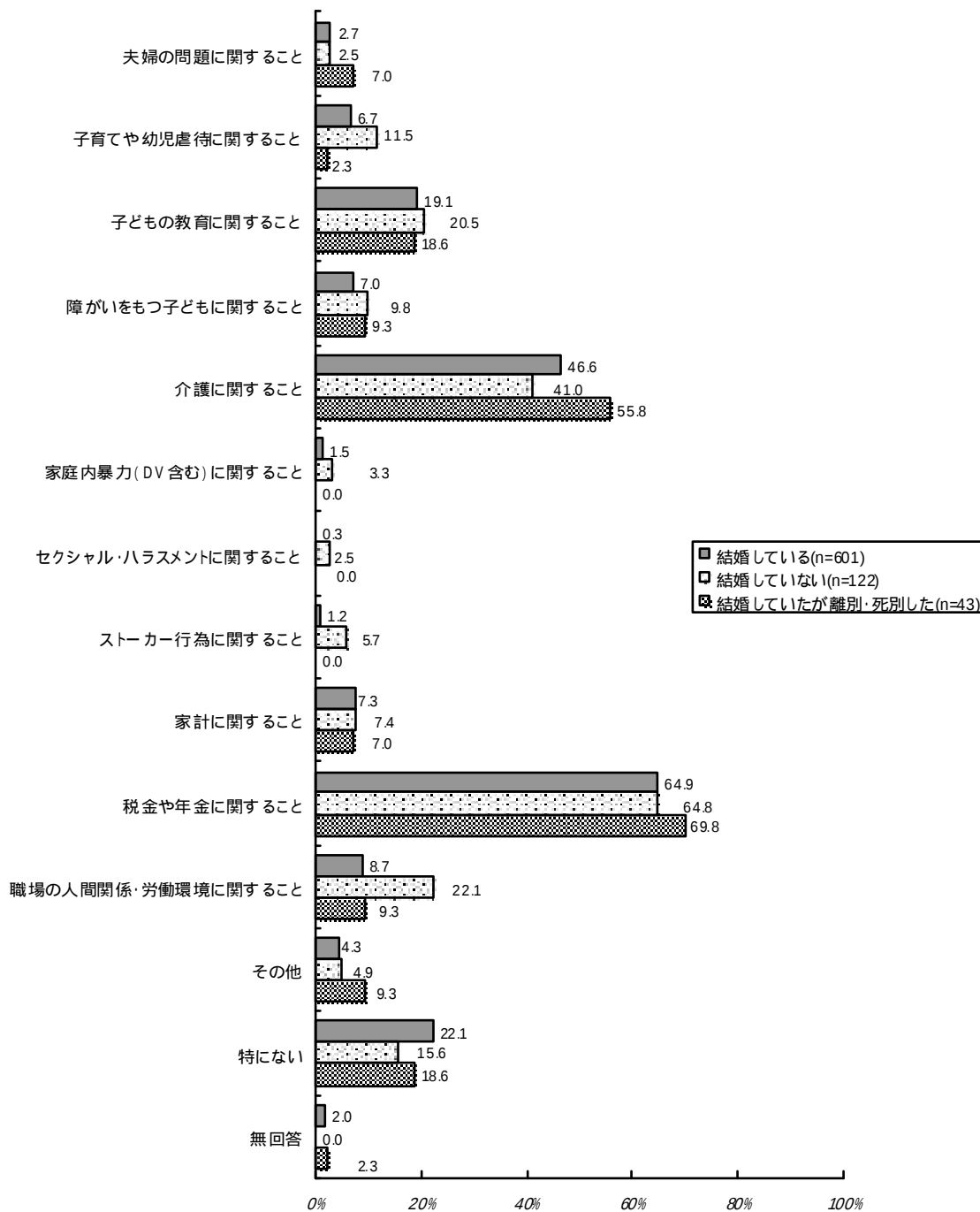
年齢別にみると、「子どもの教育に関すること」は29歳以下と30歳代で26.7%、32.9%と高く、年齢が低いほど割合が高い傾向にある。また「介護に関すること」では60歳代と70歳以上で64.9%、61.2%と6割を超え、年齢が高いほど割合が高い傾向にある。

図1 4 (1) 市に相談したいこと（年齢別）



結婚の有無別にみると、結婚していない回答者は「子育てや幼児虐待に関すること」と「子どもの教育に関すること」の割合がそれぞれ 11.5%、20.5%と高く、また「職場の人間関係・労働環境に関すること」の割合も 22.1%と高い。「介護に関すること」については結婚していたが離別・死別したという回答者が 55.8%と高くなっている。

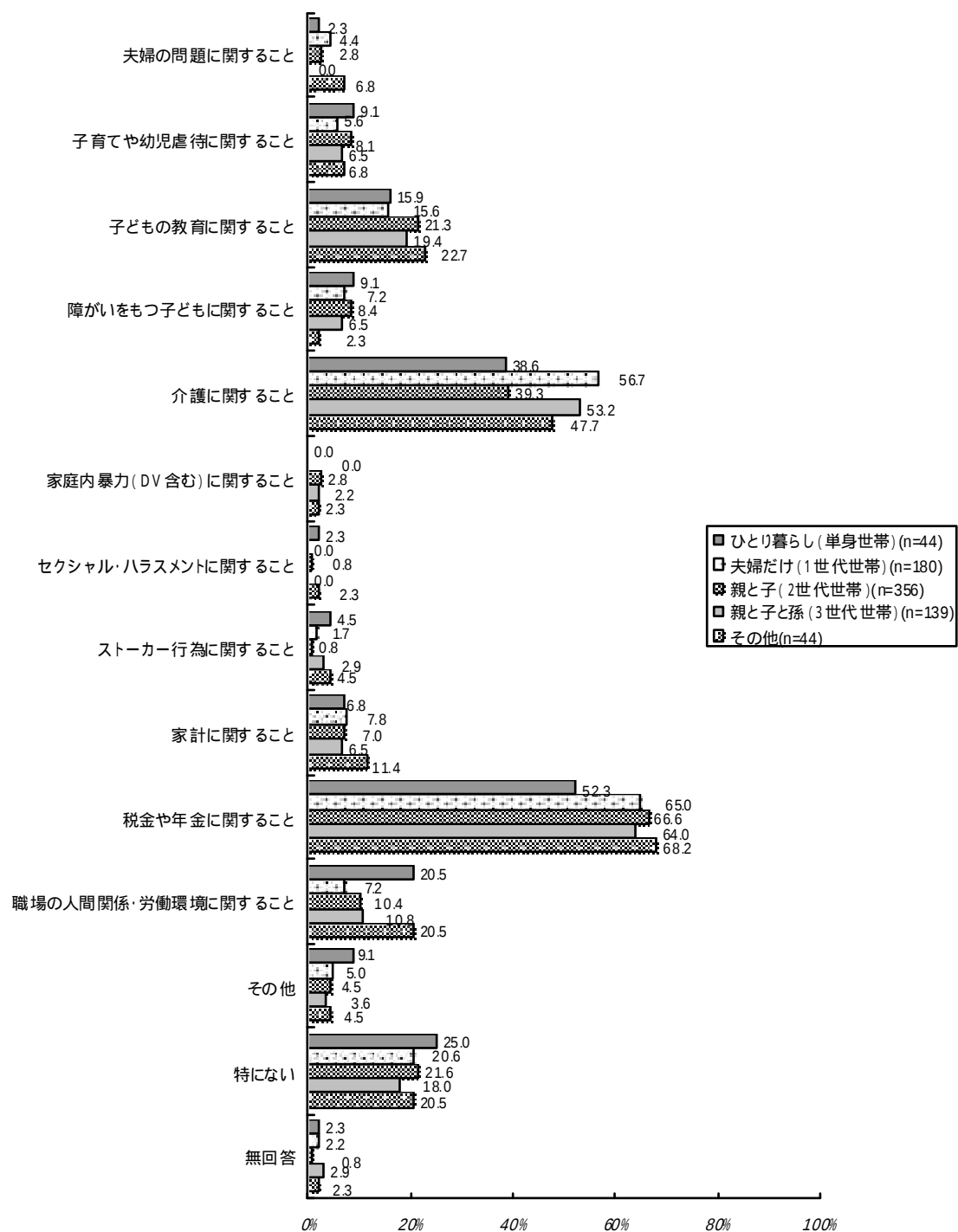
図 1 4 (2) 市に相談したいこと（結婚の有無別）



家族構成別にみると「介護に関すること」は1世代世帯が56.7%と最も高く、「子どもの教育に関すること」はその他を除き、2世代世帯が21.3%と最も高い。また「職場の人間関係・労働環境に関すること」は単身世帯が20.5%と高くなっている。

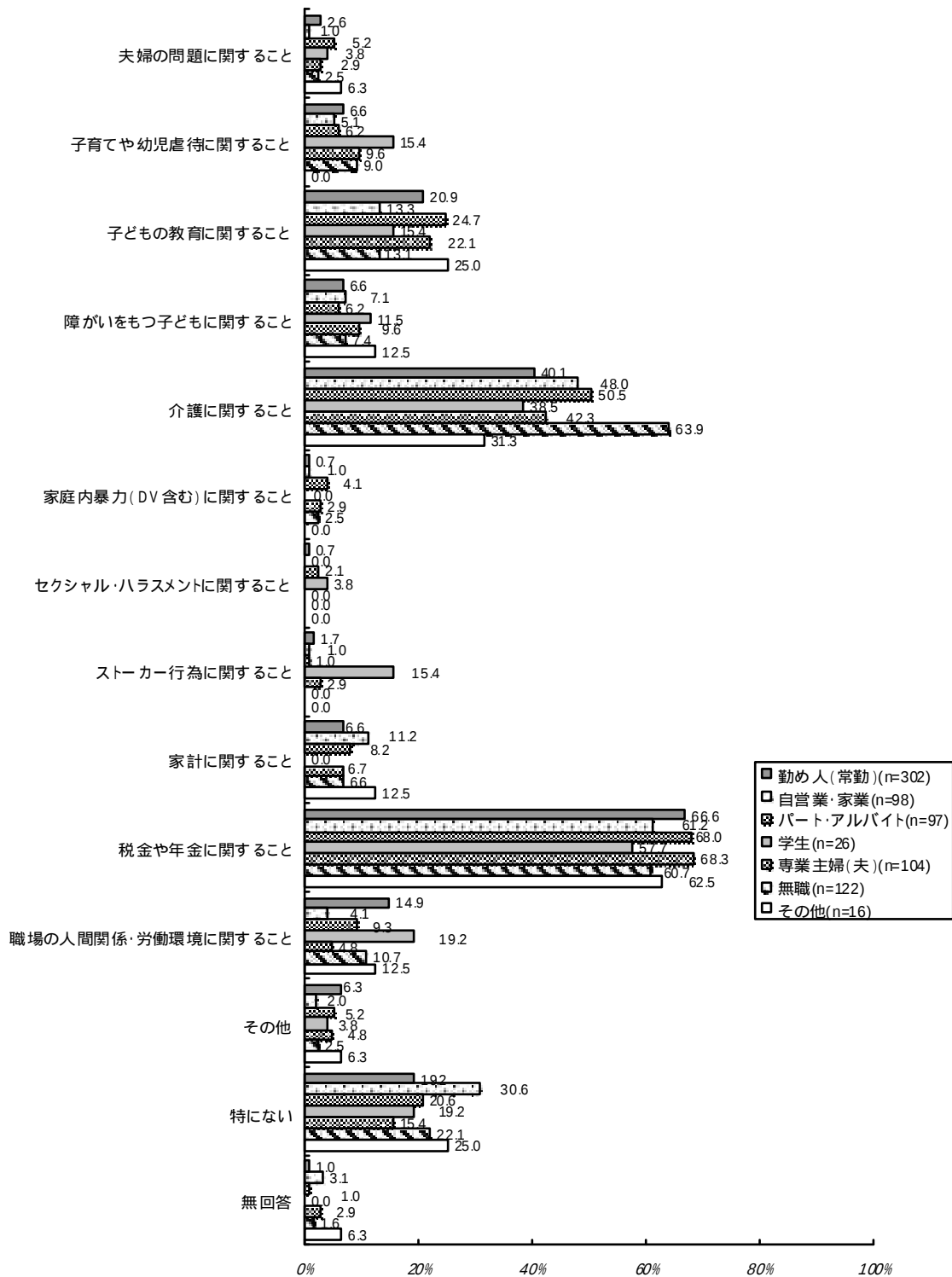
子どもの有無別には、目立った特徴が見られない。

図14(3) 市に相談したいこと(家族構成別)



職業別をみると、パート・アルバイトと専業主婦（夫）が「子どもの教育に関すること」では、それぞれ24.7%、22.1%と高く、「税金や年金に関すること」についてはそれぞれ68.0%、68.3%と高い。「介護に関すること」では、無職の回答者が63.9%と最も高くなっている。

図1 4(4) 市に相談したいこと（職業別）



居住地区別には、ほとんど違いが見られない。

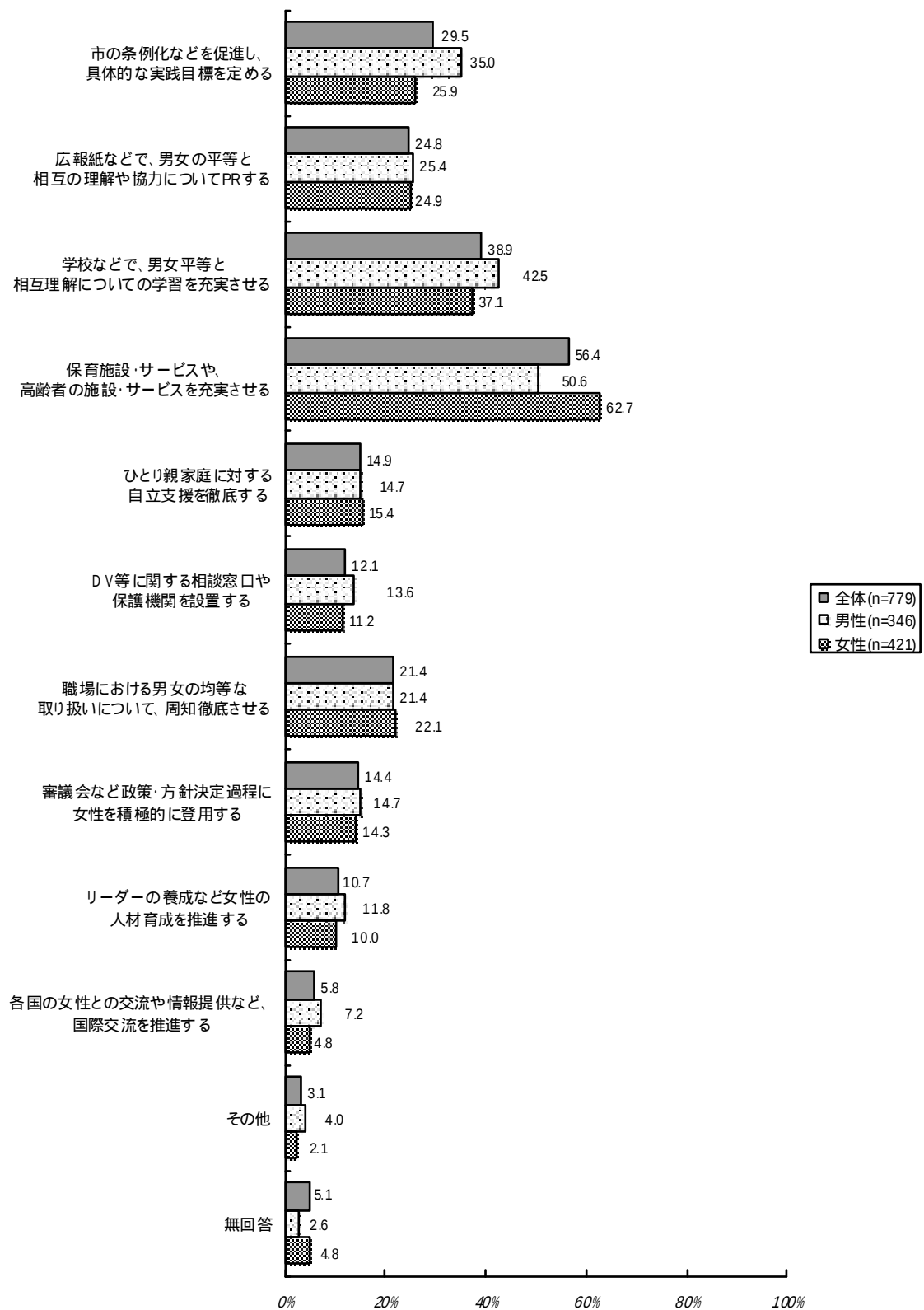
問 15 男女共同参画社会形成のため市（行政）のすべきこと

男女共同参画社会を形成するため、今後、市（行政）はどのようなことに力を入れていくべきかを質問したところ、最も多いのは「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・サービスを充実させる」との回答で、56.4%と過半数であり、次いで、「学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解についての学習を充実させる」が 38.9%、「市の条例化などを促進し、具体的な実践目標を定める」が 29.5%となっている。

男女別にみても、全体の傾向とほぼ同様になっている。女性が男性より「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・サービスを充実させる」の割合が高い一方、「学校教育や社会教育の場で、男女平等と相互の理解についての学習を充実させる」や「市の条例化などを促進し、具体的な実践目標を定める」の割合は男性のほうが高い。男性のほうが、男女共同参画社会を人権問題として捉えている人の割合が高いことが推測される。

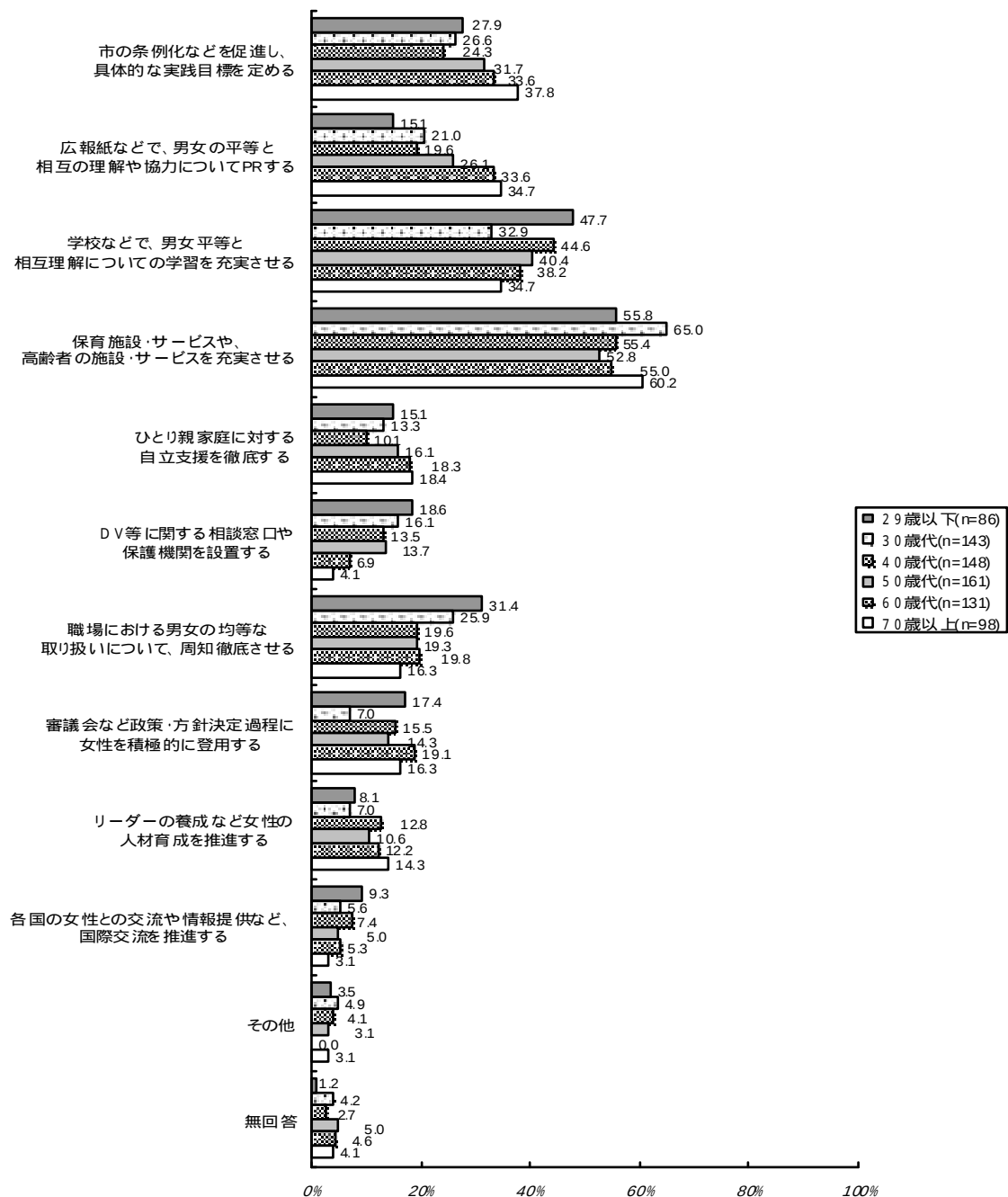
問 15 男女共同参画社会を形成するため、今後、市（行政）はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを**最大 3 つまで**選び、○を付けてください。

図 1 5 男女共同参画社会形成のため市（行政）のすべきこと



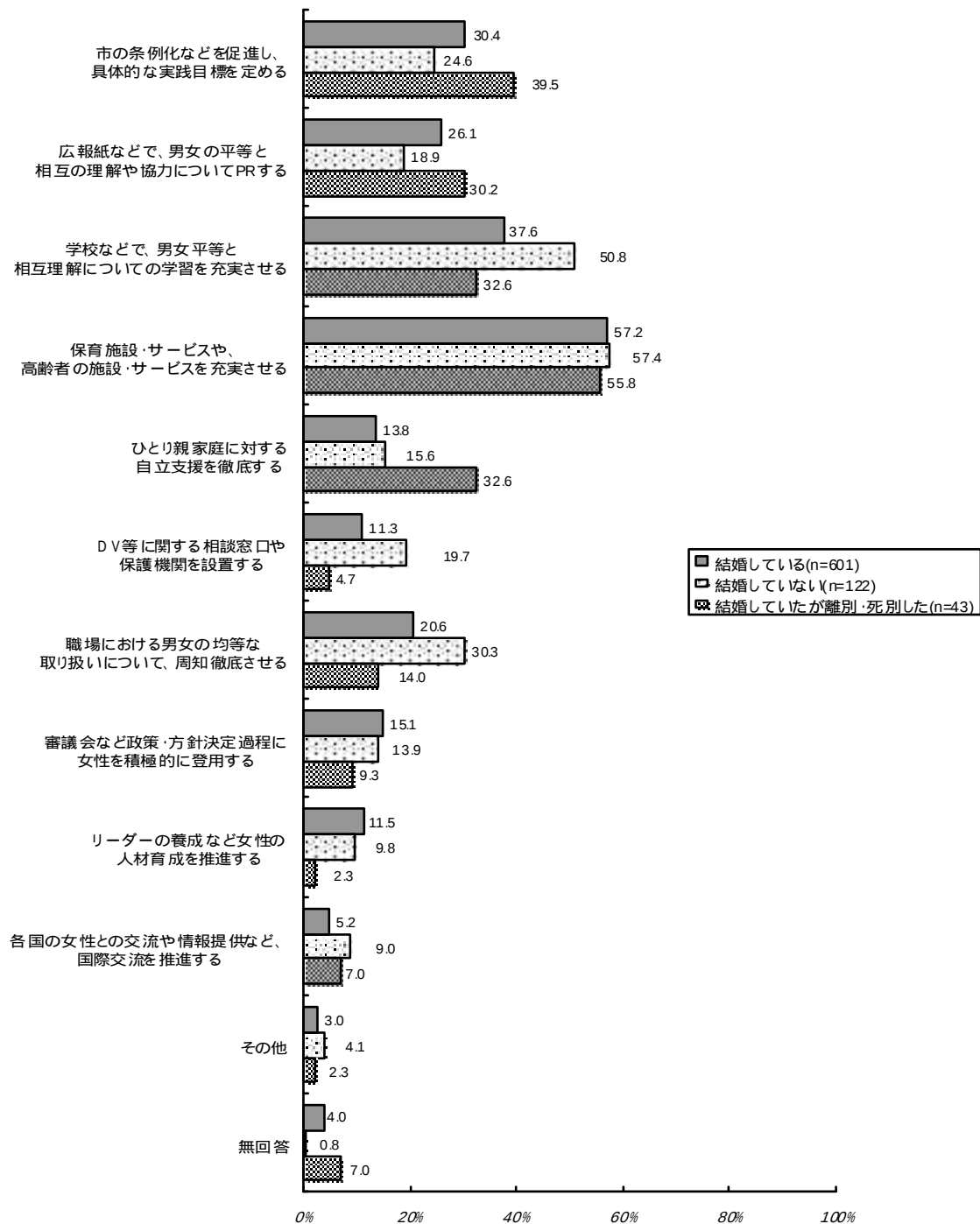
年齢別にみると、「条例化などの促進」は40歳代以降、年齢が高くなるにつれ、割合が高くなる傾向があり、70歳以上で37.8%と最も高い。また「学校等での学習の充実」については、29歳以下が47.7%と最も高い。「保育や高齢者のサービス充実」については、30歳代で65.0%、70歳以上で60.2%と6割を超えている。また、「ひとり親に対する自立支援の徹底」については、50歳代、60歳代、70歳代以上の高年齢層で高くなっている。「DVなどに関する機関の設置」や「職場での男女均等の徹底」については、年齢が低いほど高くなる傾向にあり、29歳以下でそれぞれ18.6%、31.4%となっている。

図15(1) 男女共同参画社会形成のため市（行政）のすべきこと（年齢別）



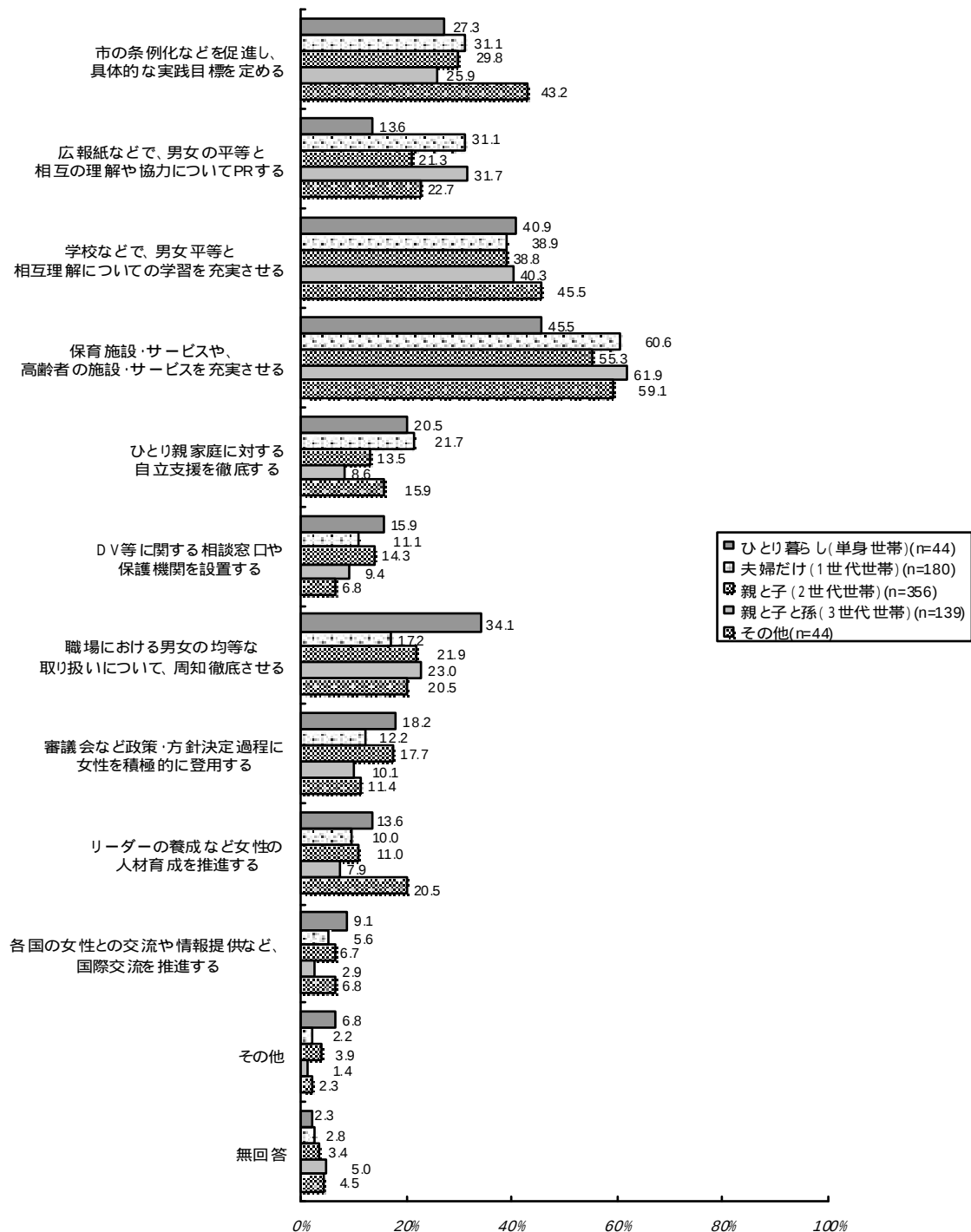
結婚の有無別にみると、結婚していたが離別・死別した回答者では、「条例化などの促進」が 39.5%と最も高く、また「ひとり親に対する自立支援の徹底」についても 32.6%と最も高い。結婚していない回答者は、「学校等での学習の充実」が 50.8%と半数以上と高く、「DV等に関する機関の設置」や「職場での男女均等の徹底」もそれぞれ 19.7%と 30.3%と高くなっている。

図 1 5 (2) 男女共同参画社会形成のため市（行政）のすべきこと（結婚の有無別）



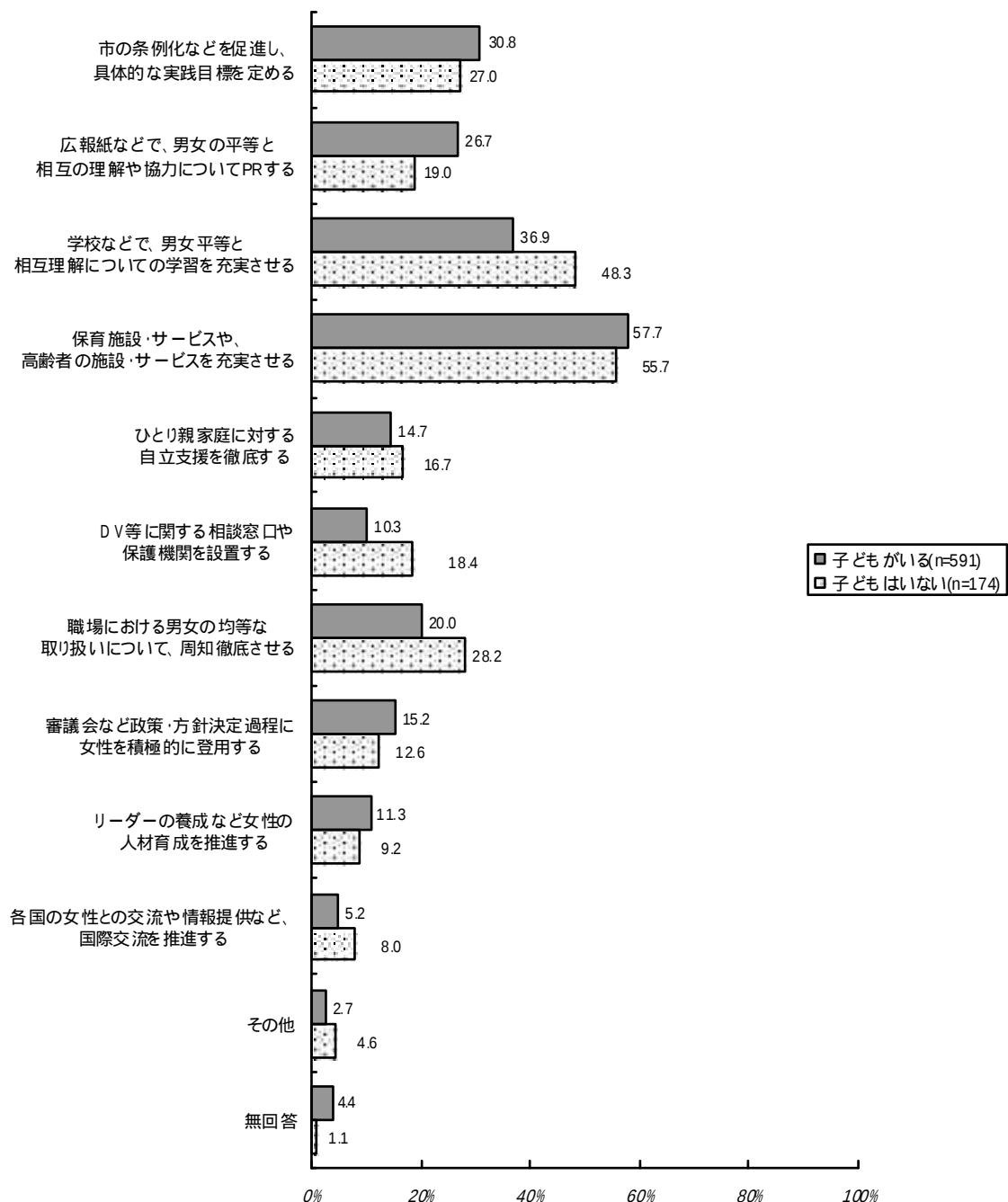
家族構成別にみると、「広報紙等で男女平等をPRする」という意見は1世代世帯と3世代世帯が3割を超えている。「保育や高齢者のサービス充実」については、1世代世帯と3世代世帯が6割を超えているが、単身世帯は45.5%と低い。また、「ひとり親に対する自立支援の徹底」については2世代世帯、3世代世帯ではそれぞれ13.5%、8.6%と割合が低い。「職場での男女均等の徹底」については単身世帯が34.1%と最も高くなっている。

図15(3) 男女共同参画社会形成のため市(行政)のすべきこと(家族構成別)



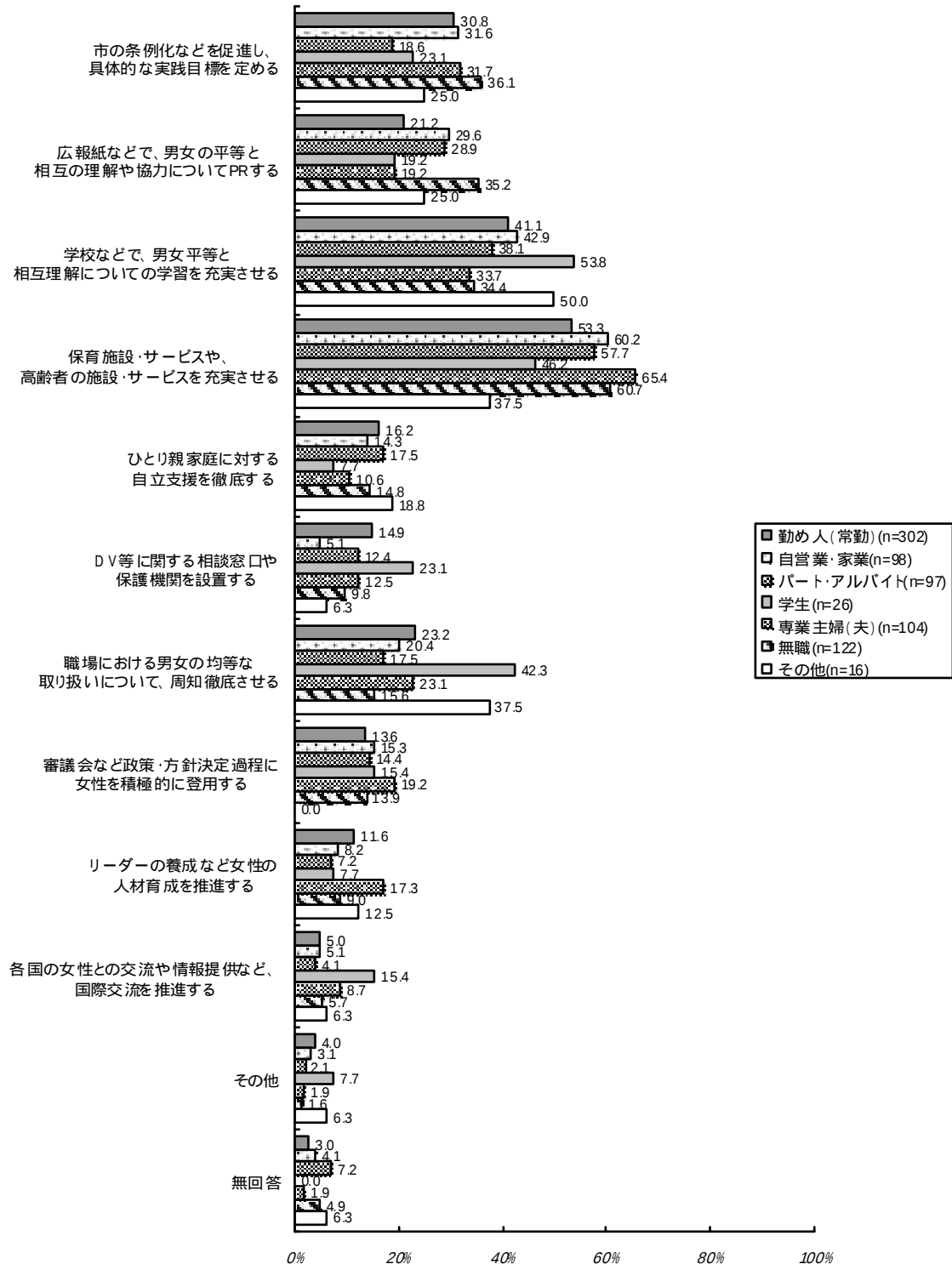
子どもの有無別にみると、子どもがいる回答者では、「広報紙等で男女平等をPRする」という意見が26.7%と高い。子どもがいない回答者については、「学校等での学習の充実」が48.3%と高く、「DV等に関する機関の設置」や「職場での男女均等の徹底」もそれぞれ18.4%と28.2%と高くなっている。

図15(4) 男女共同参画社会形成のため市(行政)のすべきこと(子どもの有無別)



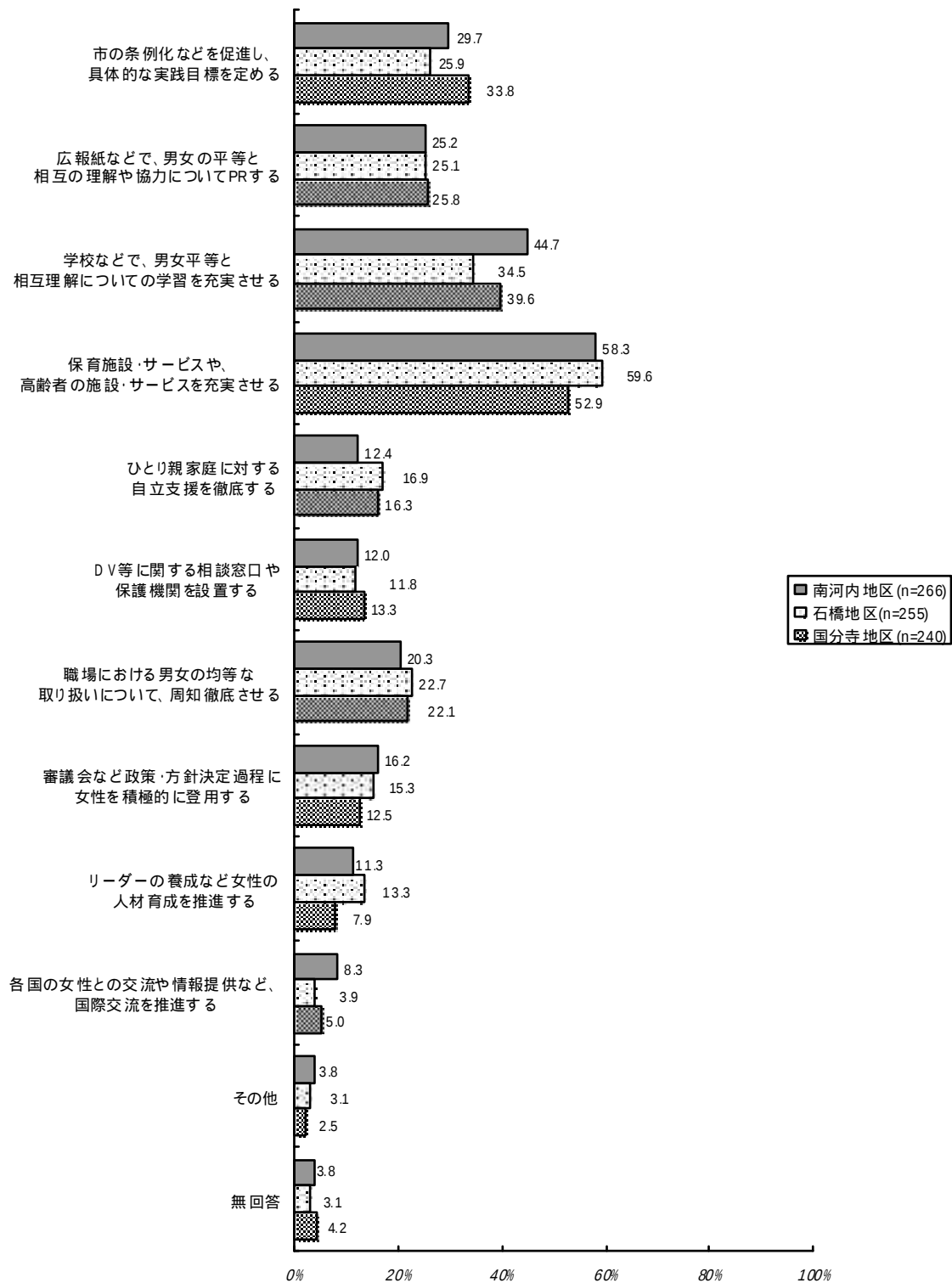
職業別にみると、「学校等での学習の充実」について、勤め人、自営業・家業の回答者が4割を超えている。また、「女性の人材育成の推進」については専業主婦が17.3%と最も高い。

図15(5) 男女共同参画社会形成のため市(行政)のすべきこと(職業別)



居住地区別には、「条例化の促進など」は、国分寺地区で相対的に高い。また、「学校等での学習の充実」については、南河内地区で相対的に高い。

図 1 5 (6) 男女共同参画社会形成のため市（行政）のすべきこと（居住地区別）



F 自由回答

下野市の男女共同参画について、ご意見・ご提案をうかがったところ、154 件の意見が寄せられた。その中で、特に多くの意見が寄せられた分野は、女性が結婚して子どもができて働き続けられる環境づくりや P R の推進、行政の支援方策など、「推進体制の整備」に関するものであった。

他に、「男女共同参画」という言葉を初めて知ったという回答も多く、男女共同参画に対する否定的な意見や、男女共同参画の精神には共感するものの現実には難しいといった意見もみられた。その他（行政全般やアンケート等）に関する意見や提案も多くみられた。

件数の多かった項目順に掲載する。

< 推進体制の整備 >

（子育て支援の充実、子どもができて働き続けられる環境づくり）

- ・ 「結婚しても仕事を続けられる環境をもっと整えてほしい。」
- ・ 「子供を持つ女性が安心して働けるように託児所・学童保育の受け入れの充実などにもっと力を入れて頂きたい。」

（P R の推進、広報紙・パンフレットなど）

- ・ 「男女共同参画という言葉はよく耳にしますが、内容についての知識はまだ不十分。身近なものになるような P R が必要ではないでしょうか。」
- ・ 「広報紙またはパンフレットなどを提供してほしい。」

（行政の体制づくり：講座・学習会）

- ・ 「外に目が向けられるように身近に講座や学習会に参加しやすいように。また、常勤だと平日に計画されても参加できないので、土日と日時の設定も考慮してほしい。」
- ・ 「男女共同参画社会とは名ばかりで下野市はまだ男社会の面が多々あり、男性のための勉強会を実施してももう少し考え方を改める男性がいるのではないかと思います。」

（企業への働きかけを）

- ・ 「具体的な取組みは条例化した方がいい。そうでないと企業とかは守ったりしないであろうから。」
- ・ 「企業への要請やできれば義務化などをお願いしたい。日本の税金制度や年金制度では無理だと思いますが、北欧の社会福祉制度が個人的には理想的だと思うし、福祉が充実しているからこそ男女共同参画が北欧は実現しているのだと思います。」

（行政の人材育成）

- ・ 「単なる知識のみでなく、行動できる人物の育成が大切である。地域のため公募制も良いが、慎重な選考をお願いしたい。」
- ・ 「男女共同参画とやらをしっかりと学習した上で、リーダーとなる（特に女性）人を育てていく必要がある。」

(男女共同参画の具体的な行動、目標の提示を)

- ・「市民が具体的に何をすれば良いのかが理解できていない。行政が決めて行なうことと、市民がどう考え、何に参加すれば実現するのかを具体的に市・町づくりのひとつとしてやって頂きたい。」
- ・「具体的な実践目標を示して PR してください。」

(地域社会での環境づくり)

- ・「育児休暇や保育園、幼稚園の充実で地域社会を巻き込んだ環境づくりが必要ではないと思います。お金ではないと思います。」
- ・「社会・会社での取り組みと合わせて考えていかなければ実現できない。」

<男女共同参画に対する意識(改革)>

(男女共同参画とは何かよくわからない)

- ・「男女共同参画社会すら知りませんでした。実現させるには、もっと周りに名前や、内容を知ってもらう必要があるのでは。」
- ・「男女共同参画社会ということがわかっていないので、私には答えられない。少しでも教えてくれる場所があったらと思います。」

(男女共同参画への意識付けを)

- ・「プランの策定により、市民ひとりひとりの相互理解、意識改革が推進されていくことを願います。」
- ・「女性だから子供を生むと家にいなくちゃいけないみたいな固定概念を変えてほしいです。」

(男女の性差の尊重、男女共同参画はそれから)

- ・「男女の性差は尊重されるべきだと思います。」
- ・「男女共同参画というのもいいですが、女性は男の1歩後についてくる気持ちが必要だと思う。」
- ・「行政が主体をもって男女平等を行なうべきではないと思う。そもそも「男女」とは長い歴史の中で培われてきたもので、このように積極的に共同参画を促したところでは困難である。」
- ・「男は男らしく、女は女らしくあるべきで、男の能力・女の能力それぞれを尊重すべきであり、尊重した上での共同参画は大変喜ぶべきことであり、極端な制度変更や教育方針の転換は拙速と考える。」

(現実と計画のギャップ)

- ・「なかなか現実の仕事と社会のギャップがあるので答えるのが難しい気がしました。農家や商家などの主婦は男女平等というわけにはいかないのが現実です。」
- ・「女性が一生仕事に従事したいと考えていても、現実には難しいと思います。」

(女性を自由にすぎ、権利の主張ばかり)

- ・「男女平等といって女性が仕事、そして遊びと外に出ることが多くなってきた今日、家

庭内の子供の教育なども必要で、何でも自由にしてあげては良くないと思う。」

- ・ 「権利をやたら主張する人に限って「権利を主張するだけ」になっている気がしてならない。」

< あらゆる分野での男女共同参画 >

(育児休暇制度を男性にも)

- ・ 「男性が普通に育児休暇をとれるようになってもらいたい。仕事よりも家庭を優先させる仕組みが大切。」
- ・ 「男性も育休が取得できる会社(まち)になってほしい。」

(議員等の半数を女性に)

- ・ 「市議会議員や教育委員会の委員の数などを男女半分ずつにすれば。」
- ・ 「自治会の会長の多くを、女性にする。」

(女性の発言の機会を)

- ・ 「行政の中に女性の主張を極力参画させるチャンス(機会)を入れてほしい。これからは女性の考えを入れていく時代だと考えています。」
- ・ 「女性が発言しやすい環境を整える。」

< 男女が安心して健康に暮らせるまちづくり >

(高齢者向け福祉・医療の充実)

- ・ 「高齢化社会に対する備えが、大切だと思います。サービスの充実を望みます。」
- ・ 「保育園や老人施設の充実を望みます。」

(地域及び家庭の和、コミュニケーションを)

- ・ 「家族や親しい人たちとのコミュニケーションの時間の少なさが、色々な事にどうしてもいいやと思ってしまう気持ちを生み出しているような気がします。」
- ・ 「家庭で過ごす時間の減少は少子化の悪循環を促進させ、家族内コミュニケーションの減少、ストレスの増加は子供に対する虐待やDVの増加につながる。社会を良くする前に、家庭を見つめ直すような政策を行なってもらいたい。」
- ・ 「男女共同参画社会も大事だと思いますが、子供を持つ親に親の責任やあり方を教育する方が先だと思います。」

< その他 >

(市の行政全般について)

- ・ 「市が何かのため動く、必ず税金の無駄遣いと思われる事が多々ある。金を使わずできる事を、頭を使ってやってほしい。」
- ・ 「何度か、アンケートに答えた事がありますが、行政は少数意見に目を向けてくれないのが現状です。」

(アンケートについて)

- ・ 「このアンケートをとる意味が不明。アンケートの結果をどのように市政等に生かしていくのかが不明。」
- ・ 「男女共同参画社会を知るきっかけになりましたが、アンケートの作り方を、もっと工夫した方がいいと思います。」

(市役所の職員について)

- ・ 「こういうアンケートをするよりも市役所の職員の教育をもっと徹底した方がいい。」
- ・ 「議員の人数を削減し、その給料(税金)をまちづくり(市営住宅の建設や保育所の建設)に使ってほしい。」

下野市男女共同参画アンケート 自由回答のまとめ (154件回答)

分野	項目	件数	計
男女共同参画に対する意識(改革)	男女共同参画とは何か、よくわからない	11	48
	男女共同参画への意識付け(男性の意識改革を)	10	
	男女の性差の尊重	9	
	男女差別はある	6	
	男女共同参画の具体的な行動の提示	5	
	男女共同参画に反対	4	
	女性を自由にしすぎ(権利の主張ばかり)	3	
あらゆる分野での男女共同参画	育児休暇がない(男性も取得を)	7	18
	議員等の半数を女性に	4	
	女性の発言の機会を	3	
	仕事場での男女差別(賃金格差など)	2	
	家庭での役割の変動	1	
	男性の地域への進出もサポートを	1	
男女が安心して健康に暮らせるまちづくり	高齢者向け福祉・医療の充実	6	15
	家庭の和(コミュニケーション)づくりを、地域が閉鎖的	4	
	住みよい町に	2	
	高齢者の生きがいづくり(ボランティア支援)	1	
	在宅医療の充実	1	
	DV対策	1	
推進体制の整備	子育て支援、子どもができて働き続けられる環境づくり	27	70
	PRを(広報紙・パンフレットなど、詳細に)	18	
	行政の体制づくり:講座、勉強会	9	

	(行政の)企業への働きかけを	6	
	行政の体制づくり：人材育成	3	
	地域社会での環境づくり	3	
	行政の体制づくり：委員会	2	
	法律整備	1	
	行政の体制づくり：相談窓口	1	
その他	市の行政全般について	11	35
	アンケートについて(意味不明、くだらない等)	5	
	市役所の職員について(接客態度など)	3	
	もっと他にやることがあるのでは	3	
	行政が音頭をとってやることではない	2	
	祭りの維持(やりたい)	2	
	返答に困る(書きにくい)	2	
	アンケートに頼らないプラン作成を	2	
	道路の整備をしてほしい	2	
	長男の仕事を探してほしい	1	
	これの前に身近な暮らしのアンケートを	1	
	検診の場所・日程の増加を	1	
総計			186

参考資料 調査票

「下野市男女共同参画プラン策定に係るアンケート」ご協力のお願い

市民の皆さまには、日ごろより市政全般にわたり、ご理解・ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

このたび、男女の自立と男女共同参画社会の実現に向けたあらゆる施策の指針となる「男女共同参画プラン」を策定するにあたり、市民の皆さまのお考えやご意見をお聞きしたく、市民アンケート調査を実施することといたしました。

本アンケート調査は、市内にお住まいの18歳以上の方から2,000人(男性1,000人、女性1,000人)を抽出し、送付させていただいております。

調査結果はすべて統計処理され、回答者ご自身にご迷惑をおかけすることは一切ございませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

平成19年1月19日

下野市長 広瀬 寿雄

調査票の記入方法について

1. 宛名のご本人がお答えください。

2. 住所・氏名の記入は必要ありません。

3. 記入につきましては

鉛筆、ボールペン等で結構です。

回答に当てはまる項目を選び、その番号を○で囲んでください。「その他」を選んだ方は()内に、その内容を具体的にお書きください。

質問により、回答を1つだけ選んでいただくものと、複数選んでいただくものがあります。また、直接、ことば・文章でご記入いただくものもありますので、各設問にお示した方法でご回答ください。

4. ご記入いただきました調査票は、平成19年2月5日(月)までに、同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずにお出しください。

5. 記入方法や調査についてのお問い合わせは、下記までご連絡ください。

下野市役所 総務企画部企画財政課企画係 担当: 濱野、坂本

電話: 0285-40-5552 Fax: 0285-40-5572

E-mail: kikakuzaisei@city.shimotsuke.lg.jp

A 就労についておたずねします

問1 あなたは現在、何らかの仕事をしていますか。

男女にかかわらず、回答者の皆さま全員がお答えください。また、病気や出産、育児などで現在一時休業している場合も、仕事をしているものとしてお答えください。

1. 仕事をしている

2. 仕事をしていない

問1 -1 aにお進みください。

問1 -2にお進みください。

問1 - 1 a あなたが現在働いているのは、どのような理由からですか。次の中からあてはまるものを全て選んで○を付けてください。

- 1. 生計を維持するため
- 2. 家計の足しにするため
- 3. 借金の返済や将来に備えた貯蓄のため
- 4. 自分で自由に使えるお金を得るため
- 5. 生きがいを得るため
- 6. 人のネットワークを広げるため
- 7. 社会に貢献するため
- 8. 働くのが当然であるから
- 9. 家業であるため
- 10. その他(具体的に)
- 11. 特に理由はない

2 頁の「問1 - 1 b」にお答えの上、
3 頁の「問2」にお進みください。

問1 -2 あなたが現在働いていないのは、どのような理由からですか。あてはまるものを全て選んで○を付けてください。

- 1. 経済的に働く必要がないから
- 2. 家事の負担が大きいから
- 3. 育児の負担が大きいから
- 4. 親や病気の家族の世話をするため
- 5. 家にいるのが当然だから
- 6. 配偶者など家族が就労を望まないから
- 7. 希望の仕事が見つからないから
- 8. 社会に出たくないから
- 9. 時間的な余裕がないから
- 10. その他(具体的に)
- 11. 特に理由はない

3 頁の「問2」にお進みください。

問 1 で「1.仕事をしている」とお答えの方のみご回答ください。

問 1 - 1b あなたの職場では、男女の扱いが平等になっていると思いますか。

次の ~ の項目について、それぞれ1つずつ選び、その番号に○を付けてください。

項目	女性のほうが 非常に 優遇されている	どちらかと言えば 女性のほうが 優遇されている	平等になっている	どちらかと言えば 男性のほうが 優遇されている	男性のほうが 非常に 優遇されている	どちらとも言えない
募集や採用	1	2	3	4	5	6
職務内容	1	2	3	4	5	6
賃金	1	2	3	4	5	6
上司との関係	1	2	3	4	5	6
人事考課・評価	1	2	3	4	5	6
昇進・昇格	1	2	3	4	5	6
幹部職員への採用	1	2	3	4	5	6
教育訓練・研修	1	2	3	4	5	6
福利厚生	1	2	3	4	5	6
有給休暇の取得	1	2	3	4	5	6
退職・解雇	1	2	3	4	5	6

ここからは、全員お答えください。

問2 一般的に、女性が仕事を持つことについて、あなたはどうお考えですか。
あてはまるものを1つ選んで○を付けてください。

1. 結婚するまでは仕事を持つほうがよい
2. 子どもができるまでは仕事を持つほうがよい
3. 子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事を持つほうがよい
4. 子どもができたならパートなどに切り替えるほうがよい
5. 子どもができてフルタイムで仕事を続けるほうがよい
6. 女性は仕事を持たないほうがよい
7. その他(具体的に)

問3 女性が職場で能力を発揮するためにどのようなことが最も重要だと思いますか。
次の中から1つ選んで○を付けてください。

1. 能力主義による人事管理
2. 女性の能力開発のための研修
3. 女性の部下を持つ上司に対する研修
4. 女性自らの技能・資格の取得
5. 男性の意識改革のための研修
6. 女性の意識改革のための研修
7. 仕事と家庭を両立させるための制度
8. 分からない
9. その他(具体的に)

B 生活全般についておたずねします

問4 - 1 あなたのご家庭では、以下に挙げる家事は主にどなたの役割ですか。

次の ~ の項目について、それぞれ1つずつ選び、その番号に○を付けてください。

項 目	主に自分の役割	主に配偶者の役割	自分と配偶者で分担	主に自分と配偶者以外の家族(男性)の役割	主に自分と配偶者以外の家族(女性)の役割	家族全員で分担	家族以外の人	特に決まっていない	該当事項がない
(例) 食事の準備	1	2	③	4	5	6	7	8	9
食事の準備	1	2	3	4	5	6	7	8	9
食事の後かたづけ	1	2	3	4	5	6	7	8	9
掃除	1	2	3	4	5	6	7	8	9
洗濯	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ゴミ出し	1	2	3	4	5	6	7	8	9
日常の買い物	1	2	3	4	5	6	7	8	9
高額な商品の購入	1	2	3	4	5	6	7	8	9
家計の管理	1	2	3	4	5	6	7	8	9
預貯金などの管理	1	2	3	4	5	6	7	8	9
育児・しつけ	1	2	3	4	5	6	7	8	9
子どもの教育方針 (進学・習い事など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
家族の世話・介護	1	2	3	4	5	6	7	8	9
家具等の修理	1	2	3	4	5	6	7	8	9
地域活動への参加	1	2	3	4	5	6	7	8	9

問4 - 2 問4 - 1の項目のうち、「自分と配偶者で分担」または「家族全員で分担」が望ましいと思うものはどれですか。

~ の項目から、**最大5つまで**選んで()の番号を記入してください。

問4 - 1で「自分と配偶者で分担」または「家族全員で分担」と答えた項目を選んでいただいてもかまいません。

~ の中から

お選びください。

(例)

(12)

問5 あなたは子どもの育て方についてどのように思いますか。

あなたのお考えに最も近いものを 1つ 選び、○を付けてください。

子どもがいらっしゃる方、またすでに養育が終わられた方も、「子どもを育てるとしたら」としてお答えください。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1．女の子も経済的自立ができるように、男の子も家事ができるように育てるのがよい2．男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい3．男女関係なく、子どもの個性に応じて育てるのがよい |
|--|

問6 あなたは、子育てにおける父親と母親の役割の違いについてどうお考えですか。

あてはまるものを 1つ 選び、○を付けてください。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1．全く同じである2．ほとんど変わらない3．どちらともいえない4．どちらかといえば異なる5．全く異なる |
|---|

問7 育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取ることに、あなたはどうか
お考えですか。あてはまるものを1つ選び、○を付けてください。

現在取得する予定がない方も、将来取る必要が生じた場合としてお答えください。

- 1．積極的に取りたい
- 2．どちらかというに取りたい
- 3．どちらとも言えない
- 4．取りたいが、取れる環境にない
- 5．どちらかというに取りたくない
- 6．取りたくない
- 7．仕事をしていないので取る機会がない

問8 今後、男性も女性もともに、家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するため
には、どのようなことがもっとも重要だと思いますか。

次の中から1つ選び、○を付けてください。

- 1．労働時間の短縮や休暇制度の普及などにより、仕事優先の考え方を見直す
- 2．夫婦間や家族間でコミュニケーションをとる
- 3．男性が家事や育児等に関わることへの抵抗感をなくす
- 4．男性も女性もともに育児や介護、地域活動等を担うための地域のネットワーク作り
- 5．家族で参加できる、生活と仕事の両立を応援する講座
- 6．家庭や地域での生活と仕事の両立の問題について相談できる窓口
- 7．その他（ ）
- 8．特に必要なことはない

C 男女が安心して健康に暮らせる環境についておたずねします

問9 あなたは次にあげる行為が、ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人など親密な関係にある（あった）パートナーからの暴力）にあたると知っていますか。それぞれの項目について、いずれか1つに○を付けてください。

項 目	DVだと 知っている	DVだと 知らなかった
殴る、蹴る、物を投げつける	1	2
殴るそぶりや物を投げるそぶりをして脅す	1	2
「誰に食わせてもらっているんだ」などと言う	1	2
避妊に協力しない	1	2
生活費を渡さない	1	2
働きに行かせない	1	2
外出や電話を細かくチェックする	1	2

問10 あなたは、問9であげたようなドメスティック・バイオレンスを経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。
あてはまるもの全てを選び、○を付けてください。

- 1．暴力を受けたことがある
- 2．暴力をふるったことがある
- 3．身近に暴力を受けた当事者がいる
- 4．身近な人から相談を受けたことがある
- 5．テレビや新聞などで問題になっていることは知っている
- 6．見聞きしたことはなく、初めて知った
- 7．その他（ ）

問11 ドメスティック・バイオレンスを防ぐために、どのような取り組みがもっとも重要だと思いますか。次の中から1つ選び、○を付けてください。

- 1．被害者が援助を求めやすくするため、情報提供体制を充実させる
- 2．家庭・学校における人権やDVについての教育を充実させる
- 3．被害者が家庭内のことを打ち明けられる相談体制を整備する
- 4．加害者に対するカウンセリングやサポートを充実させる
- 5．被害から逃れるための一時保護施設を設ける
- 6．特に対応する必要はない
- 7．その他（ ）
- 8．分からない

D 男女共同参画に対する意識についておたずねします

問 12 あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どうお考えになりますか。あてはまるものを 1つ 選び、○を付けてください。

- 1．賛成である
- 2．どちらかといえば賛成である
- 3．どちらとも言えない
- 4．どちらかと言えば反対である
- 5．反対である

問 13 あなたは、次にあげる男女共同参画に関する言葉や内容を知っていますか。それぞれの項目について、あてはまるものを 1つ 選び、○を付けてください。

項 目	よく知っている	多少は内容(中身)を知っている	名称(言葉)は聞いたことがある	まったく知らない
男女共同参画社会	1	2	3	4
男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
男女雇用機会均等法	1	2	3	4
女子差別撤廃条約	1	2	3	4
育児・介護休業法	1	2	3	4
配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(ＤＶ防止法)	1	2	3	4

E 市(行政)に要望する方策についておたずねします

問 14 あなたが市（行政）に相談したいと思うことを、次の中から最大3つまで選んで、○を付けてください。

- 1 . 夫婦の問題に関する事
- 2 . 子育てや幼児虐待に関する事
- 3 . 子どもの教育に関する事
- 4 . 障がいをもつ子どもに関する事
- 5 . 介護に関する事
- 6 . 家庭内暴力（DV含む）に関する事
- 7 . セクシャル・ハラスメントに関する事
- 8 . ストーカー行為に関する事
- 9 . 家計に関する事
10. 税金や年金に関する事
11. 職場の人間関係・労働環境に関する事
12. その他（具体的に _____ ）
13. 特にない

問 15 男女共同参画社会を形成するため、今後、市（行政）はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

次の中からあてはまるものを最大3つまで選び、○を付けてください。

- 1 . 市の条例化などを促進し、具体的な実践目標を定める
- 2 . 広報紙やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力について PR する
- 3 . 学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解についての学習を充実させる
- 4 . 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・サービスを充実させる
- 5 . ひとり親家庭に対する自立支援を徹底する
- 6 . ドメスティック・バイオレンス等に関する相談窓口や保護機関を設置する
- 7 . 職場における男女の均等な取り扱いについて、周知徹底させる
- 8 . 審議会など政策・方針決定過程に女性を積極的に登用する
- 9 . リーダーの養成など女性の人材育成を推進する
10. 各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する
11. その他（具体的に _____ ）

F あなた自身のことについておたずねします

問 16 あなたの性別をお答えください。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問 17 あなたの年齢をお答えください。

- | | | |
|----------|---------|----------|
| 1. 29歳以下 | 2. 30歳代 | 3. 40歳代 |
| 4. 50歳代 | 5. 60歳代 | 6. 70歳以上 |

問 18 あなたは結婚していますか。

- | | |
|-------------------|------------|
| 1. 結婚している | 2. 結婚していない |
| 3. 結婚していたが離別・死別した | |

問 19 あなたの家族構成についてお答えください。

- | | | |
|-----------------|----------------|---------------|
| 1. ひとり暮らし(単身世帯) | 2. 夫婦だけ(1世代世帯) | 3. 親と子(2世代世帯) |
| 4. 親と子と孫(3世代世帯) | 5. その他() | |

問 20 あなたは子どもがいらっしゃいますか。

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 子どもがいる | 2. 子どもはいない |
|-----------|------------|

問 21 あなたの職業をお答えください。

- | | | |
|------------|------------|--------------|
| 1. 勤め人(常勤) | 2. 自営業・家業 | 3. パート・アルバイト |
| 4. 学生 | 5. 専業主婦(夫) | 6. 無職 |
| 7. その他() | | |

問 22 あなたがお住まいの地区をお答えください。

- | | | |
|----------|---------|----------|
| 1. 南河内地区 | 2. 石橋地区 | 3. 国分寺地区 |
|----------|---------|----------|

G ご自由に記入してください

問 23 男女共同参画社会の実現に向けたまちづくりについて、ご意見、ご要望などがございましたら、ご自由に記入してください。

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

この調査票を同封の返信用封筒に入れ、平成19年2月5日(月)までにポストにご投函ください(切手を貼る必要はありません)。

～ ご協力ありがとうございました。～